

第 3 章

対象事業実施区域及びその周囲の概況

第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

対象事業実施区域及びその周囲における自然的状況及び社会的状況（以下「地域特性」という。）については、環境要素の区分ごとに事業特性を踏まえ、「第8章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法」を検討するに当たり必要と考えられる範囲を対象に、入手可能な最新の文献その他の資料により情報を把握した。

主な調査地域は、対象事業実施区域が位置する北九州市のうち小倉北区、戸畑区、若松区、門司区とし、環境要素毎に影響を受けるおそれがあると考えられる範囲を勘案して設定した。

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境の状況

(1) 気象の状況

① 気候特性

対象事業実施区域が位置する北九州市は瀬戸内海（周防灘）及び日本海（響灘）に面して、その気候は瀬戸内海気候と日本海気候の中間的な傾向を示している。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

② 気象概要

対象事業実施区域の周囲の気象観測所として、北東約8kmに下関地方気象台、南西約12kmに八幡地域気象観測所があり、また、南南東約3kmに小倉局（北九州市 一般環境大気測定局）がある。月別平年値等は第3.1-1表及び第3.1-2表、気象台及び観測所の位置及び風配図は第3.1-1図のとおりである。

1991～2020年の30年間の下関地方気象台における年間平均気温は17.0℃、年間降水量は1,712.3mm、年間平均風速は3.1m/s、年間最多風向は東、同期間の八幡地域気象観測所における年間平均気温は16.6℃、年間降水量は1,720.5mm、年間平均風速は2.1m/s、年間最多風向は南南西となっている。

令和5年度における小倉局の月別平均風速及び月別最多風向は第3.1-2表のとおりであり、年間最多風向は南南東、年間平均風速は1.8m/sとなっている。

第3.1-1表 下関地方気象台、八幡地域気象観測所の気象概要（月別平年値）

	月			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年
	項目															
下関地方気象台	気温	平 均	℃	7.2	7.5	10.3	14.7	19.1	22.5	26.5	27.9	24.6	19.7	14.5	9.5	17.0
		日最高の平均	℃	9.7	10.5	13.7	18.4	22.7	25.8	29.7	31.3	27.8	23.0	17.5	12.3	20.2
		日最低の平均	℃	4.8	4.9	7.4	11.6	16.2	20.1	24.2	25.6	22.2	16.9	11.8	7.0	14.4
	相対湿度		%	63	63	65	67	70	78	79	75	73	67	66	63	69
	降 水 量		mm	80.0	75.9	121.2	130.8	154.2	253.6	309.4	190.0	162.6	83.7	81.9	69.1	1,712.3
	日照時間		h	95.8	116.1	162.9	187.6	207.1	146.6	172.4	207.2	161.9	176.3	134.7	102.6	1,875.9
	平均風速		m/s	4.0	3.6	3.4	3.2	3.0	2.6	2.7	2.7	2.6	2.7	3.0	3.8	3.1
	最多風向		—	東	東	東	東	東	東	東	東南東	東	東	東	東	東
八幡地域気象観測所	気温	平 均	℃	6.2	6.9	10.0	14.7	19.3	22.7	26.8	27.8	24.0	18.8	13.3	8.3	16.6
		日最高の平均	℃	9.8	10.9	14.4	19.6	24.2	27.0	30.7	31.9	28.1	23.2	17.7	12.2	20.8
		日最低の平均	℃	2.8	3.2	5.9	10.2	14.9	19.3	23.7	24.6	20.6	14.8	9.3	4.7	12.8
	相対湿度		%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降 水 量		mm	87.9	79.2	114.2	125.4	142.9	239.5	314.6	198.1	165.9	85.2	91.8	75.9	1,720.5
	日照時間		h	101.8	113.2	159.5	188.6	205.0	139.2	167.6	196.2	159.8	170.5	131.5	102.9	1,835.7
	平均風速		m/s	2.3	2.2	2.3	2.3	2.1	2.0	2.3	2.2	1.9	1.8	1.9	2.2	2.1
	最多風向		—	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西	南南西

注：1. 統計期間は、1991～2020年の30年間である。

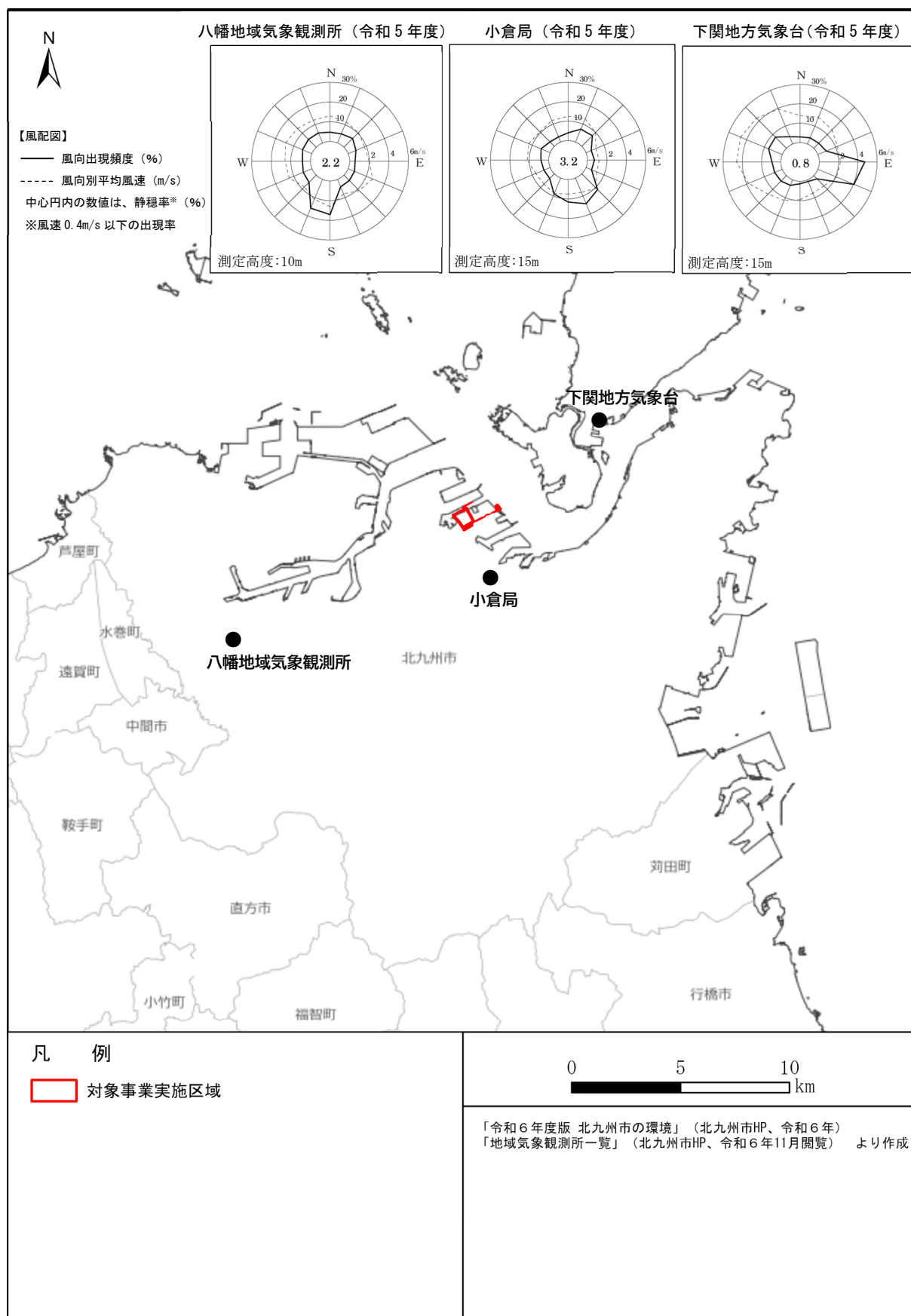
2. 八幡地域気象観測所では、相対湿度は観測されていない。

「気象統計情報 平年値（年・月ごとの値）」（気象庁HP、令和6年11月閲覧）より作成

第 3. 1-2 表 小倉局の月別平均風速及び月別最多風向（小倉局：令和 5 年度）

月		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	全年
項目														
平均風速	m/s	1. 9	1. 6	2. 0	2. 0	1. 7	1. 5	1. 7	2. 1	1. 6	1. 7	2. 0	2. 1	1. 8
最多風向 (出現頻度)	— (%)	南南東 (13)	南南東 (13)	北東 (11)	南南東 (15)	北北東 (12)	南 (14)	南南西 (19)	南東 (25)	南南東 (16)	南南東 (21)	南南東 (18)	南南東 (14)	南南東 (14)

注：統計期間は、2023 年 4 月～2024 年 3 月の 1 年間である。
「北九州市環境局環境監視部環境監視課資料」（北九州市、令和 6 年）より作成



第 3.1-1 図 気象観測所の位置及び風配図

(2) 大気質の状況

① 大気汚染発生源の状況

北九州市における「大気汚染防止法」（昭和 43 年法律第 97 号）等に基づく工場等の令和 5 年度の届出状況は、第 3.1-3 表のとおりであり、ばい煙発生施設が 560 事業場、一般粉じん発生施設が 89 事業場、特定粉じん排出等作業が 91 事業場、揮発性有機化合物排出施設が 11 事業場、水銀排出施設が 23 事業場、ダイオキシン類対策特別措置法（大気）が 28 事業場となっている。

第 3.1-3 表 大気汚染防止法等に基づく工場等の届出状況（令和 5 年度）

	種 別	事業場数
大気汚染防止法等	ばい煙発生施設	560
	一般粉じん発生施設	89
	特定粉じん排出等作業	91
	揮発性有機化合物排出施設	11
	水銀排出施設	23
ダイオキシン類対策特別措置法（大気）		28

注：1. 令和 6 年 3 月 31 日現在の届出状況を示す。

2. 大気汚染防止法等の事業場数は、電気事業法及びガス事業法並びに鉱山保安法に該当する施設を含む。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成

② 大気質の状況

対象事業実施区域を中心とする半径 20km の範囲（以下「20km 圏内」という。）には、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）が 17 局、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）が 4 局あり、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質等の年間連続測定が行われている。また、有害大気汚染物質については 4 地点、ダイオキシン類については 4 地点で測定が行われている。

大気質測定局の測定項目等の概要は第 3.1-4 表、大気質測定局の位置は第 3.1-2 図のとおりである。

第 3. 1-4 表 大気質測定局の測定項目等の概要（令和 5 年度）

種 別	市 町 村	図 中 番 号	測 定 局 名	用 途 地 域	設 置 主 体	測定項目							
						二 酸 化 硫 黄	二 酸 化 窒 素	一 酸 化 炭 素	浮 遊 粒 子 状 物 質	光 化 学 オ キ シ ダ ン ト	微 小 粒 子 状 物 質	有 害 大 気 汚 染 物 質	ダ イ オ キ シ ン 類
						SO ₂	NO ₂	CO	SPM	Ox	PM2.5		
一 般 局	北九州市門司区	1	門司	住	北	○	○			○			
		2	松ヶ江	未	北		○		○	○	○		○
	北九州市小倉北区	3	小倉	商	北		○			○			
		4	北九州	住	北	○	○	○	○	○	○	○	
	北九州市小倉南区	5	曽根	住	北	○	○		○	○	○		
		6	企救丘	住	北		○		○	○	○	○	○
	北九州市若松区	7	若松	住	北	○	○		○	○	○	○	○
		8	江川	住	北		○		○	○	○		
		9	若松ひびき	準工	北	○	○		○	○	○		
	北九州市八幡東区	10	八幡	商	北	○	○			○			
	北九州市八幡西区	11	黒崎	商	北	○	○		○	○	○		○
		12	塔野	住	北		○		○	○	○		
	北九州市戸畑区	13	戸畑	商	北	○	○		○	○	○		
	荏田町富久町	14	荏田	住	県	○	○		○	○	○		
	山口県下関市	15	彦島	住	下	○	○		○	○	○		
		16	山の田	住	下	○	○		○	○	○		
		17	長府	住	下	○	○	○	○		○		
測定局数（一般局）						12	17	2	14	16	14	3	4
自 排 局	北九州市門司区	18	門司港自排局	住	北		○	○	○	○	○		
	北九州市小倉北区	19	三萩野自排局	商	北		○		○				
	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	商	北		○		○		○	○	
	北九州市八幡西区	21	黒崎自排局	商	北		○	○	○				
測定局数（自排局）						0	4	2	4	1	2	1	0

注：1. 図中番号は、第 3. 1-2 図中の番号に対応する。

2. ゴシック体の測定局は、10km 圏内の測定局を示す。

3. 用途地域は、「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条に定める地域の用途区分を示す。

住；住居専用地域、住居地域及び準住居地域 商；近隣商業地域及び商業地域 準工；準工業地域

未；未指定地域

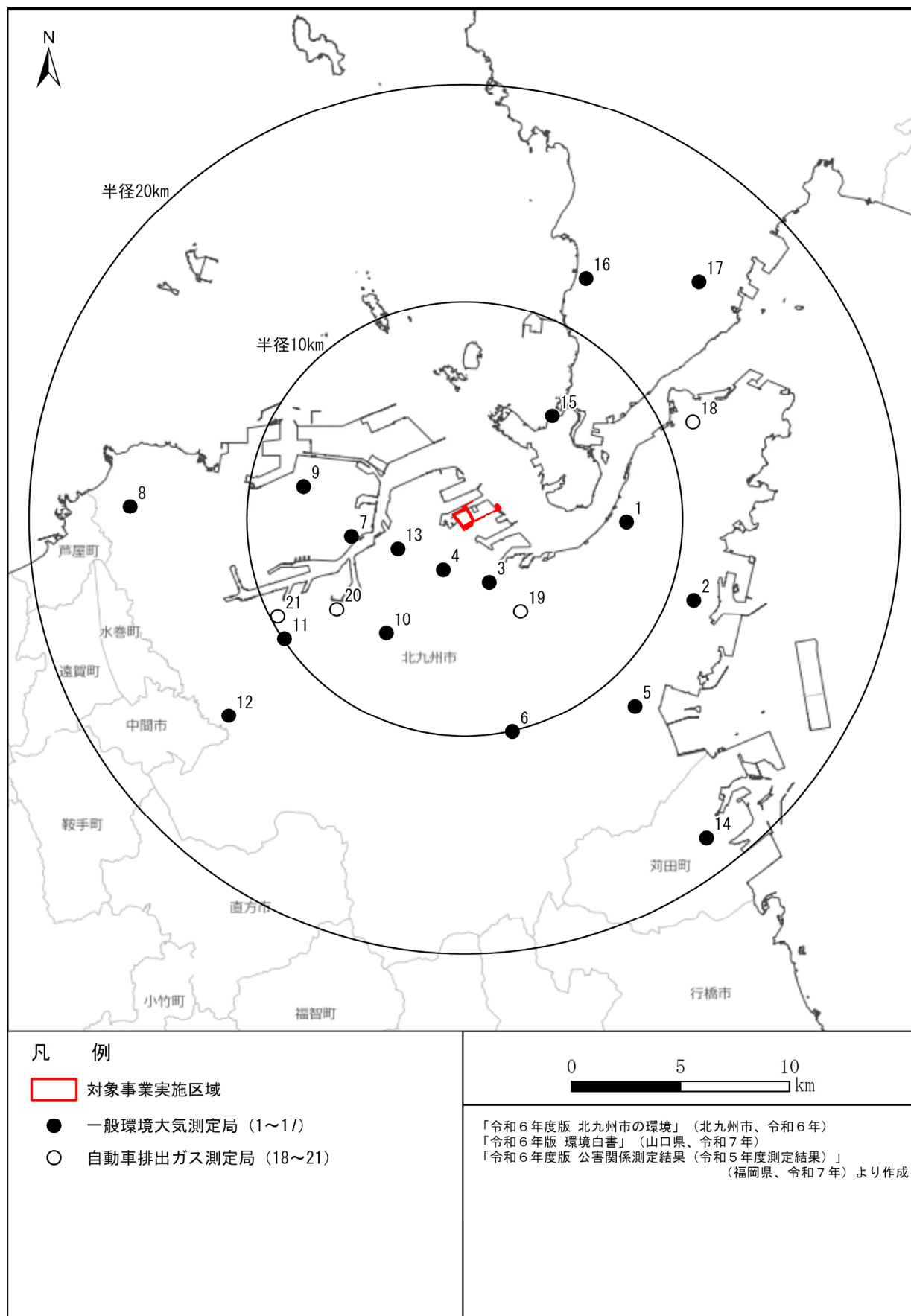
4. 設置主体の「県」は福岡県、「北」は北九州市、「下」は山口県下関市を示す。

「令和 6 年度版 公害関係測定結果（令和 5 年度測定結果）」（福岡県、令和 7 年）

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）

「令和 6 年版 環境白書」（山口県、令和 7 年）

より作成



第 3.1-2 図 大気質測定局の位置

イ．二酸化硫黄（SO₂）

20km 圏内における二酸化硫黄の測定は、一般局 12 局で行われており、令和 5 年度における二酸化硫黄の測定結果は第 3.1-5 表のとおりである。

年平均値は 0.001～0.002ppm、1 時間値の最高値は 0.008～0.037ppm、日平均値の 2 % 除外値は 0.002～0.004ppm となっており、環境基準の適合状況は、短期的評価*¹、長期的評価*²とも全ての測定局で適合している。また、対象事業実施区域を中心とする半径 10km の範囲（以下「10km 圏内」という。）にある一般局 8 局の令和元～5 年度（5 年間）における二酸化硫黄（年平均値）の経年変化は、第 3.1-6 表及び第 3.1-3 図のとおりであり、ほぼ横ばい傾向となっている。

*¹ 環境基準の短期的評価：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

*² 環境基準の長期的評価：1 日平均値の年間 2 % 除外値が 0.04ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-5 表 二酸化硫黄の測定結果（令和 5 年度）

種別	市町村	図中番号	測定局	用途地域	年平均値	1 時間値の最高値	環境基準の評価						
							1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数	日平均値が 0.04ppm を超えた日数	短期的評価	日平均値の 2 % 除外値	日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.04ppm を超えた日数	長期的評価
					(ppm)	(ppm)	(時間)	(日)		(ppm)		(日)	
一般局	北九州市門司区	1	門司	住	0.001	0.008	0	0	○	0.003	無	0	○
	北九州市小倉北区	4	北九州	住	0.001	0.013	0	0	○	0.003	無	0	○
	北九州市小倉南区	5	曾根	住	0.001	0.011	0	0	○	0.002	無	0	○
	北九州市若松区	7	若松	住	0.001	0.018	0	0	○	0.004	無	0	○
		9	若松ひびき	準工	0.001	0.014	0	0	○	0.004	無	0	○
	北九州市八幡東区	10	八幡	商	0.001	0.009	0	0	○	0.003	無	0	○
	北九州市八幡西区	11	黒崎	商	0.001	0.012	0	0	○	0.002	無	0	○
	北九州市戸畑区	13	戸畑	商	0.001	0.011	0	0	○	0.003	無	0	○
	苅田町富久町	14	苅田	住	0.001	0.008	0	0	○	0.002	無	0	○
	山口県下関市	15	彦島	住	0.002	0.037	0	0	○	0.004	無	0	○
		16	山の田	住	0.001	0.013	0	0	○	0.003	無	0	○
		17	長府	住	0.001	0.008	0	0	○	0.003	無	0	○

注：1．図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。

2．ゴシック体の測定局は、10km 圏内の測定局を示す。

3．用途地域は、「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条に定める地域の用途区分を示す。

住；住居専用地域、住居地域及び準住居地域 商；近隣商業地域及び商業地域 準工；準工業地域

4．「環境基準の評価」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和 6 年度版 公害関係測定結果（令和 5 年度測定結果）」（福岡県、令和 7 年）

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）

「令和 6 年版 環境白書」（山口県、令和 7 年）より作成

第 3.1-6 表 二酸化硫黄（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

（単位：ppm）

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	北九州市門司区	1	門司	0.003	0.002	0.002	0.002	0.001
	北九州市小倉北区	4	北九州	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001
	北九州市若松区	7	若松	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001
		9	若松ひびき	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001
	北九州市八幡東区	10	八幡	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001
	北九州市八幡西区	11	黒崎	0.001	0.001	0.001	0.000	0.001
	北九州市戸畑区	13	戸畑	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
	山口県下関市	15	彦島	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002

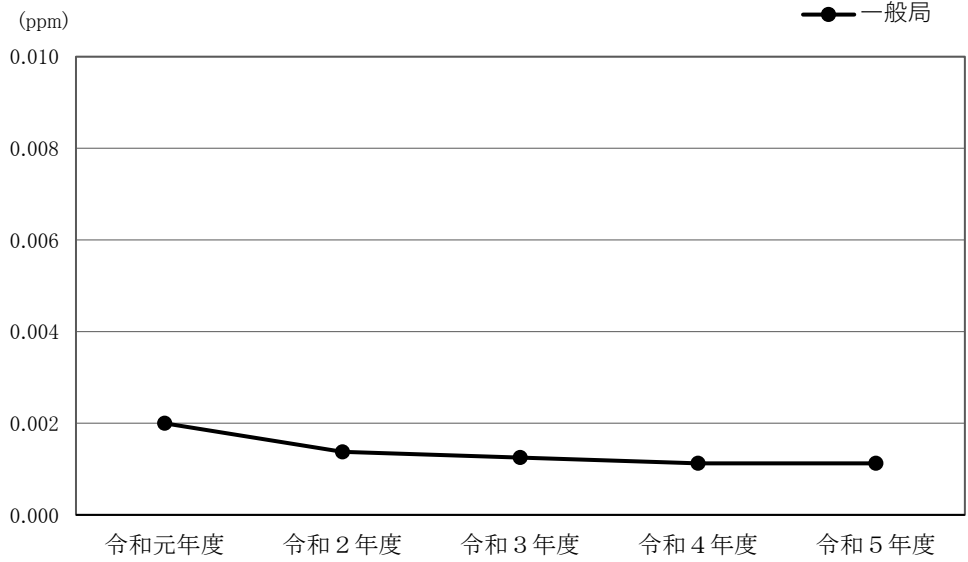
注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。

2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）

「令和6年版 環境白書」（山口県、令和7年）

より作成



注：10km 圏内の測定局の年平均値の平均を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）

「令和6年版 環境白書」（山口県、令和7年）

より作成

第 3.1-3 図 二酸化硫黄（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

ロ．二酸化窒素（NO₂）

20km 圏内における二酸化窒素の測定は、一般局 17 局、自排局 4 局で行われており、令和 5 年度における二酸化窒素の測定結果は、第 3.1-7 表のとおりである。

一般局では年平均値は 0.006～0.013ppm、1 時間値の最高値は 0.043～0.070ppm、日平均値の年間 98%値は 0.014～0.026ppm であり、自排局では年平均値は 0.010～0.018ppm、1 時間値の最高値は 0.039～0.061ppm、日平均値の年間 98%値は 0.018～0.031ppm となっており、環境基準*の適合状況は、全ての測定局で適合している。また、10km 圏内にある一般局 10 局と自排局 3 局の令和元～5 年度（5 年間）における二酸化窒素（年平均値）の経年変化は、第 3.1-8 表及び第 3.1-4 図のとおりであり、ほぼ横ばい傾向となっている。

* 環境基準の評価：1 日平均値の年間 98%値が 0.06ppm を超えないこと。

第 3.1-7 表 二酸化窒素の測定結果（令和 5 年度）

種別	市町村	図中番号	測定局	用途地域	年平均値	1 時間値 の 最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた 日数	日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下 の日数	環境基準の評価		
									日平均値の 年間 98%値	98%値 評価に よる 日平均値が 0.06ppm を超えた 日数	評価
					(ppm)	(ppm)	(日)	(日)	(ppm)	(日)	
一般局	北九州市門司区	1	門司	住	0.011	0.059	0	0	0.023	0	○
		2	松ヶ江	未	0.012	0.055	0	0	0.026	0	○
	北九州市小倉北区	3	小倉	商	0.012	0.054	0	0	0.025	0	○
		4	北九州	住	0.011	0.054	0	0	0.023	0	○
	北九州市小倉南区	5	曾根	住	0.010	0.056	0	0	0.022	0	○
		6	企救丘	住	0.009	0.053	0	0	0.022	0	○
	北九州市若松区	7	若松	住	0.013	0.054	0	0	0.026	0	○
		8	江川	住	0.007	0.051	0	0	0.017	0	○
		9	若松ひびき	準工	0.010	0.054	0	0	0.023	0	○
	北九州市八幡東区	10	八幡	商	0.009	0.053	0	0	0.021	0	○
	北九州市八幡西区	11	黒崎	商	0.008	0.049	0	0	0.021	0	○
		12	塔野	住	0.006	0.053	0	0	0.014	0	○
	北九州市戸畑区	13	戸畑	商	0.010	0.051	0	0	0.023	0	○
	荏田町富久町	14	荏田	住	0.010	0.069	0	0	0.025	0	○
	山口県下関市	15	彦島	住	0.011	0.070	0	0	0.025	0	○
		16	山の田	住	0.008	0.043	0	0	0.018	0	○
		17	長府	住	0.010	0.046	0	0	0.022	0	○
自排局	北九州市門司区	18	門司港自排局	住	0.010	0.039	0	0	0.018	0	○
	北九州市小倉北区	19	三萩野自排局	商	0.016	0.061	0	0	0.030	0	○
	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	商	0.013	0.050	0	0	0.027	0	○
	北九州市八幡西区	21	黒崎自排局	商	0.018	0.060	0	0	0.031	0	○

注：1．図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。

2．ゴシック体の測定局は、10km 圏内の測定局を示す。

3．用途地域は、「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条に定める地域の用途区分を示す。
住；住居専用地域、住居地域及び準住居地域 商；近隣商業地域及び商業地域 準工；準工業地域
未；未指定地域

4．「環境基準の評価」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和 6 年度版 公害関係測定結果（令和 5 年度測定結果）」（福岡県、令和 7 年）

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）

「令和 6 年版 環境白書」（山口県、令和 7 年）より作成

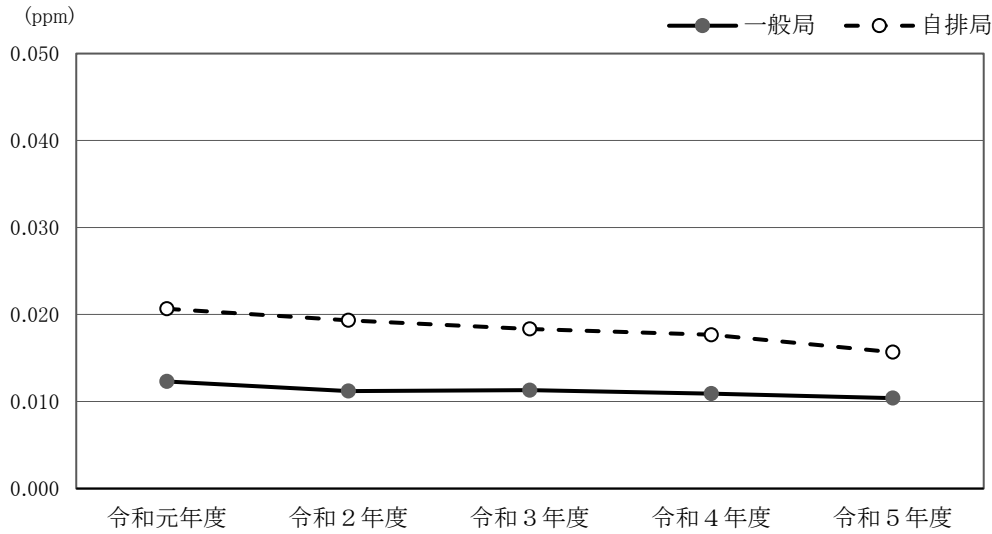
第 3.1-8 表 二酸化窒素（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

（単位：ppm）

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	北九州市門司区	1	門司	0.013	0.012	0.012	0.011	0.011
	北九州市小倉北区	3	小倉	0.014	0.013	0.013	0.012	0.012
		4	北九州	0.013	0.012	0.012	0.011	0.011
	北九州市小倉南区	6	企救丘	0.012	0.011	0.010	0.010	0.009
	北九州市若松区	7	若松	0.013	0.012	0.013	0.013	0.013
		9	若松ひびき	0.010	0.009	0.010	0.009	0.010
	北九州市八幡東区	10	八幡	0.011	0.010	0.010	0.010	0.009
	北九州市八幡西区	11	黒崎	0.010	0.009	0.009	0.008	0.008
	北九州市戸畑区	13	戸畑	0.014	0.013	0.013	0.013	0.010
	山口県下関市	15	彦島	0.013	0.011	0.011	0.012	0.011
自排局	北九州市小倉北区	19	三萩野自排局	0.019	0.020	0.017	0.017	0.016
	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	0.019	0.017	0.016	0.015	0.013
	北九州市八幡西区	21	黒崎自排局	0.024	0.021	0.022	0.021	0.018

注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。
2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）
「令和6年版 環境白書」（山口県、令和7年）より作成



注：10km 圏内の測定局の年平均値の平均を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）
「令和6年版 環境白書」（山口県、令和7年）より作成

第 3.1-4 図 二酸化窒素（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

ハ. 一酸化炭素 (CO)

20km 圏内における一酸化炭素の測定は、一般局 2 局、自排局 2 局で行われており、令和 5 年度における一酸化炭素の測定結果は、第 3.1-9 表のとおりである。

一般局では年平均値は 0.3ppm、1 時間値の最高値は 1.1～1.5ppm、日平均値の 2 % 除外値は 0.4～0.5ppm であり、自排局では年平均値は 0.3～0.4ppm、1 時間値の最高値は 1.0～1.3ppm、日平均値の 2 % 除外値は 0.5ppm となっており、環境基準の適合状況は、短期的評価*¹、長期的評価*²とも全ての測定局で適合している。また、10km 圏内にある一般局 1 局と自排局 1 局の令和元～5 年度（5 年間）における一酸化炭素の経年変化（年平均値）は、第 3.1-10 表及び第 3.1-5 図のとおりであり、ほぼ横ばい傾向となっている。

*¹ 環境基準の短期的評価：1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。

*² 環境基準の長期的評価：1 日平均値の年間 2 % 除外値が 10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-9 表 一酸化炭素の測定結果（令和 5 年度）

種別	市町村	図中番号	測定局	用途地域	年平均値	1 時間値の最高値	環境基準の評価					
					(ppm)	(ppm)	8 時間値が 20ppm を超えた回数	日平均が 10ppm を超えた日数	短期的評価	日平均値の 2% 除外値	日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	長期的評価
一般局	北九州市小倉北区	4	北九州	住	0.3	1.5	0	0	○	0.5	無	○
	山口県下関市	17	長府	住	0.3	1.1	0	0	○	0.4	無	○
自排局	北九州市門司区	18	門司港自排局	住	0.3	1.0	0	0	○	0.5	無	○
	北九州市八幡西区	21	黒崎自排局	商	0.4	1.3	0	0	○	0.5	無	○

注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。

2. **ゴシック体**の測定局は、10km 圏内の測定局を示す。

3. 用途地域は、「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条に定める地域の用途区分を示す。
住；住居専用地域、住居地域及び準住居地域 商；近隣商業地域及び商業地域

4. 「環境基準の評価」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）
「令和 6 年版 環境白書」（山口県、令和 7 年）より作成

第 3.1-10 表 一酸化炭素（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

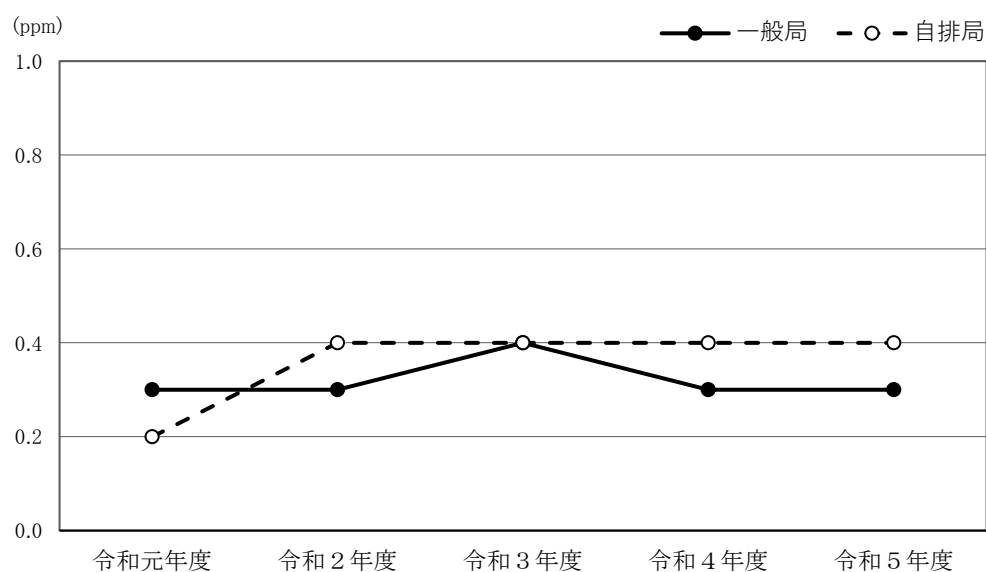
（単位：ppm）

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	北九州市小倉北区	4	北九州	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3
自排局	北九州市八幡西区	21	黒崎自排局	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4

注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。

2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成



注：10km 圏内の測定局の年平均値の平均を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

第 3.1-5 図 一酸化炭素（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

二．浮遊粒子状物質（SPM）

20km 圏内における浮遊粒子状物質の測定は、一般局 14 局、自排局 4 局で行われており、令和 5 年度における浮遊粒子状物質の測定結果は、第 3.1-11 表のとおりである。

一般局では年平均値は 0.012～0.017 mg/m³、1 時間値の最高値は 0.081～0.385 mg/m³、日平均値の 2 %除外値は 0.027～0.038 mg/m³ であり、自排局では年平均値は 0.016～0.020 mg/m³、1 時間値の最高値は 0.110～0.128 mg/m³、日平均値の 2 %除外値は 0.033～0.043 mg/m³ となっている。環境基準の適合状況は、短期的評価*¹ は若松局及び山の田局を除く 16 局で適合、長期的評価*² は全ての測定局で適合している。また、10km 圏内にある一般局 7 局と自排局 3 局の令和元～5 年度（5 年間）における浮遊粒子状物質（年平均値）の経年変化は、第 3.1-12 表及び第 3.1-6 図のとおりであり、ほぼ横ばい傾向となっている。

*¹ 環境基準の短期的評価：1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

*² 環境基準の長期的評価：1 日平均値の年間 2 %除外値が 0.10mg/m³ 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-11 表 浮遊粒子状物質の測定結果（令和 5 年度）

種別	市町村	図中番号	測定局	用途地域	年平均値 (mg/m ³)	1 時間値 の最高値 (mg/m ³)	環境基準の評価					
							1 時間値が 0.20mg/m ³ を超えた 時間数	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日数	短 期 的 評 価	日平均値の 2% 除外値 (mg/m ³)	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日が 2 日以上連続 したことの 有無	長 期 的 評 価
一般局	北九州市門司区	2	松ヶ江	未	0.017	0.118	0	0	○	0.038	無	○
	北九州市小倉北区	4	北九州	住	0.016	0.116	0	0	○	0.037	無	○
	北九州市小倉南区	5	曾根	住	0.015	0.090	0	0	○	0.032	無	○
		6	企救丘	住	0.014	0.081	0	0	○	0.031	無	○
	北九州市若松区	7	若松	住	0.017	0.206	1	0	×	0.037	無	○
		8	江川	住	0.015	0.087	0	0	○	0.034	無	○
		9	若松ひびき	準工	0.016	0.111	0	0	○	0.038	無	○
	北九州市八幡西区	11	黒崎	商	0.014	0.136	0	0	○	0.032	無	○
		12	塔野	住	0.013	0.106	0	0	○	0.030	無	○
	北九州市戸畑区	13	戸畑	商	0.017	0.112	0	0	○	0.035	無	○
	荏田町富久町	14	荏田	住	0.015	0.106	0	0	○	0.035	無	○
	山口県下関市	15	彦島	住	0.014	0.086	0	0	○	0.031	無	○
		16	山の田	住	0.013	0.385	1	0	×	0.034	無	○
		17	長府	住	0.012	0.083	0	0	○	0.027	無	○
自排局	北九州市門司区	18	門司港自排局	住	0.017	0.118	0	0	○	0.038	無	○
	北九州市小倉北区	19	三萩野自排局	商	0.016	0.128	0	0	○	0.033	無	○
	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	商	0.017	0.110	0	0	○	0.036	無	○
	北九州市八幡西区	21	黒崎自排局	商	0.020	0.127	0	0	○	0.043	無	○

注：1．図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。

2．ゴシック体の測定局は、10km 圏内の測定局を示す。

3．用途地域は、「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条に定める地域の用途区分を示す。

住；住居専用地域、住居地域及び準住居地域 商；近隣商業地域及び商業地域 準工；準工業地域
未；未指定地域

4．「環境基準の評価」の「○」は、環境基準に適合、「×」は、環境基準に適合していないことを示す。

「令和 6 年度版 公害関係測定結果（令和 5 年度測定結果）」（福岡県、令和 7 年）

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）

「令和 6 年版 環境白書」（山口県、令和 7 年）

より作成

第 3.1-12 表 浮遊粒子状物質（年平均値）の経年変化（令和元～5年度）

(単位：mg/m³)

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	北九州市小倉北区	4	北九州	0.018	0.018	0.014	0.017	0.016
	北九州市小倉南区	6	企救丘	0.019	0.016	0.014	0.015	0.014
	北九州市若松区	7	若松	0.022	0.020	0.017	0.017	0.017
		9	若松ひびき	0.021	0.022	0.017	0.016	0.016
	北九州市八幡西区	11	黒崎	0.015	0.014	0.013	0.013	0.014
	北九州市戸畑区	13	戸畑	0.019	0.019	0.016	0.018	0.017
	山口県下関市	15	彦島	0.017	0.015	0.014	0.016	0.014
自排局	北九州市小倉北区	19	三萩野自排局	0.018	0.019	0.016	0.017	0.016
	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	0.022	0.022	0.019	0.016	0.017
	北九州市八幡西区	21	黒崎自排局	0.021	0.022	0.018	0.020	0.020

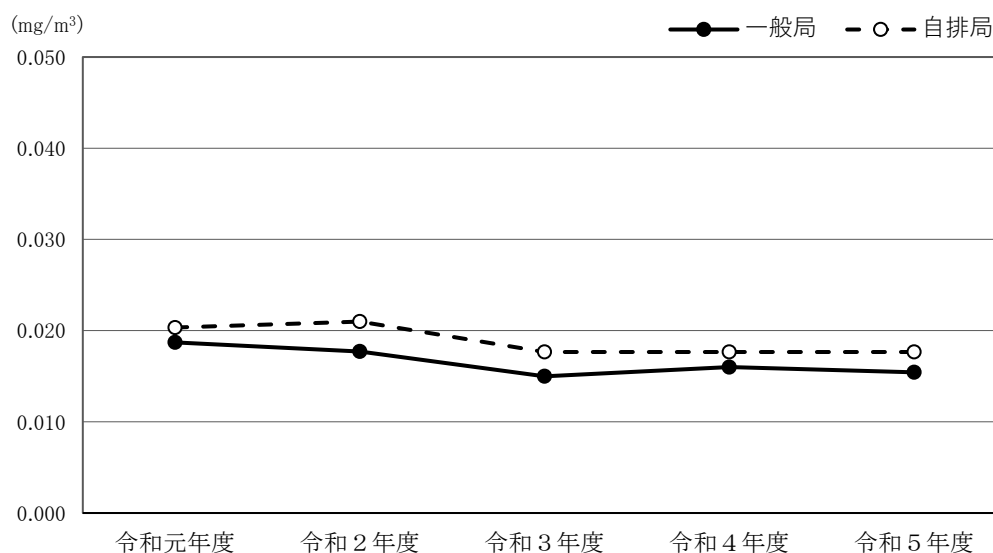
注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。

2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）

「令和6年版 環境白書」（山口県、令和7年）

より作成



注：10km 圏内の測定局の年平均値の平均を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）

「令和6年版 環境白書」（山口県、令和7年）

より作成

第 3.1-6 図 浮遊粒子状物質（年平均値）の経年変化（令和元～5年度）

ホ．光化学オキシダント（Ox）

20km 圏内における光化学オキシダントの測定は、一般局 16 局、自排局 1 局で行われており、令和 5 年度における光化学オキシダントの測定結果は、第 3. 1-13 表のとおりである。

一般局では昼間の 1 時間値の年平均値は 0.028～0.037ppm、昼間の 1 時間値の最高値は 0.081～0.095ppm、昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数は 33～82 日であり、自排局では昼間の 1 時間値の年平均値は 0.032ppm、昼間の 1 時間値の最高値は 0.091ppm、昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数は 53 日となっており、環境基準*の適合状況は、全ての測定局で適合していない。また、10km 圏内にある一般局 10 局の令和元～5 年度（5 年間）における光化学オキシダント（年平均値）の経年変化は、第 3. 1-14 表及び第 3. 1-7 図のとおりであり、ほぼ横ばい傾向となっている。

* 環境基準の評価：昼間（5時から20時まで）の1時間値が0.06ppm以下であること。

第 3. 1-13 表 光化学オキシダントの測定結果（令和 5 年度）

種別	市町村	図中番号	測定局	用途地域	昼間の 1 時間値の年平均値	昼間の 1 時間値の最高値	昼間の 1 時間値の日最高 1 時間値の年平均値	昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日数と時間数		環境基準の評価 昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数と時間数		評価
					(ppm)	(ppm)	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	
一般局	北九州市門司区	1	門司	住	0.034	0.086	0.046	0	0	53	230	×
		2	松ヶ江	未	0.032	0.088	0.047	0	0	62	282	×
	北九州市小倉北区	3	小倉	商	0.032	0.084	0.044	0	0	49	224	×
		4	北九州	住	0.033	0.090	0.046	0	0	62	317	×
	北九州市小倉南区	5	曽根	住	0.032	0.093	0.046	0	0	56	263	×
		6	企救丘	住	0.032	0.089	0.045	0	0	53	251	×
	北九州市若松区	7	若松	住	0.033	0.087	0.046	0	0	63	333	×
		8	江川	住	0.037	0.088	0.050	0	0	82	470	×
		9	若松ひびき	準工	0.037	0.092	0.049	0	0	79	462	×
	北九州市八幡東区	10	八幡	商	0.034	0.082	0.045	0	0	54	297	×
	北九州市八幡西区	11	黒崎	商	0.035	0.081	0.047	0	0	57	337	×
		12	塔野	住	0.037	0.095	0.050	0	0	78	495	×
	北九州市戸畑区	13	戸畑	商	0.032	0.085	0.045	0	0	54	304	×
	荏田町富久町	14	荏田	住	0.028	0.084	0.042	0	0	33	151	×
	山口県下関市	15	彦島	住	0.035	0.091	0.047	0	0	69	332	×
		16	山の田	住	0.036	0.094	0.047	0	0	70	358	×
自排局	北九州市門司区	18	門司港自排局	住	0.032	0.091	0.045	0	0	53	239	×

注：1．図中番号は、第 3. 1-2 図中の番号に対応する。

2．ゴシック体の測定局は、10km 圏内の測定局を示す。

3．用途地域は、「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条に定める地域の用途区分を示す。
住；住居専用地域、住居地域及び準住居地域 商；近隣商業地域及び商業地域 準工；準工業地域
未；未指定地域

4．「環境基準の評価」の「×」は、環境基準に適合していないことを示す。

「令和 6 年度版 公害関係測定結果（令和 5 年度測定結果）」（福岡県、令和 7 年）

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）

「令和 6 年版 環境白書」（山口県、令和 7 年）より作成

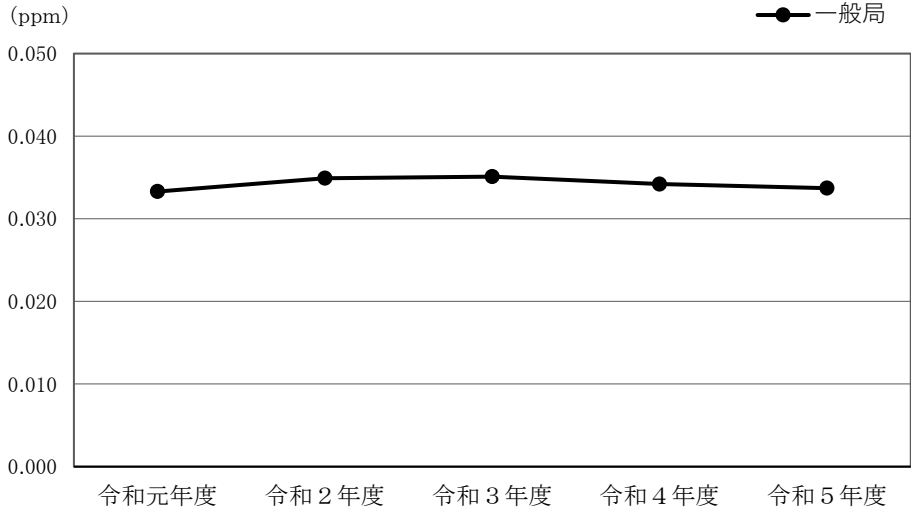
第 3. 1-14 表 光化学オキシダント（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

（単位：ppm）

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般局	北九州市門司区	1	門司	0.033	0.033	0.034	0.034	0.034
	北九州市小倉北区	3	小倉	0.030	0.031	0.031	0.032	0.032
		4	北九州	0.032	0.033	0.034	0.034	0.033
	北九州市小倉南区	6	企救丘	0.032	0.034	0.036	0.033	0.032
	北九州市若松区	7	若松	0.036	0.036	0.034	0.034	0.033
		9	若松ひびき	0.033	0.039	0.038	0.037	0.037
	北九州市八幡東区	10	八幡	0.036	0.037	0.039	0.036	0.034
	北九州市八幡西区	11	黒崎	0.040	0.040	0.039	0.036	0.035
	北九州市戸畑区	13	戸畑	0.030	0.032	0.031	0.031	0.032
	山口県下関市	15	彦島	0.031	0.034	0.035	0.035	0.035

注：1. 図中番号は、第 3. 1-2 図中の番号に対応する。
 2. 10km 圏内の測定局における昼間（5 時から 20 時まで）の年平均値を示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）
 「令和 6 年度版 環境白書」（山口県、令和 7 年）より作成



注：10km 圏内の測定局の年平均値の平均を示す。
 「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）
 「令和 6 年度版 環境白書」（山口県、令和 7 年）より作成

第 3. 1-7 図 光化学オキシダント（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

へ．微小粒子状物質（PM2.5）

20km 圏内における微小粒子状物質の測定は、一般局 14 局、自排局 2 局で行われており、令和 5 年度における微小粒子状物質の測定結果は、第 3.1-15 表のとおりである。

一般局では年平均値は $8.2 \sim 12.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、日平均値の年間 98% 値は $19.1 \sim 26.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、自排局では年平均値は $10.1 \sim 12.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、日平均値の年間 98% 値は $24.7 \sim 27.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ となっており、環境基準*の適合状況は、全ての測定局で適合している。

また、10km 圏内にある一般局 7 局と自排局 1 局の令和元～5 年度（5 年間）における微小粒子状物質（年平均値）の経年変化は、第 3.1-16 表及び第 3.1-8 図のとおりであり、ほぼ横ばい傾向となっている。

*環境基準：1 年平均値が $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値の年間 98% 値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

〔環境基準の長期基準；1 年平均値が $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
環境基準の短期基準；1 日平均値の年間 98% 値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。〕

第 3.1-15 表 微小粒子状物質の測定結果（令和 5 年度）

種別	市町村	図中番号	測定局	用途地域	長期基準	短期基準		環境基準の評価
					年平均値	日平均値の年間 98% 値	日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合	
					($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	(日) (%)	
一般局	北九州市門司区	2	松ヶ江	未	11.6	25.3	0 0.0	○
	北九州市小倉北区	4	北九州	住	9.6	23.4	0 0.0	○
	北九州市小倉南区	5	曾根	住	8.2	19.1	0 0.0	○
		6	企救丘	住	11.2	26.5	2 0.6	○
	北九州市若松区	7	若松	住	11.1	25.4	1 0.3	○
		8	江川	住	11.5	23.7	1 0.3	○
		9	若松ひびき	準工	11.9	25.0	3 0.8	○
	北九州市八幡西区	11	黒崎	商	10.4	23.5	0 0.0	○
		12	塔野	住	8.4	20.8	0 0.0	○
	北九州市戸畑区	13	戸畑	商	12.0	25.4	1 0.3	○
	荏田町富久町	14	荏田	住	9.9	23.8	0 0.0	○
	山口県下関市	15	彦島	住	9.5	20.8	0 0.0	○
		16	山の田	住	9.2	21.7	0 0.0	○
		17	長府	住	10.7	24.8	0 0.0	○
自排局	北九州市門司区	18	門司港自排局	住	12.0	27.5	1 0.3	○
	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	商	10.1	24.7	0 0.0	○

注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。

2. ゴシック体の測定局は、10km 圏内の測定局を示す。

3. 用途地域は、「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条に定める地域の用途区分を示す。
住；住居専用地域、住居地域及び準住居地域 商；近隣商業地域及び商業地域 準工；準工業地域
未；未指定地域

4. 「環境基準の評価」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和 6 年度版 公害関係測定結果（令和 5 年度測定結果）」（福岡県、令和 7 年）

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）

「令和 6 年版 環境白書」（山口県、令和 7 年）より作成

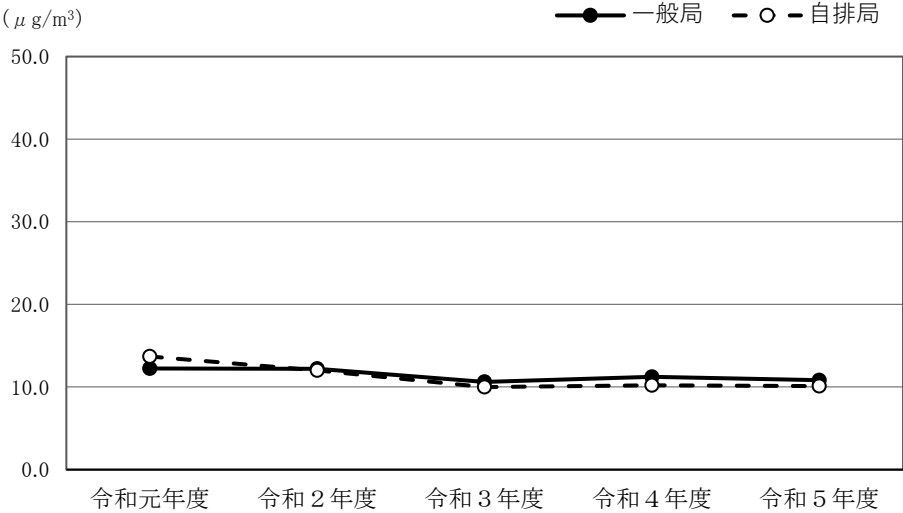
第 3.1-16 表 微小粒子状物質（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	北九州市小倉北区	4	北九州	12.3	12.1	9.7	10.2	9.6
	北九州市小倉南区	6	企救丘	10.6	11.1	9.3	10.8	11.2
	北九州市若松区	7	若松	13.4	13.3	11.8	11.6	11.1
		9	若松ひびき	11.2	11.7	10.7	11.9	11.9
	北九州市八幡西区	11	黒崎	11.9	12.0	10.3	10.7	10.4
	北九州市戸畑区	13	戸畑	13.8	13.8	12.4	13.3	12.0
	山口県下関市	15	彦島	12.5	11.4	10.1	10.0	9.5
自排局	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	13.7	12.0	10.0	10.2	10.1

注: 1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。
 2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）
 「令和6年度版 環境白書」（山口県、令和7年）より作成



注: 10km 圏内の測定局の年平均値の平均を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）
 「令和6年度版 環境白書」（山口県、令和7年）より作成

第 3.1-8 図 微小粒子状物質（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

ト．有害大気汚染物質

20km 圏内における有害大気汚染物質の測定は、一般局 3 局、自排局 1 局で行われており、環境基準が定められている有害大気汚染物質（ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン）の令和 5 年度の測定結果は、第 3.1-17 表のとおりである。

一般局では年平均値はベンゼンが 0.54～1.0 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、トリクロロエチレンが 0.011～0.019 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、テトラクロロエチレンが 0.020～0.062 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、ジクロロメタンが 0.65～0.73 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、自排局では年平均値はベンゼンが 0.67 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、トリクロロエチレンが 0.011 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、テトラクロロエチレンが 0.030 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、ジクロロメタンが 0.63 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ となっており、環境基準*の適合状況は、全ての測定局で適合している。また、10km 圏内にある一般局 3 局と自排局 1 局の令和元～5 年度（5 年間）における環境基準が定められている有害大気汚染物質（年平均値）の経年変化は、第 3.1-18 表及び第 3.1-9 図のとおりであり、各項目ともほぼ横ばい傾向となっている。

* 環境基準の評価

ベンゼン : 1 年平均値が 0.003mg/m³（3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）以下であること。

トリクロロエチレン : 1 年平均値が 0.13mg/m³（130 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）以下であること。

テトラクロロエチレン : 1 年平均値が 0.2mg/m³（200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）以下であること。

ジクロロメタン : 1 年平均値が 0.15mg/m³（150 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）以下であること。

第 3.1-17 表 有害大気汚染物質の測定結果（令和 5 年度）

（単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）

種別	市町村	図中番号	測定局	用途地域	ベンゼン		トリクロロエチレン		テトラクロロエチレン		ジクロロメタン	
					年平均値	環境基準の評価	年平均値	環境基準の評価	年平均値	環境基準の評価	年平均値	環境基準の評価
一般局	北九州市小倉北区	4	北九州	住	1.0	○	0.019	○	0.062	○	0.73	○
	北九州市小倉南区	6	企救丘	住	0.54	○	0.011	○	0.020	○	0.68	○
	北九州市若松区	7	若松	住	0.80	○	0.012	○	0.021	○	0.65	○
自排局	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	商	0.67	○	0.011	○	0.030	○	0.63	○

注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。

2. **ゴシック体**の測定局は、10km 圏内の測定局を示す。

3. 用途地域は、「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条に定める地域の用途区分を示す。

住；住居専用地域、住居地域及び準住居地域 商；近隣商業地域及び商業地域

4. 「環境基準の評価」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成

第 3.1-18 表 有害大気汚染物質（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

ベンゼン

(単位：μg/m³)

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	北九州市小倉北区	4	北九州	1.70	0.88	0.90	1.1	1.0
	北九州市小倉南区	6	企救丘	0.77	0.52	0.65	0.64	0.54
	北九州市若松区	7	若松	0.81	0.78	1.20	0.74	0.80
自排局	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	0.75	0.68	0.93	0.76	0.67

注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。
2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

トリクロロエチレン

(単位：μg/m³)

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	北九州市小倉北区	4	北九州	0.066	0.026	0.033	0.031	0.019
	北九州市小倉南区	6	企救丘	0.010	0.010	0.011	0.012	0.011
	北九州市若松区	7	若松	0.010	0.010	0.012	0.011	0.012
自排局	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	0.010	0.011	0.012	0.008	0.011

注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。
2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

テトラクロロエチレン

(単位：μg/m³)

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	北九州市小倉北区	4	北九州	0.50	0.27	0.58	0.51	0.062
	北九州市小倉南区	6	企救丘	0.020	0.019	0.021	0.020	0.020
	北九州市若松区	7	若松	0.026	0.023	0.031	0.022	0.021
自排局	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	0.033	0.025	0.031	0.019	0.030

注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。
2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

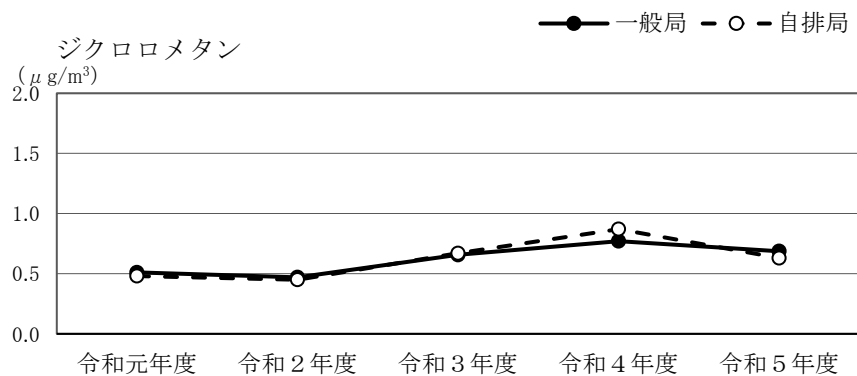
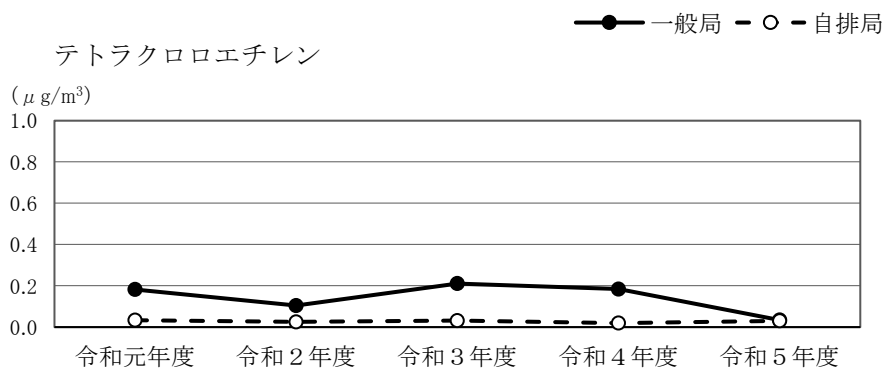
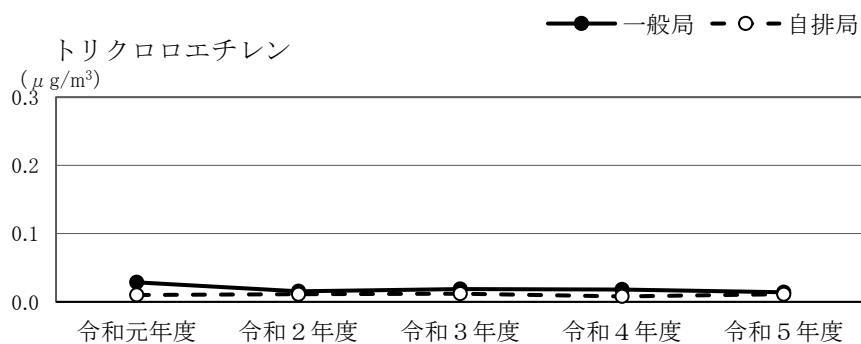
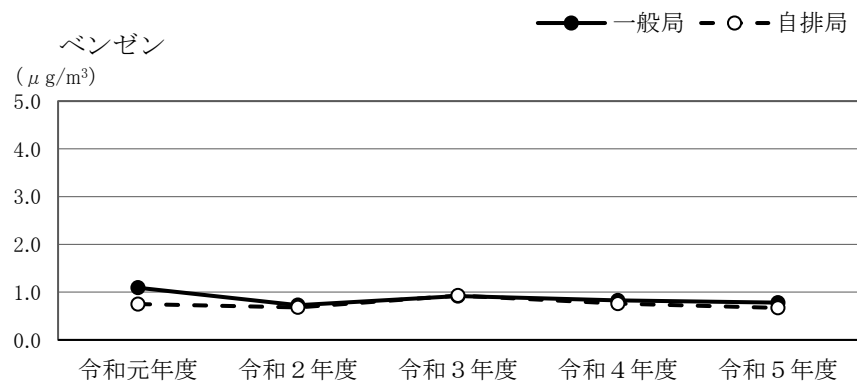
ジクロロメタン

(単位：μg/m³)

種別	市町村	図中番号	測定局	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般局	北九州市小倉北区	4	北九州	0.50	0.49	0.65	0.73	0.73
	北九州市小倉南区	6	企救丘	0.49	0.44	0.59	0.71	0.68
	北九州市若松区	7	若松	0.54	0.48	0.73	0.87	0.65
自排局	北九州市八幡東区	20	西本町自排局	0.48	0.45	0.67	0.87	0.63

注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。
2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成



注：10km 圏内の測定地点の年平均値の平均を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

第 3.1-9 図 有害大気汚染物質（年平均値）の経年変化（令和元～5年度）

チ. ダイオキシン類

20km 圏内における大気中のダイオキシン類の測定は、一般局 4 局で行われており、令和 5 年度におけるダイオキシン類の測定結果は、第 3.1-19 表のとおりである。

年平均値は 0.0066～0.016pg-TEQ/m³ となっており、環境基準*の適合状況は、全ての測定局で適合している。また、10km 圏内にある一般局 3 局の令和元～5 年度（5 年間）におけるダイオキシン類（年平均値）の経年変化は、第 3.1-20 表及び第 3.1-10 図のとおりであり、令和元年度以降は減少傾向となっている。

* 環境基準の評価：1 年平均値が 0.6pg-TEQ/m³ 以下であること。

第 3.1-19 表 ダイオキシン類の測定結果（令和 5 年度）

（単位：pg-TEQ/m³）

種 別	市町村	図中 番号	測定局	用途 地域	年平均値	環境基準の 評価
一般局	北九州市門司区	2	松ヶ江	未	0.0066	○
	北九州市小倉南区	6	企救丘	住	0.0069	○
	北九州市若松区	7	若松	住	0.016	○
	北九州市八幡西区	11	黒崎	商	0.0067	○

- 注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。
 2. **ゴシック体**の測定局は、10km 圏内の測定局を示す。
 3. 用途地域は、「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条に定める地域の用途区分を示す。
 住；住居専用地域、住居地域及び準住居地域 商；近隣商業地域及び商業地域 未；未指定地域
 4. 「環境基準の評価」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成

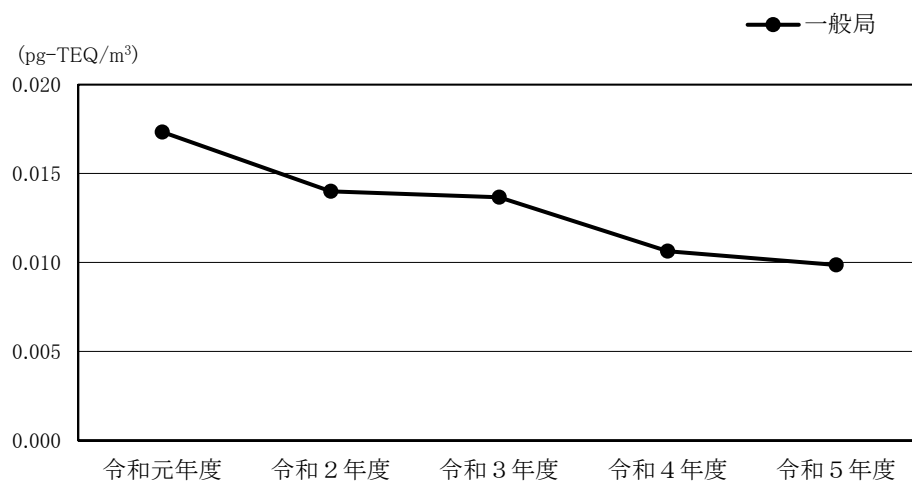
第 3.1-20 表 ダイオキシン類（年平均値）の経年変化（令和元～5 年度）

（単位：pg-TEQ/m³）

種別	市町村	図中 番号	測定局	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般局	北九州市小倉南区	6	企救丘	0.017	0.011	0.009	0.0096	0.0069
	北九州市若松区	7	若松	0.020	0.018	0.016	0.015	0.016
	北九州市八幡西区	11	黒崎	0.015	0.013	0.016	0.0073	0.0067

- 注：1. 図中番号は、第 3.1-2 図中の番号に対応する。
 2. 10km 圏内の測定局における年平均値を示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成



注：10km 圏内の測定地点の年平均値の平均を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

第 3.1-10 図 ダイオキシン類（年平均値）の経年変化（令和元～5年度）

③ 大気汚染に係る苦情の発生状況

令和元～5年度における大気汚染に係る苦情の発生状況は、第 3.1-21 表のとおりである。

令和5年度における大気汚染に係る苦情は、福岡県で792件、このうち北九州市で42件発生している。

第 3.1-21 表 大気汚染に係る苦情の発生状況（令和元～5年度）

(単位：件)

地 域	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
福 岡 県	737	831	720	722	792
北九州市	65	45	31	38	42

「令和元～5年度 公害苦情調査」（総務省 HP、令和6年12月閲覧）

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）

より作成

(3) 騒音の状況

① 騒音発生源の状況

北九州市における「騒音規制法」（昭和43年法律第98号）に基づく届出状況は、第3.1-22表のとおりであり、令和6年3月31日現在での法規制対象の特定工場届出数は1,363工場、15,911施設となっている。

第3.1-22表 騒音規制法に基づく工場等の届出状況（令和6年3月31日現在）

種 別	特定工場数	特定施設数
騒音規制法	1,363	15,911

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

② 環境騒音の状況

対象事業実施区域及びその周囲においては、環境騒音は測定されていない。

③ 道路交通騒音の状況

対象事業実施区域及びその周囲における道路交通騒音の測定は、第3.1-11図のとおり2地点で行われており、令和5年度の測定結果は第3.1-23表のとおりである。

環境基準の適合状況は、地点1（一般国道199号、戸畑区三六町17）は昼間、夜間ともに適合しておらず、地点2（一般国道199号、小倉北区室町2丁目10）は昼間、夜間ともに適合している。

第3.1-23表 道路交通騒音の測定結果（令和5年度）

図中番号	測定地点	車線数	対象道路	等価騒音レベル L_{Aeq} [デシベル]						環境基準適合状況：適合率 (適合戸数/評価戸数)					
				昼間			夜間			近接空間			非近接空間		
				騒音レベル	環境基準値	適否	騒音レベル	環境基準値	適否	昼間適合率(%)	夜間適合率(%)	評価対象住居等戸数(戸)	昼間適合率(%)	夜間適合率(%)	評価対象住居等戸数(戸)
1	戸畑区三六町17	5	一般国道199号	71	70	×	66	65	×	85.1	85.1	470	100	100	622
2	小倉北区室町2丁目10	4	一般国道199号	68	70	○	62	65	○	100	100	931	100	100	484

注：1. 図中番号は、第3.1-11図中の番号に対応する。

2. L_{Aeq} ；等価騒音レベル 昼間；6時～22時 夜間；22時～6時
近接空間；道路端から0～20m 非近接空間；20～50m

3. 「適否」の「○」は環境基準に適合していること、「×」は適合していないことを示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

④ 騒音に係る苦情の発生状況

令和元～5年度における騒音に係る苦情の発生状況は、第3.1-24表のとおりである。

令和5年度における騒音に係る苦情は、福岡県で690件、このうち北九州市で111件発生している。

第 3. 1-24 表 騒音に係る苦情の発生状況（令和元～5 年度）

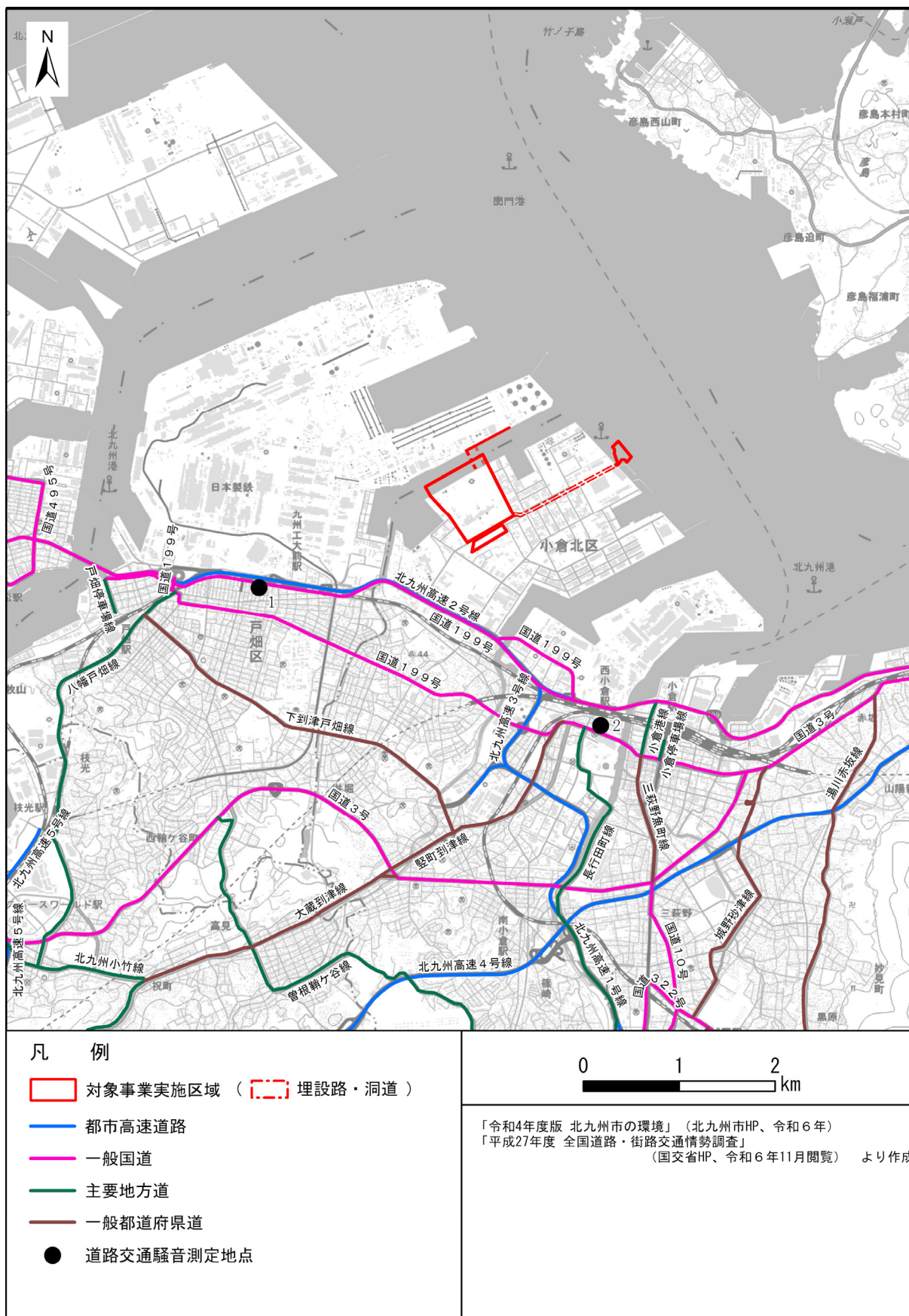
（単位：件）

地 域	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
福 岡 県	548	670	593	652	690
北九州市	83	121	91	77	111

「令和元～5 年度 公害苦情調査」（総務省 HP、令和 6 年 12 月閲覧）

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）

より作成



第 3.1-11 図 道路交通騒音の測定位置

(4) 振動の状況

① 振動発生源の状況

北九州市における「振動規制法」（昭和 51 年法律第 64 号）に基づく届出状況は、第 3. 1-25 表のとおりであり、令和 6 年 3 月 31 日現在での法規制対象の特定工場届出数は 407 工場、1, 857 施設となっている。

第 3. 1-25 表 振動規制法に基づく工場等の届出状況（令和 6 年 3 月 31 日現在）

種 別	特定工場数	特定施設数
振動規制法	407	1, 857

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成

② 振動の状況

対象事業実施区域及びその周囲においては、環境振動及び道路交通振動は測定されていない。

③ 振動に係る苦情の発生状況

令和元～5 年度における振動に係る苦情の発生状況は、第 3. 1-26 表のとおりである。

令和 5 年度における振動に係る苦情は、福岡県で 42 件、このうち北九州市で 8 件発生している。

第 3. 1-26 表 振動に係る苦情の発生状況（令和元～5 年度）

（単位：件）

地 域	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
福 岡 県	38	39	44	47	42
北九州市	5	5	2	7	8

「令和元～5 年度 公害苦情調査」（総務省 HP、令和 6 年 12 月閲覧）

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）

より作成

(5) 悪臭の状況

① 悪臭の状況

対象事業実施区域及びその周囲においては、悪臭は測定されていない。

② 悪臭に係る苦情の発生状況

令和元～5年度における悪臭に係る苦情の発生状況は、第3.1-27表のとおりである。

令和5年度における悪臭に係る苦情は、福岡県で344件、このうち北九州市で55件発生している。

第3.1-27表 悪臭に係る苦情の発生状況（令和元～5年度）

(単位：件)

地 域	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
福 岡 県	346	451	351	440	344
北九州市	87	82	48	62	55

「令和元～5年度 公害苦情調査」(総務省 HP、令和6年12月閲覧)

「令和6年度版 北九州市の環境」(北九州市、令和6年)

より作成

3.1.2 水環境の状況

(1) 水象の状況

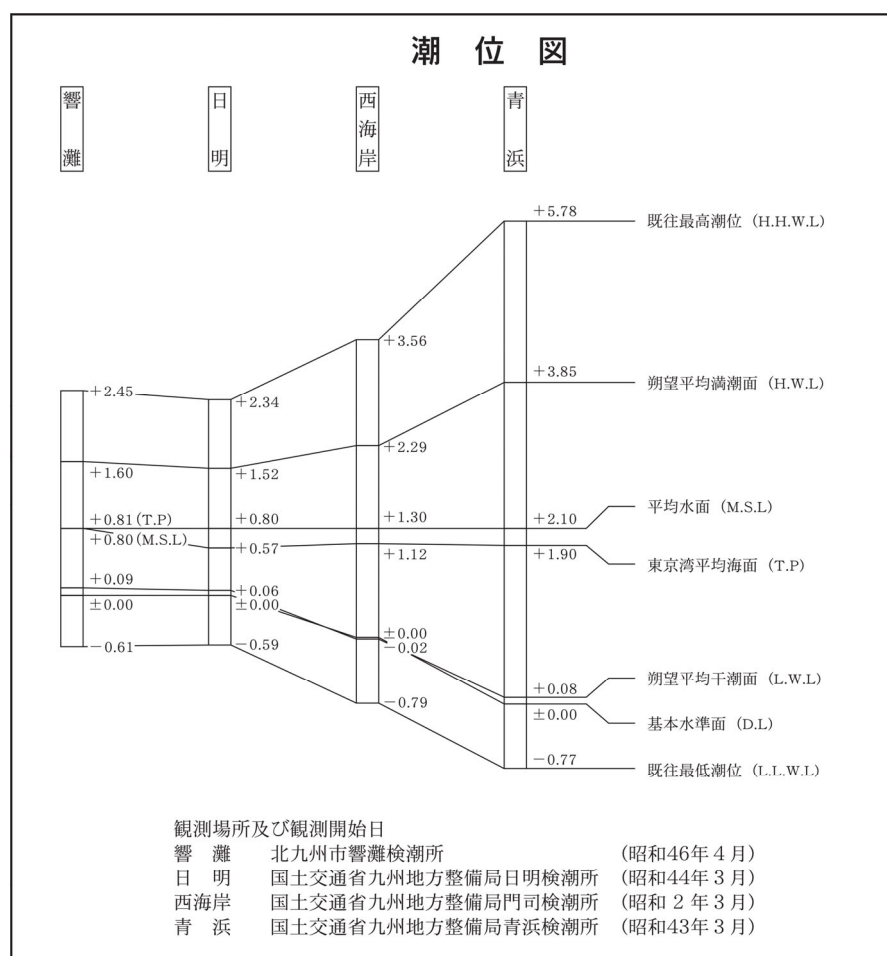
① 海域の概況

対象事業実施区域の前面海域は関門海峡で、東は周防灘、北は響灘に囲まれている。

② 潮 位

対象事業実施区域の周囲の海域における潮位観測位置は第 3.1-12 図のとおりである。

対象事業実施区域の地先海域は、「港湾法」（昭和 25 年法律第 218 号）に基づく特定重要港湾「北九州港」の港湾区域に指定されており、北九州港では、既往最高潮位は、響灘検潮所において基本水準面（以下「D.L」という。）+2.45m、日明検潮所において D.L+2.34m、西海岸検潮所において D.L+3.56m、青浜検潮所において D.L+5.78m、既往最低潮位は、響灘検潮所において D.L-0.61m、日明検潮所において D.L-0.59m、西海岸検潮所において D.L-0.79m、青浜検潮所において D.L-0.77mとなっている。朔望平均満潮面は、響灘検潮所において D.L+1.60m、日明検潮所において D.L+1.52m、西海岸検潮所において D.L+2.29m、青浜検潮所において D.L+3.85m、朔望平均干潮面は、響灘検潮所において D.L+0.09m、日明検潮所において D.L+0.06m、西海岸検潮所において D.L±0.00m、青浜検潮所において D.L+0.08m、朔望平均の潮位差は、響灘検潮所において 1.51m、日明検潮所において 1.46m、西海岸検潮所において 2.29m、青浜検潮所において 3.77mとなっている。



「北九州港港湾計画図」(令和 5 年 12 月末時点)
 (北九州市港湾空港局ウェブサイト、令和 6 年 11 月閲覧) より作成

第 3.1-12 図 潮位観測位置図

③ 流 況

対象事業実施区域の周囲の海域における流況の観測点は第 3.1-13 図、平均大潮期の流況は第 3.1-14 図、恒流は第 3.1-15 図のとおりである。

対象事業実施区域の周囲の海域における流向は、沿岸に沿った往復流となっており、その流速は上げ潮時で上層が 18.0～43.2cm/s、下層が 21.6～30.3cm/s、下げ潮時で上層が 19.9～75.0cm/s、下層が 16.8～51.9cm/s となっている。

このうち、対象事業実施区域に近い流況観測点である戸畑航路及び日明航路付近の 2 測定点における流速は、上げ潮時で上層が 42.9～43.2cm/s、下層が 22.5～30.3cm/s、下げ潮時で上層が 35.7～75.0cm/s、下層が 16.8～51.9cm/s となっている。また、恒流は、南方向の下層が 2.9cm/s、上層が 4.3 cm/s、北方向の下層が 11.0cm/s、上層が 18.3 cm/s の流れとなっている。

④ 流入河川

対象事業実施区域の周囲の主な河川の位置は、第 3.1-13 図のとおりである。

対象事業実施区域の周囲の海域に流入する河川としては、二級河川の板櫃川、槻田川、紫川等があり、流入河川の概要は、第 3.1-28 表のとおりである。

第3.1-28表 流入河川の概要

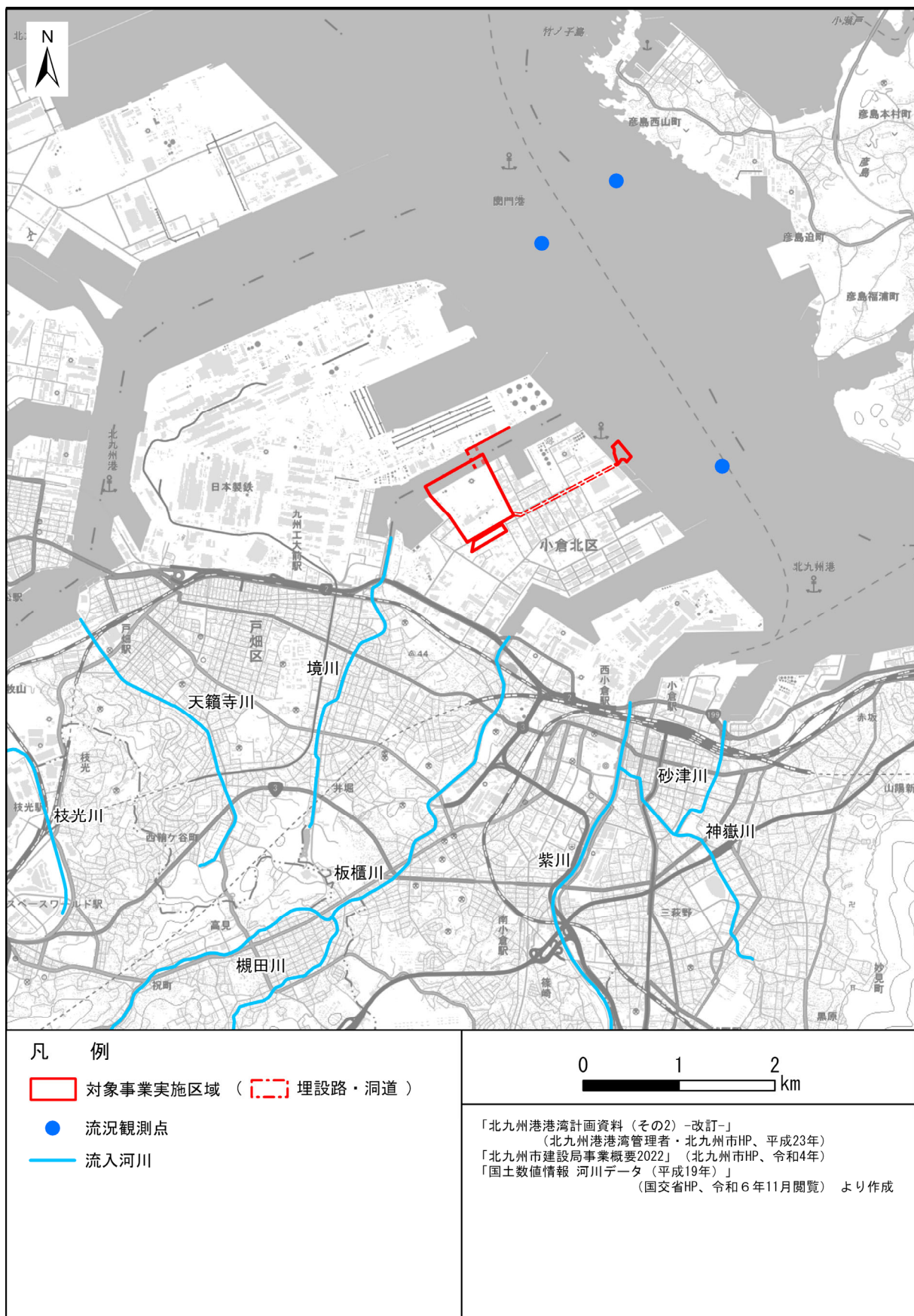
種 別	水 系	河川名	延長 (m)
二級河川 (知事管理)	板櫃川	板櫃川	9,693
		槻田川	3,500
	紫川	紫川	19,795
		神嶽川	2,860
		砂津川	1,392
準用河川 (市長管理)	天籟寺川	天籟寺川 *	3,485
普通河川 (市長管理)	—	境川	3,431
	—	枝光川	2,015

注：1. 河川の位置は、第 3.1-13 図に示す。

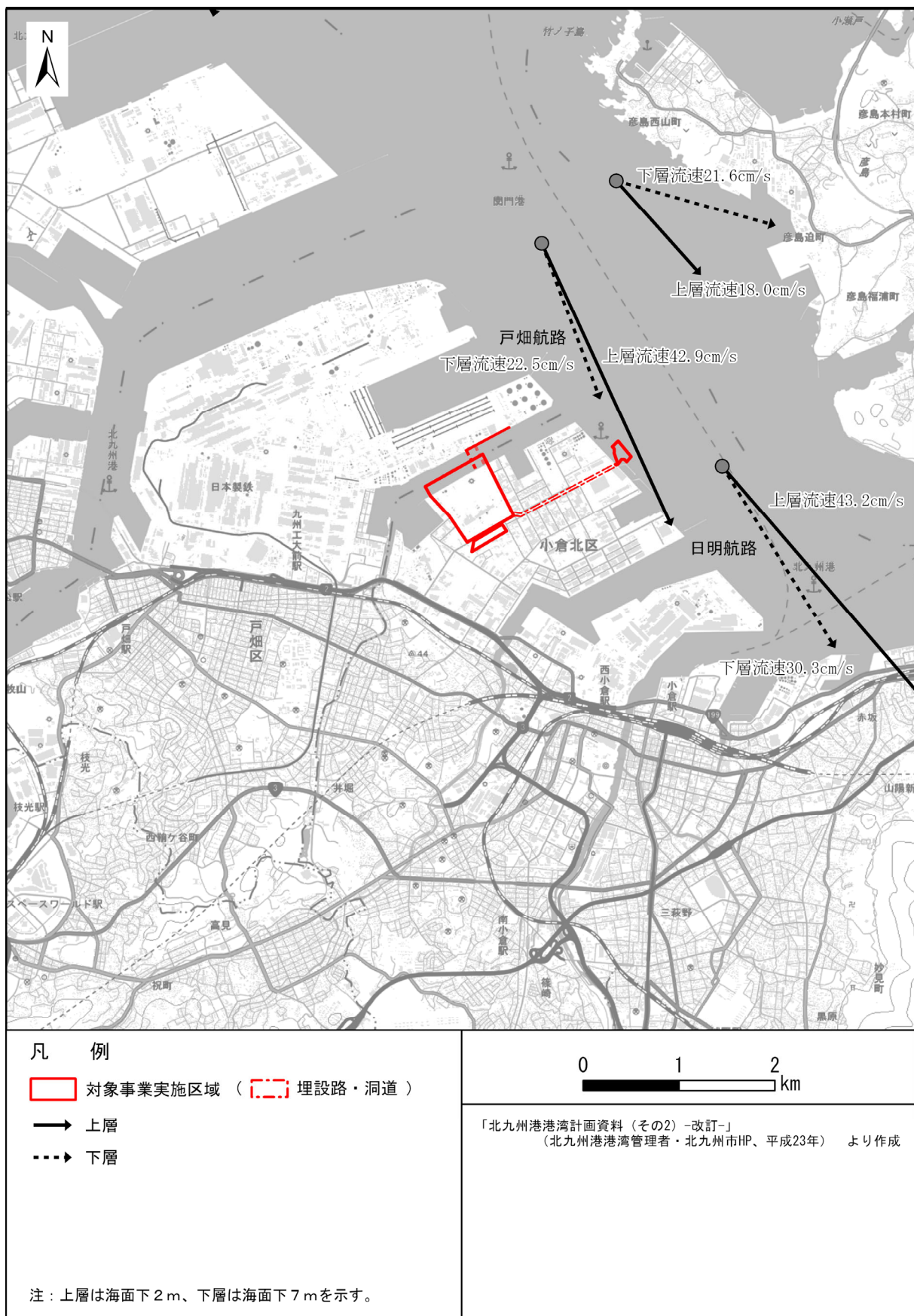
2. 「*」は洞海湾に流入する河川を示す。

「北九州市建設局事業概要 2023」（北九州市、令和 5 年）

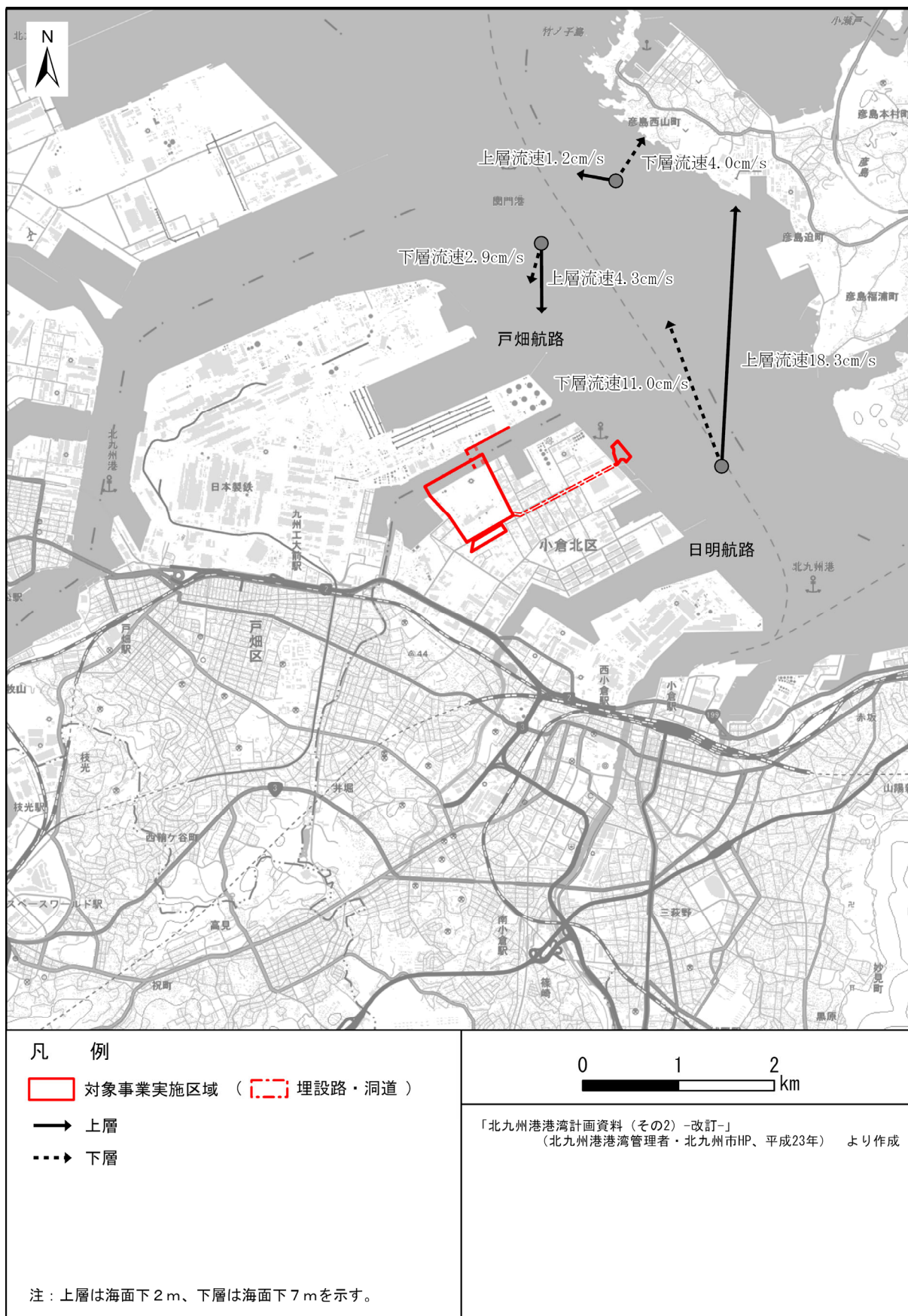
「国土数値情報 河川データ（平成 19 年）」（国交省 HP、令和 6 年 11 月閲覧）より作成



第3.1-13図 流況観測点及び流入河川の位置



第 3.1-14 図(1) 平均大潮期の流況（上げ潮最強時）



第 3.1-15 図 恒 流

(2) 水質の状況

① 水質汚濁発生源の状況

令和5年度の北九州市における「水質汚濁防止法」（昭和45年法律第138号）等に基づく届出状況は、第3.1-29表のとおりであり、水質汚濁防止法に基づく事業場が318事業場、瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく事業場が45事業場、ダイオキシン類対策特別措置法（水質）に基づく事業場が1事業場となっている。

第3.1-29表 水質汚濁防止法等に基づく届出状況（令和5年度）

種 別		事業場数
水質汚濁防止法	特定施設・事業場数（公共用水域に排出するもの。）	166
	有害物質使用特定施設・事業場（公共用水域以外に排出するもの。）	92
	有害物質貯蔵指定施設・事業場	60
	計	318
瀬戸内海環境保全特別措置法		45
ダイオキシン類対策特別措置法（水質）		1

注：令和6年3月31日現在の届出状況を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

② 水質の状況

イ. 海 域

対象事業実施区域の周囲の海域における公共用水域の水質の測定項目は第3.1-30表、水質測定点の位置及び環境基準の水域類型は、第3.1-16図のとおりである。

対象事業実施区域の前面海域は、生活環境項目に係る環境基準の類型が指定されており、化学的酸素要求量等についてはA類型、B類型及びC類型、全窒素・全燐についてはⅡ類型及びⅣ類型、全亜鉛等については海域生物特A類型及び海域生物A類型に指定されており、5測定点で水素イオン濃度、化学的酸素要求量、全窒素、全燐等の測定が行われている。

第3.1-30表 海域における公共用水域の水質の測定項目（令和5年度）

図中番号	水域名・測定点名	測定項目											健康項目	ダイオキシン類
		生活環境項目												
		水素イオン濃度	溶存酸素量	化学的酸素要求量	抽出物質 ノルマルヘキサン	大腸菌数	全窒素	全燐	全亜鉛	ノニルフェノール	L A S			
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
H ₁	響灘・H ₁ ＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
K ₁	関門海峡・K ₁	○	○	○	○	○	○	○						
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	○	○	○			○	○	○	○	○	○		
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	○	○	○			○	○	○	○	○	○		

注：1. 図中番号は、第3.1-16図中の番号に対応する。

2. 「＊」は環境基準点を示す。

3. 「L A S」は、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩を示す。

4. 調査は午前中に行い、各々上層（水面下0.5m）及び下層（水面下7m）を採水。溶存酸素濃度についてのみ、底層（海底から1m）も採水（環境基準点のみ）。

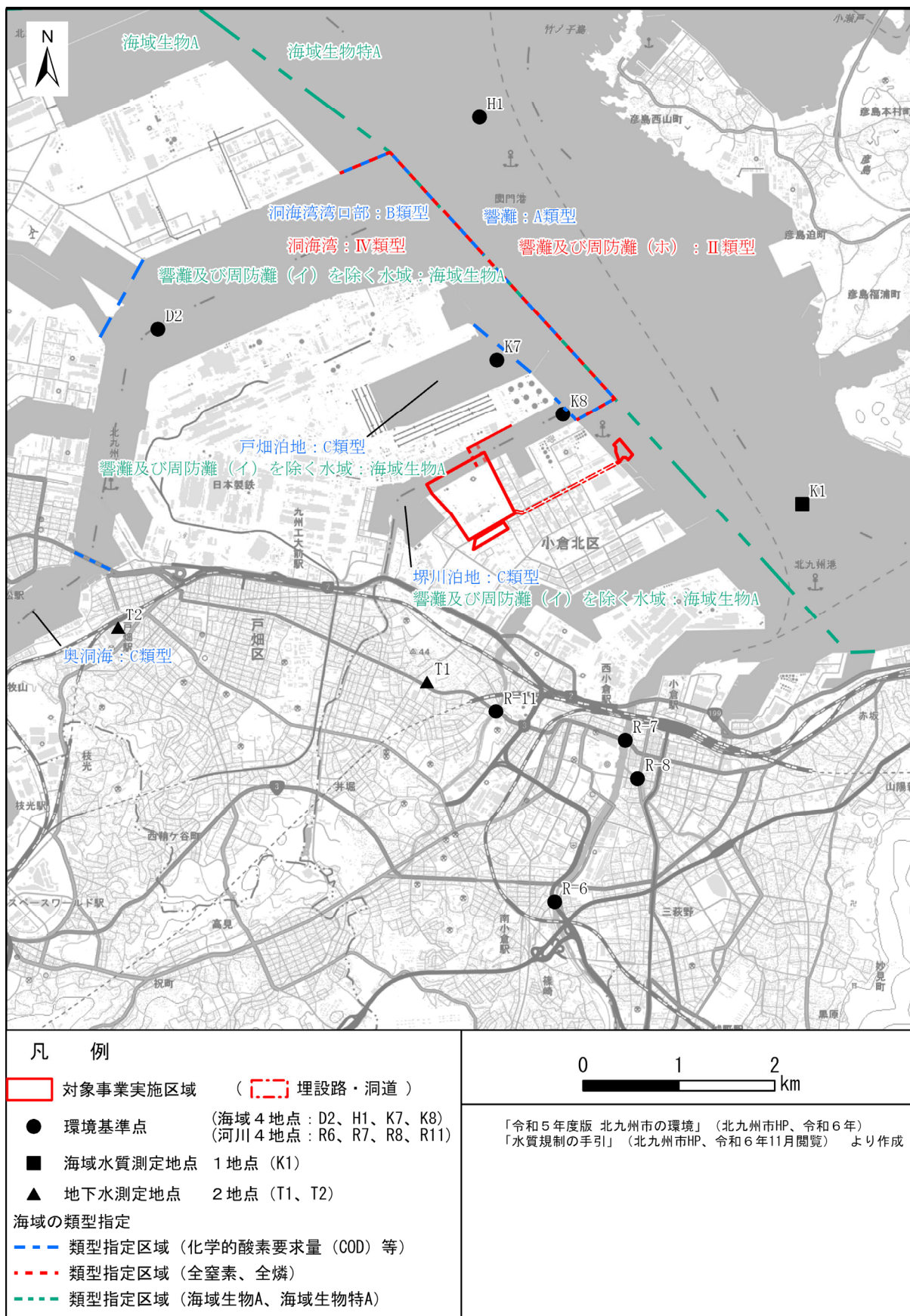
5. 水域名・測定点名及び測定項目に応じた類型区分は、第3.1-31表に示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

(イ) 生活環境の保全に関する項目（生活環境項目）

対象事業実施区域の周囲の海域における生活環境項目の測定は5測定点で行われており、令和5年度における水質の測定結果は、第3.1-31表のとおりである。

環境基準の適合状況は、水素イオン濃度、化学的酸素要求量、全窒素、全リンは全ての測定点で適合している。また、令和元～5年度（5年間）における水質の経年変化は、第3.1-32表及び第3.1-17図のとおりであり、各項目ともほぼ横ばい傾向となっている。



第3.1-16図 水質測定点の位置

第3. 1-31表(1) 公共用水域の水質測定結果（生活環境項目、令和5年度）

図中番号	水域名・測定点名	類型	水素イオン濃度〔pH〕				
			最小	最大	平均	x/y	環境基準
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	B	8.1	8.3	8.1	0/12	7.8以上8.3以下
H ₁	響灘・H ₁ ＊	A	8.1	8.2	8.2	0/12	7.8以上8.3以下
K ₁	関門海峡・K ₁	A	8.1	8.2	8.2	0/4	
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	C	8.1	8.2	8.2	0/12	7.0以上8.3以下
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	C	8.1	8.2	8.2	0/12	

図中番号	水域名・測定点名	類型	溶存酸素量〔DO〕 (mg/L)				
			最小	最大	平均	x/y	環境基準
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	B	6.7	9.8	8.0	0/12	5以上
H ₁	響灘・H ₁ ＊	A	6.7	10	8.1	4/12	7.5以上
K ₁	関門海峡・K ₁	A	6.9	9.7	8.2	1/4	
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	C	6.5	9.7	7.8	0/12	2以上
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	C	6.6	9.9	7.9	0/12	

図中番号	水域名・測定点名	類型	化学的酸素要求量〔COD〕 (mg/L)						
			最小	最大	平均	75％値	x/y	適否	環境基準
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	B	1.0	1.9	1.5	1.7	0/12	○	3以下
H ₁	響灘・H ₁ ＊	A	0.9	1.6	1.2	1.2	0/12	○	2以下
K ₁	関門海峡・K ₁	A	1.0	1.4	1.3	1.4	0/4	○	
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	C	1.0	1.6	1.2	1.3	0/12	○	8以下
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	C	1.1	1.7	1.4	1.5	0/12	○	

- 注：1. 図中番号は、第3. 1-16図中の番号に対応する。
2. 「＊」は環境基準点を示す。
3. 「類型」は環境基準に定められた水域類型を示す。
4. 「x/y」の欄は、「x:日平均値が環境基準を超えた日数/y:総測定日数」を示す。
5. 「75％値」はn個の日間平均値（上下層の平均）を小さいものから順に並べたときの（0.75×n）番目の数値である。
6. CODの「適否」の「○」は、75％値が環境基準に適合していることを示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

第3. 1-31表(2) 公共用水域の水質測定結果（生活環境項目、令和5年度）

図中番号	水域名・ 測定点名	類型	n-ヘキサン抽出物質〔油分等〕 (mg/L)				
			最小	最大	平均	x/y	環境基準
D ₂	洞海湾 D ₂ *	B	<0.5	<0.5	<0.5	0/12	検出されないこと。
H ₁	響灘 H ₁ *	A	<0.5	<0.5	<0.5	0/12	
K ₁	関門海峡 K ₁	A	<0.5	<0.5	<0.5	0/4	
K ₇	戸畑泊地 K ₇ *	C	—	—	—	—	—
K ₈	堺川泊地 K ₈ *	C	—	—	—	—	

図中 番号	水域名・ 測定点名	類型	大腸菌数 (CFU/100mL)					
			最小	最大	平均	x/y	適否	環境基準
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	B	—	—	—	—	—	—
H ₁	響灘・H ₁ ＊	A	0	2	3(0)	0/12	○	300 以下
K ₁	関門海峡・K ₁	A	0	2	1(2)	0/4	○	
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	C	—	—	—	—	—	—
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	C	—	—	—	—	—	

図中 番号	水域名・ 測定点名	類型	全窒素〔T-N〕 (mg/L)					
			最小	最大	平均	x/y	適否	環境基準
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	Ⅳ	0.24	0.40	0.28	0/12	○	1 以下
H ₁	響灘・H ₁ ＊	Ⅱ	0.07	0.29	0.14	0/12	○	0.3 以下
K ₁	関門海峡・K ₁	Ⅱ	0.14	0.17	0.15	0/4	○	
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	Ⅳ	0.22	0.60	0.44	0/12	○	1 以下
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	Ⅳ	0.25	1.9	0.63	1/12	○	

図中 番号	水域名・ 測定点名	類型	全磷〔T-P〕 (mg/L)					
			最小	最大	平均	x/y	適否	環境基準
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	Ⅳ	0.013	0.032	0.020	0/12	○	0.09 以下
H ₁	響灘・H ₁ ＊	Ⅱ	0.008	0.019	0.015	0/12	○	0.03 以下
K ₁	関門海峡・K ₁	Ⅱ	0.013	0.025	0.017	0/4	○	
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	Ⅳ	0.013	0.021	0.016	0/12	○	0.09 以下
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	Ⅳ	0.013	0.039	0.020	0/12	○	

注：1. 図中番号は、第3. 1-16 図中の番号に対応する。

2. 「*」は環境基準点を示す。

3. 「類型」は環境基準に定められた水域類型を、類型の欄の「—」は、環境基準の類型が指定されていないことを示す。

4. 「x/y」の欄は、「x: 日平均値が環境基準を超えた日数/y: 総測定日数」を示す。

5. 最小、最大、平均及び「x/y」の欄の「—」は調査が行われていないこと、「<」は報告下限値未滿を示す。

6. 環境基準の欄の「—」は、環境基準の類型が指定されていないことを示す。

7. 「適否」の「○」は、大腸菌数は90%値（平均欄のカッコ内数値）で、全窒素、全磷は、年間平均値で環境基準に適合していることを示す。「—」は、環境基準が設定されていないことを示す。

8. 大腸菌数の環境基準は、令和5年度水質測定実施時点の環境基準値を表記した。

9. 「検出されないこと。」とは、測定における定量限界値を下回ることを示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）

「水質規制の手引」（北九州市環境局、令和6年）より作成

第 3. 1-31 表(3) 公共用水域の水質測定結果（生活環境項目、令和 5 年度）

図中番号	水域名・測定点名	類型	全亜鉛〔Zn〕 (mg/L)					環境基準
			最小	最大	平均	x/y	適否	
D ₂	洞海湾・D ₂ *	生物 A	0.002	0.012	0.007	0/4	○	0.02 以下
H ₁	響灘・H ₁ *	生物特 A	<0.001	0.005	0.004	0/4	○	0.01 以下
K ₁	関門海峡・K ₁	—	—	—	—	—	—	—
K ₇	戸畑泊地・K ₇ *	生物 A	0.006	0.008	0.007	0/4	○	0.02 以下
K ₈	堺川泊地・K ₈ *	生物 A	0.003	0.005	0.004	0/4	○	

図中番号	水域名・測定点名	類型	ノニルフェノール (mg/L)					環境基準
			最小	最大	平均	x/y	適否	
D ₂	洞海湾・D ₂ *	生物 A	<0.00006	0.00006	0.00006	0/4	○	0.001 以下
H ₁	響灘・H ₁ *	生物特 A	<0.00006	<0.00006	<0.00006	0/4	○	0.0007 以下
K ₁	関門海峡・K ₁	—	—	—	—	—	—	—
K ₇	戸畑泊地・K ₇ *	生物 A	0.00006	0.00016	0.00009	0/4	○	0.001 以下
K ₈	堺川泊地・K ₈ *	生物 A	<0.00006	<0.00006	<0.00006	0/4	○	

図中番号	水域名・測定点名	類型	L A S (mg/L)					環境基準
			最小	最大	平均	x/y	適否	
D ₂	洞海湾・D ₂ *	生物 A	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0/4	○	0.01 以下
H ₁	響灘・H ₁ *	生物特 A	<0.0006	0.0006	0.0006	0/4	○	0.006 以下
K ₁	関門海峡・K ₁	—	—	—	—	—	—	—
K ₇	戸畑泊地・K ₇ *	生物 A	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0/4	○	0.01 以下
K ₈	堺川泊地・K ₈ *	生物 A	<0.0006	0.0007	0.0006	0/4	○	

注：1. 図中番号は、第 3. 1-16 図中の番号に対応する。

2. 「*」は環境基準点を示す。

3. 「類型」は環境基準に定められた水域類型を、類型の欄の「—」は、環境基準の類型が指定されていないことを示す。

4. 「x/y」の欄は、「x:日平均値が環境基準を超えた日数/y:総測定日数」を示す。

5. 最小、最大、平均、「x/y」及び適否の欄の「—」は調査が行われていないことを示す。

6. 「適否」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

7. 環境基準の欄の「—」は、環境基準の類型が指定されていないことを示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）

「水質規制の手引」（北九州市環境局、令和 6 年）より作成

第 3.1-32 表 公共用水域の水質の経年変化（令和元～5 年度）

図中 番号	水域名・ 測定点名	類 型	化学的酸素要求量〔COD〕 〔75%値〕（mg/L）				
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	B	1.9	1.8	1.9	2.2	1.7
H ₁	響灘・H ₁ ＊	A	1.3	1.5	1.2	1.5	1.2
K ₁	関門海峡・K ₁	A	1.4	1.2	1.2	1.2	1.4
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	C	1.6	1.7	1.4	1.6	1.3
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	C	1.7	1.5	1.3	1.6	1.5

図中 番号	水域名・ 測定点名	類 型	全窒素〔T-N〕 〔日間平均値の年平均値〕（mg/L）				
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	Ⅳ	0.39	0.40	0.28	0.32	0.28
H ₁	響灘・H ₁ ＊	Ⅱ	0.17	0.17	0.12	0.14	0.14
K ₁	関門海峡・K ₁	Ⅱ	0.19	0.18	0.14	0.15	0.15
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	Ⅳ	0.78	0.41	0.38	0.61	0.44
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	Ⅳ	1.10	0.58	0.67	0.57	0.63

図中 番号	水域名・ 測定点名	類 型	全磷〔T-P〕 〔日間平均値の年平均値〕（mg/L）				
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	Ⅳ	0.022	0.019	0.021	0.021	0.020
H ₁	響灘・H ₁ ＊	Ⅱ	0.015	0.014	0.016	0.015	0.015
K ₁	関門海峡・K ₁	Ⅱ	0.015	0.014	0.017	0.018	0.017
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	Ⅳ	0.016	0.013	0.019	0.018	0.016
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	Ⅳ	0.019	0.018	0.017	0.019	0.020

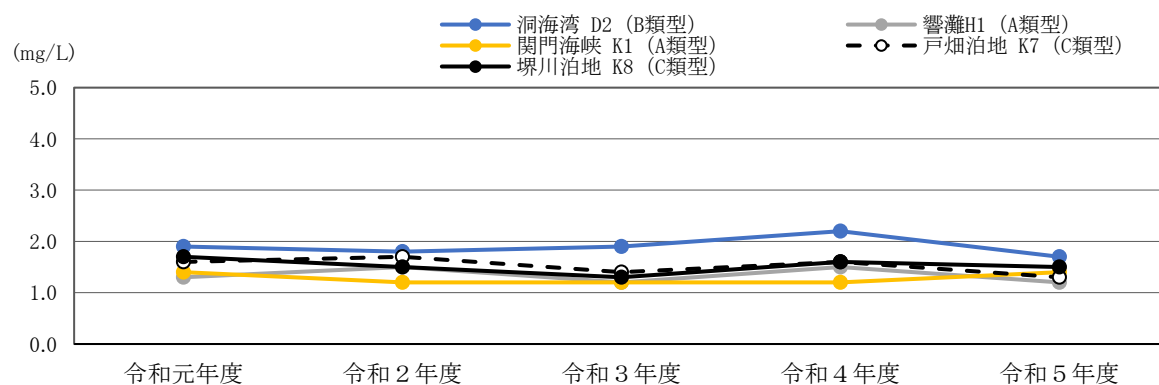
注：1. 図中番号は、第 3.1-16 図中の番号に対応する。

2. 「＊」は環境基準点を示す。

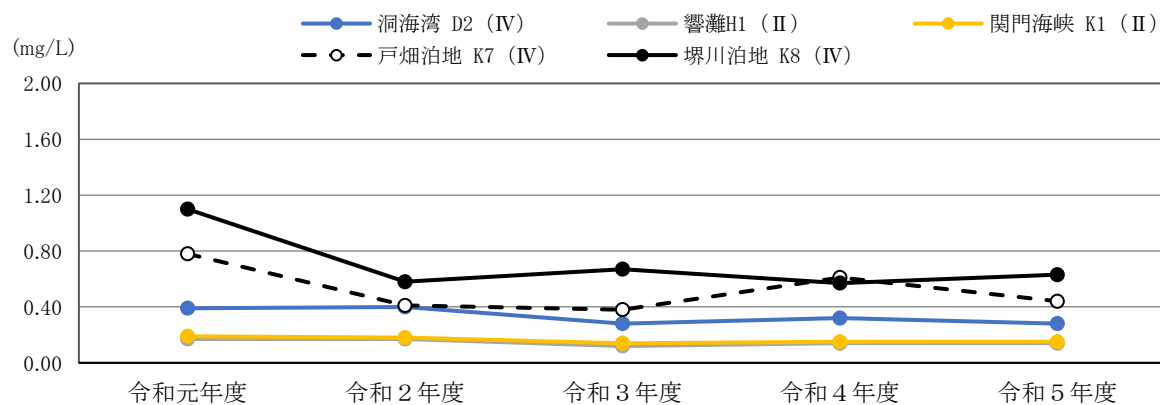
3. 「類型」は環境基準に定められた水域類型を示す。

「令和 2～6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 2～6 年）より作成

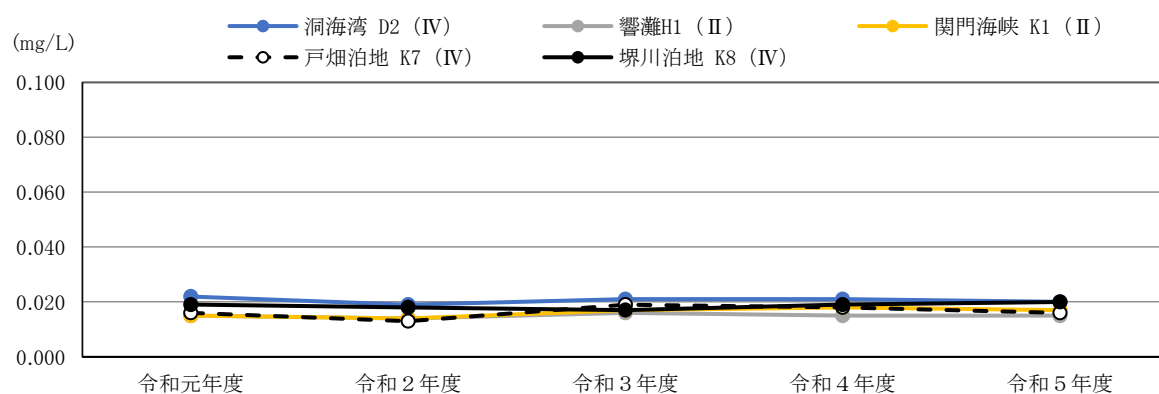
化学的酸素要求量 (COD)



全窒素 (T-N)



全磷 (T-P)



注：1. 化学的酸素要求量 (COD) は、75%値を示す。
2. 全窒素 (T-N)、全磷 (T-P) は、日間平均値の年平均値を示す。

「令和2年度～令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和2年～令和6年）より作成

第3.1-17図 水質の経年変化 (令和元～5年度)

(ロ) 人の健康の保護に関する項目（健康項目）

対象事業実施区域の周囲の海域における健康項目の測定は4測定点で行われており、令和5年度における公共用水域の水質測定結果は、第3.1-33表のとおりである。

環境基準の適合状況は、全ての測定点で適合している。

第3.1-33表 公共用水域の水質測定結果（健康項目、令和5年度）

(単位：mg/L)

図中番号 水域名・測定点名	D ₂	H ₁	K ₇	K ₈	環境基準
測定項目	洞海湾・ D ₂ *	響灘・ H ₁ *	戸畑泊地・ K ₇ *	堺川泊地・ K ₈ *	
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
全シアン	ND	ND	ND	ND	検出されないこと。
鉛	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02 以下
砒素	0.002	0.001	0.002	0.002	0.01 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	検出されないこと。
P C B	ND	ND	ND	ND	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
テトラクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	0.01 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	10 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下

注：1. 図中番号は、第3.1-16図中の番号に対応する。

2. 「*」は環境基準点を示す。

3. 「<」は定量下限値未満を示す。

4. 「ND」は検出されないことを示す。

5. 「検出されないこと。」とは、測定における定量限界値を下回ることを示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

(ハ) ダイオキシン類

対象事業実施区域の周囲の海域におけるダイオキシン類の測定は2測定点で行われており、令和5年度における公共用水域の水質測定結果は、第3.1-34表のとおりである。
環境基準の適合状況は、全ての測定点で適合している。

第3.1-34表 公共用水域の水質測定結果（ダイオキシン類、令和5年度）

(単位：pg-TEQ/L)

図中番号	水域名・測定点名	測定値	適否	環境基準
D ₂	洞海湾・D ₂	0.12	○	1以下
H ₁	響灘・H ₁	0.065	○	

注：1. 図中番号は、第3.1-16図中の番号に対応する。

2. 「適否」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

(二) 水 温

対象事業実施区域の周囲の海域における水温測定は5測定点で行われており、令和4年度における水温測定結果は、第3.1-35表のとおりである。

令和5年度における周辺海域の上層水温は、11.0～29.0℃の範囲にあり、測定点間に明確な差はなく、概ね7月、8月に最高、2月、3月に最低となる季節変化を示している。

第3.1-35表 公共用水域の水質測定結果（水温、令和5年度）

図中番号	水域名・測定点名	水温（℃）〔測定層：上層〕											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
D ₂	洞海湾・D ₂ ＊	17.5	20.0	22.5	28.5	29.0	28.0	23.5	20.0	15.5	12.5	11.5	11.5
H ₁	響灘・H ₁ ＊	17.0	19.0	22.0	28.0	28.0	27.5	24.0	20.5	17.0	12.0	11.5	11.0
K ₁	関門海峡・K ₁	－	17.0	－	－	26.5	－	－	19.0	－	－	11.5	－
K ₇	戸畑泊地・K ₇ ＊	17.5	20.0	22.0	28.0	29.0	28.5	24.5	21.0	16.5	13.5	14.0	12.0
K ₈	堺川泊地・K ₈ ＊	17.5	19.5	23.0	28.0	29.0	27.5	24.0	20.5	15.5	12.5	12.0	12.0

注：1. 図中番号は、第3.1-16図中の番号に対応する。

2. 「＊」は環境基準点を示す。

3. 「－」は、測定が実施されていないことを示す。

「北九州市 環境局環境監視部 環境監視課資料」（北九州市、令和6年）より作成

ロ. 河 川

対象事業実施区域の周囲の海域に流入する河川における公共用水域の水質の測定項目は第 3.1-36 表、水質測定点の位置は第 3.1-16 図のとおりである。

対象事業実施区域の周囲の海域に流入する河川は、生活環境項目に係る環境基準の類型が指定されており、生物化学的酸素要求量等については A 類型及び B 類型、全亜鉛等については生物 B 類型に指定されており、4 測定点で水素イオン濃度、生物化学的酸素要求量、浮遊物質等量の測定が行われている。

第 3.1-36 表 流入河川における公共用水域の水質の測定項目（令和 5 年度）

図中番号	河川名・測定点名	測定項目												健康項目	要監視項目
		生活環境項目													
		水素イオン濃度	溶存酸素量	生物化学的酸素要求量	浮遊物質質量	大腸菌数	化学的酸素要求量	全窒素	全燐	全亜鉛	ノニルフエノール	L A S			
R- 6	紫川・紫川取水堰 (R-6)	○	○	○	○	○	○	○	○						
R- 7	紫川・勝山橋 (R-7)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
R- 8	神嶽川・旦過橋 (R-8)	○	○	○	○	○	○	○	○				○		
R-11	板櫃川・新港橋 (R-11)	○	○	○	○	○	○	○	○				○		

- 注：1. 図中番号は、第 3.1-16 図中の番号に対応する。
 2. 「類型」は環境基準に定められた水域類型を示す。
 3. 「L A S」は、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩を示す。
 4. 河川名・測定点名及び測定項目に応じた類型区分は、第 3.1-37 表に示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成

（イ）生活環境の保全に関する項目（生活環境項目）

対象事業実施区域の周囲の海域に流入する河川における生活環境項目の測定は 4 河川の各測定点で行われており、令和 5 年度における公共用水域の水質測定結果は、第 3.1-37 表のとおりである。

水質汚濁の代表的指標である生物化学的酸素要求量の環境基準の適合状況は、全ての測定点で適合している。また、令和元～5 年度（5 年間）における水質の経年変化は、第 3.1-38 表及び第 3.1-18 図のとおりであり、ほぼ横ばい傾向となっている。

第3.1-37表(1) 公共用水域の水質測定結果（生活環境項目、令和 5 年度）

図中番号	河川名・測定点名	類型	水素イオン濃度 [pH]				
			最小	最大	平均	m/n	環境基準
R- 6	紫川・紫川取水堰(R-6)	A	7.9	8.4	8.1	0/12	6.5 以上 8.5 以下
R- 7	紫川・勝山橋(R-7)	B	7.7	8.1	7.9	0/12	6.5 以上 8.5 以下
R- 8	神嶽川・旦過橋(R-8)	B	7.6	8.2	7.9	0/12	
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	B	7.7	8.2	7.9	0/12	

- 注：1. 図中番号は、第 3.1-16 図中の番号に対応する。
 2. 「類型」は環境基準に定められた水域類型を示す。
 3. 「m/n」の欄は、「環境基準に適合していない検体数/総検体数」を示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成

第3. 1-37表(2) 公共用水域の水質測定結果（生活環境項目、令和5年度）

図中 番号	河川名・測定点名	類型	溶存酸素量 [D0] (mg/L)				
			最小	最大	平均	m/n	環境基準
R- 6	紫川・紫川取水堰(R-6)	A	7.7	11	9.6	1/12	7.5 以上
R- 7	紫川・勝山橋(R-7)	B	5.5	10	7.9	0/12	5 以上
R- 8	神嶽川・旦過橋(R-8)	B	6.1	11	7.5	0/12	
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	B	5.4	10	7.6	0/12	

図中 番号	河川名・測定点名	類型	生物化学的酸素要求量 [BOD] (mg/L)						
			最小	最大	平均	75%値	m/n	適否	環境基準
R- 6	紫川・紫川取水堰(R-6)	A	<0.5	0.5	0.5	<0.5	0/12	○	2 以下
R- 7	紫川・勝山橋(R-7)	B	<0.5	0.6	0.5	0.5	0/12	○	3 以下
R- 8	神嶽川・旦過橋(R-8)	B	<0.5	1.1	0.6	0.6	0/12	○	
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	B	<0.5	1.6	0.8	0.9	0/12	○	

図中 番号	河川名・測定点名	類型	浮遊物質質量 [SS] (mg/L)				環境基準
			最小	最大	平均	m/n	
R- 6	紫川・紫川取水堰(R-6)	A	1	5	2	0/12	25 以下
R- 7	紫川・勝山橋(R-7)	B	<1	4	2	0/12	
R- 8	神嶽川・旦過橋(R-8)	B	<1	14	3	0/12	
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	B	<1	4	2	0/12	

図中 番号	水域名・ 測定点名	類型	大腸菌数 (CFU/100mL)					
			最小	最大	平均	x/y	適否	環境基準
R- 6	紫川・紫川取水堰(R-6)	A	20	230	91(170)	0/12	○	300 以下
R- 7	紫川・勝山橋(R-7)	B	9	1,200	300(640)	1/12	○	1,000 以下
R- 8	神嶽川・旦過橋(R-8)	B	140	1,300	380(930)	1/12	○	
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	B	19	4,800	910 (3,800)	3/12	×	

図中 番号	河川名・測定点名	類型	全亜鉛 (mg/L)				環境基準
			最小	最大	平均	m/n	
R- 6	紫川・紫川取水堰(R-6)	生物 B	—	—	—	—	0.03 以下
R- 7	紫川・勝山橋(R-7)	生物 B	0.002	0.006	0.004	0/4	0.03 以下
R- 8	神嶽川・旦過橋(R-8)	—	—	—	—	—	—
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	—	—	—	—	—	—

- 注：1. 図中番号は、第3. 1-16 図中の番号に対応する。
2. 「類型」は環境基準に定められた水域類型を示す。
3. 「<」は定量下限値未満を示す。
4. 「m/n」の欄は、「環境基準に適合していない検体数/総検体数」を示す。
5. 「x/y」の欄は、「x:日平均値が環境基準を超えた日数/y:総測定日数」を示す。
6. 「75%値」は n 個の日間平均値を小さいものから順に並べたときの (0.75×n) 番目の数値である。
7. 「適否」の「○」は、BOD は 75%値で、大腸菌数は 90%値（平均欄のカッコ内数値）で環境基準に適合していることを示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）
「水質規制の手引」（北九州市環境局、令和6年）より作成

第3.1-37表(3) 公共用水域の水質測定結果（生活環境項目、令和5年度）

図中 番号	河川名・測定点名	類型	ノニルフェノール (mg/L)				
			最小	最大	平均	m/n	環境基準
R-6	紫川・紫川取水堰(R-6)	生物B	—	—	—	—	0.002以下
R-7	紫川・勝山橋(R-7)	生物B	<0.00006	<0.00006	<0.00006	0/4	0.002以下
R-8	神嶽川・旦過橋(R-8)	—	—	—	—	—	—
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	—	—	—	—	—	—

図中 番号	河川名・測定点名	類型	L A S (mg/L)				
			最小	最大	平均	m/n	環境基準
R-6	紫川・紫川取水堰(R-6)	生物B	—	—	—	—	0.05以下
R-7	紫川・勝山橋(R-7)	生物B	<0.0006	0.0011	0.0007	0/4	0.05以下
R-8	神嶽川・旦過橋(R-8)	—	—	—	—	—	—
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	—	—	—	—	—	—

- 注：1. 図中番号は、第3.1-16図中の番号に対応する。
2. 「類型」は環境基準に定められた水域類型を示す。
3. 「<」は定量下限値未満を示す。
4. 「m/n」の欄は、「環境基準に適合していない検体数/総検体数」を示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）
「水質規制の手引」（北九州市環境局、令和6年）より作成

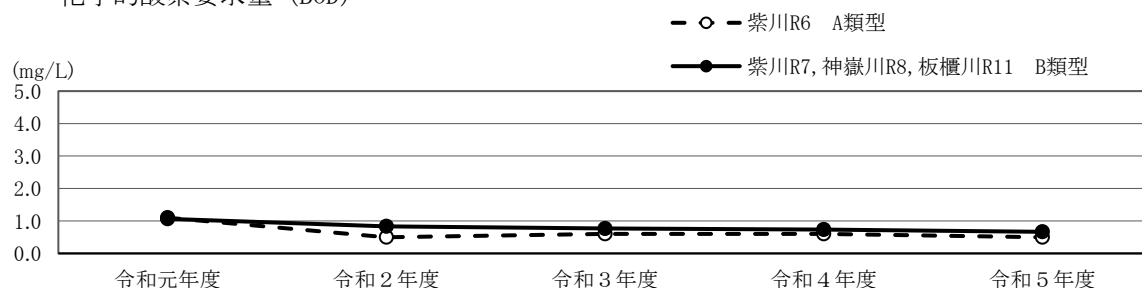
第3.1-38表 公共用水域の水質の経年変化（令和元～5年度）

図中 番号	河川名・測定点名	類型	生物化学的酸素要求量〔BOD〕 〔75%値〕 (mg/L)				
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
R-6	紫川・紫川取水堰(R-6)	A	1.1	0.5	0.6	0.6	<0.5
R-7	紫川・勝山橋(R-7)	B	0.8	0.8	0.7	0.8	0.5
R-8	神嶽川・旦過橋(R-8)	B	1.2	0.9	0.8	0.7	0.6
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	B	1.2	0.8	0.8	0.7	0.9

- 注：1. 図中番号は、第3.1-16図中の番号に対応する。
2. 「類型」は環境基準に定められた水域類型を示す。

「令和2～6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和2～6年）より作成

化学的酸素要求量（BOD）



- 注：1. 75%値を示す。
2. 「紫川R7, 神嶽川R8, 板櫃川R11 B類型」は各河川の平均値を示す。

「令和2年度～令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和2年～令和6年）より作成

第3.1-18図 水質の経年変化（令和元～5年度）

(ロ) 人の健康の保護に関する項目（健康項目）

対象事業実施区域の周囲の海域に流入する河川における健康項目の測定は3測定点で行われており、令和5年度における公共用水域の水質測定結果は、第3.1-39表のとおりである。

環境基準の適合状況は、ふっ素及びほう素を除き全ての測定点で適合している。

第3.1-39表 公共用水域の水質測定結果（健康項目、令和5年度）

（単位：mg/L）

図中番号 河川名・測定点名	R-7 紫川・ 勝山橋(R-7)	R-8 神嶽川・ 旦過橋(R-8)	R-11 板櫃川・ 新港橋(R-11)	環境基準
測定項目				
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
全シアン	ND	ND	ND	検出されないこと。
鉛	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	0.02 以下
砒素	0.002	0.002	0.003	0.01 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	ND	ND	ND	検出されないこと。
P C B	ND	ND	ND	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.01	<0.01	<0.01	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.1	<0.1	<0.1	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
テトラクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.1	<0.1	<0.1	10 以下
ふっ素	1.0	1.0	1.0	0.8 以下
ほう素	4.1	4.4	4.0	1 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下

注：1. 図中番号は、第3.1-16図中の番号に対応する。

2. 「<」は定量下限値未満を示す。

3. 「ND」は検出されないことを示す。

4. 「検出されないこと。」とは、測定における定量限界値を下回ることを示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

(ハ) ダイオキシン類

対象事業実施区域の周囲の海域に流入する河川におけるダイオキシン類の測定は2測定点で行われており、令和5年度における公共用水域の水質測定結果は、第3.1-40表のとおりである。

環境基準の適合状況は、全ての測定点で適合している。

第3.1-40表 公共用水域の水質測定結果（ダイオキシン類、令和5年度）

（単位：pg-TEQ/L）

図中番号	河川名・測定点名	測定値	適 否	環境基準
R-7	紫川・勝山橋(R-7)	0.066	○	1以下
R-11	板櫃川・新港橋(R-11)	0.13	○	

注：1. 図中番号は、第3.1-16図中の番号に対応する。

2. 「適否」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

ハ. 地下水

対象事業実施区域の周囲における地下水の水質測定は、地域の地下水の概況を把握するための調査が行われている。

地下水の水質測定点は、第 3. 1-16 図のとおりである。

(イ) 地下水の水質

対象事業実施区域の周囲における地下水の水質測定は 2 測定点で概況調査が行われており、令和 5 年度における地下水の水質測定結果は、第 3. 1-41 表のとおりである。

環境基準の適合状況は、全ての項目が適合している。

第3. 1-41表 地下水の水質測定結果（健康項目、令和 5 年度）

(単位：mg/L)

図中番号	T ₁	環境基準
地区名 測定項目	小倉北区 下富野	
カドミウム	ND	0.003 以下
全シアン	ND	検出されないこと。
鉛	ND	0.01 以下
六価クロム	ND	0.05 以下
砒素	0.004	0.01 以下
総水銀	ND	0.0005 以下
P C B	ND	検出されないこと。
ジクロロメタン	ND	0.02 以下
四塩化炭素	ND	0.002 以下
クロロエチレン（別名塩化ビニル 又は塩化ビニルモノマー）	ND	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	ND	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	ND	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン	ND	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	ND	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	ND	0.006 以下
トリクロロエチレン	ND	0.01 以下
テトラクロロエチレン	ND	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	ND	0.002 以下
チウラム	ND	0.006 以下
シマジン	ND	0.003 以下
チオベンカルブ	ND	0.02 以下
ベンゼン	ND	0.01 以下
セレン	ND	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	2.2	10 以下
ふっ素	0.1	0.8 以下
ほう素	ND	1 以下
1,4-ジオキサン	ND	0.05 以下

注：1. 図中番号は、第 3. 1-16 図中の番号に対応する。

2. 「ND」は検出されないことを示す。

3. 「検出されないこと。」とは、測定における定量限界値を下回ることを示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成

③ 水質汚濁に係る苦情の発生状況

令和元～5年度における水質汚濁に係る苦情の発生状況は、第3.1-42表のとおりである。

令和5年度における水質汚濁に係る苦情は、福岡県で249件、このうち北九州市で19件発生している。

第3.1-42表 水質汚濁に係る苦情の発生状況（令和元～5年度）

（単位：件）

地 域	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
福 岡 県	344	265	294	277	249
北九州市	45	29	44	37	19

「令和元～5年度 公害苦情調査」（総務省HP、令和6年12月閲覧）

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）

より作成

(3) 水底の底質の状況

対象事業実施区域の周囲の海域における水底の底質については、3 測定点で調査が行われており、令和 5 年度における公共用水域水底の底質測定結果は、第 3.1-43 表のとおりである。

有害物質等（溶出試験）の水底土砂の判定基準の適合状況は、全ての測定点で適合している。

第3.1-43表 公共用水域水底の底質測定結果（令和 5 年度）

図中番号				D ₂	K ₇	K ₈	水底土砂の 判定基準
水域名・測定点名				洞海湾・ D ₂	戸畑泊地・ K ₇	堺川泊地・ K ₈	
測定項目							
成分試験	一般項目	乾燥減量	%	62	52	57	—
		強熱減量	%	13	8.8	12	—
		化学的酸素要求量（COD）	mg/kg	13,000	8,800	11,000	—
		全窒素（T-N）	mg/kg	1,800	1,100	1,500	—
		全燐（T-P）	mg/kg	540	410	440	—
	有害物質等項目	総水銀	mg/kg	0.56	0.31	0.41	—
		カドミウム	mg/kg	1.0	0.9	0.7	—
		鉛	mg/kg	140	49	48	—
		六価クロム	mg/kg	ND	ND	ND	—
		砒素	mg/kg	14	11	13	—
		シアン	mg/kg	ND	ND	ND	—
		P C B	mg/kg	ND	ND	ND	—
		トリブチルスズ化合物	mg/kg	0.016	0.0043	0.0048	—
		トリフェニルスズ化合物	mg/kg	0.002	0.002	0.001	—
溶出試験	一般項目	化学的酸素要求量（COD）	mg/L	15	12	15	—
		全窒素（T-N）	mg/L	2.8	1.3	2.4	—
		全燐（T-P）	mg/L	0.24	0.18	0.25	—
	有害物質等項目	総水銀	mg/L	ND	ND	ND	0.005 以下
		カドミウム	mg/L	ND	ND	ND	0.1 以下
		鉛	mg/L	ND	ND	ND	0.1 以下
		六価クロム	mg/L	ND	ND	ND	0.5 以下
		砒素	mg/L	0.008	0.008	0.010	0.1 以下
		シアン	mg/L	ND	ND	ND	1.0 以下
		P C B	mg/L	ND	ND	ND	0.003 以下

- 注：1. 図中番号は、第 3.1-16 図中の番号に対応する。
2. 「ND」は検出されないこと、「—」は判定基準がないことを示す。
3. 「検出されないこと。」とは、測定における定量限界値を下回ることを示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成

対象事業実施区域の周囲の海域におけるダイオキシン類については、海域 1 測定点で調査が行われており、令和 5 年度における公共用水域水底の底質測定結果（ダイオキシン類）は、第 3.1-44 表のとおりである。

環境基準の適合状況は、1 測定点で適合している。

第3.1-44表 公共用水域水底の底質測定結果（ダイオキシン類、令和 5 年度）

(単位：pg-TEQ/g・dry)

水域	図中 番号	水域名・測定点名	測定値	適 否	環境基準
海域	D ₂	洞海湾・D ₂	22	○	150 以下

注：1. 図中番号は、第 3.1-16 図中の番号に対応する。

2. 「適否」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和 6 年）より作成

3.1.3 土壌及び地盤の状況

(1) 土壌の状況

① 土壌汚染の状況

対象事業実施区域の周囲の土壌のダイオキシン類の測定は、令和5年度に2地点で行われている。土壌の測定地点は第3.1-19図のとおりであり、土壌の測定結果は、第3.1-45表のとおりである。

環境基準の適合状況は、測定地点2地点で適合している。

第3.1-45表 土壌の測定結果（ダイオキシン類、令和5年度）

(単位：pg-TEQ/g・dry)

区 名	所在地	測定値	適 否	環境基準
戸畑区	小芝	0.036	○	1,000 以下
小倉北区	井堀	7.7	○	

注：「適否」の「○」は、環境基準に適合していることを示す。

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）より作成

② 対象事業実施区域の土地利用履歴

対象事業実施区域は、洞海湾口から紫川河口一帯の関門海峡に面した埋立地にあり、その埋立地と帯状に分布する臨海低地部は北九州工業地域である。

新小倉発電所敷地の土壌は、表層から約6mの深さまでが石炭灰による埋土（最表層は石炭灰飛散防止のため山土で覆土）で、それ以深の着石線まではシルトや礫まじり粘性土等による沖積地盤である。

新小倉発電所は、1961年に1号機、1962年に2号機が運転を開始して以降、1978年に3号機、1979年に4号機、1983年に5号機が順次運転を開始、その後、設備の高経年化に伴い、2004年10月に1、2号機、2022年3月に4号機をそれぞれ廃止し、現在に至っている。

③ 土壌汚染に係る苦情の発生状況

令和元～5年度における土壌汚染に係る苦情の発生状況は、第3.1-46表のとおりである。

令和5年度における土壌汚染に係る苦情は、福岡県で5件となっており、北九州市での発生はない。

第3.1-46表 土壌汚染に係る苦情の発生状況（令和元～5年度）

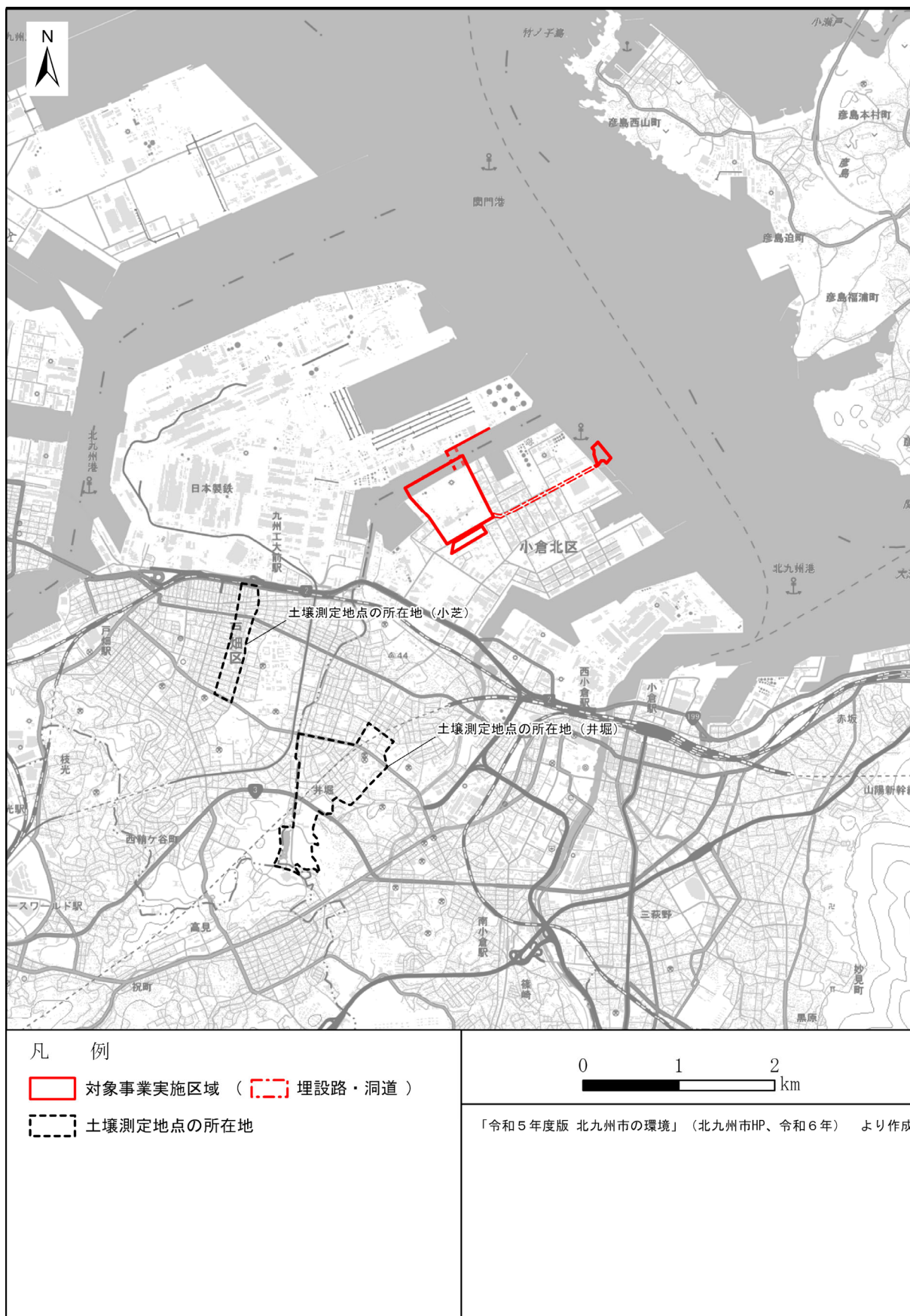
(単位：件)

地 域	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
福 岡 県	7	6	5	6	5
北九州市	0	0	0	0	0

「令和元～5年度 公害苦情調査」（総務省HP、令和6年12月閲覧）

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）等

より作成



第3.1-19図 土壌測定地点の位置

(2) 地盤の状況

① 地盤沈下の状況

対象事業実施区域及びその周囲では、「令和4年度全国の地盤沈下地域の概況」（環境省水・大気環境局、令和6年）によると地盤沈下は確認されていない。また、北九州市では「建築物用地下水の採取の規制に関する法律」（昭和37年法律第100号）及び「工業用水法」（昭和31年法律第146号）による地下水の制限地域はない。

② 地盤沈下に係る苦情の発生状況

令和元～5年度における地盤沈下に係る苦情の発生状況は、第3.1-47表のとおりである。

令和5年度における地盤沈下に係る苦情は、福岡県で1件となっており、北九州市での発生はない。

第3.1-47表 地盤沈下に係る苦情の発生状況（令和元～5年度）

（単位：件）

地 域	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
福 岡 県	0	0	2	0	1
北九州市	0	0	0	0	0

「令和元～5年度 公害苦情調査」（総務省 HP、令和6年12月閲覧）

「令和6年度版 北九州市の環境」（北九州市、令和6年）等

より作成

3.1.4 地形及び地質の状況

(1) 地形の状況

① 陸上の地形

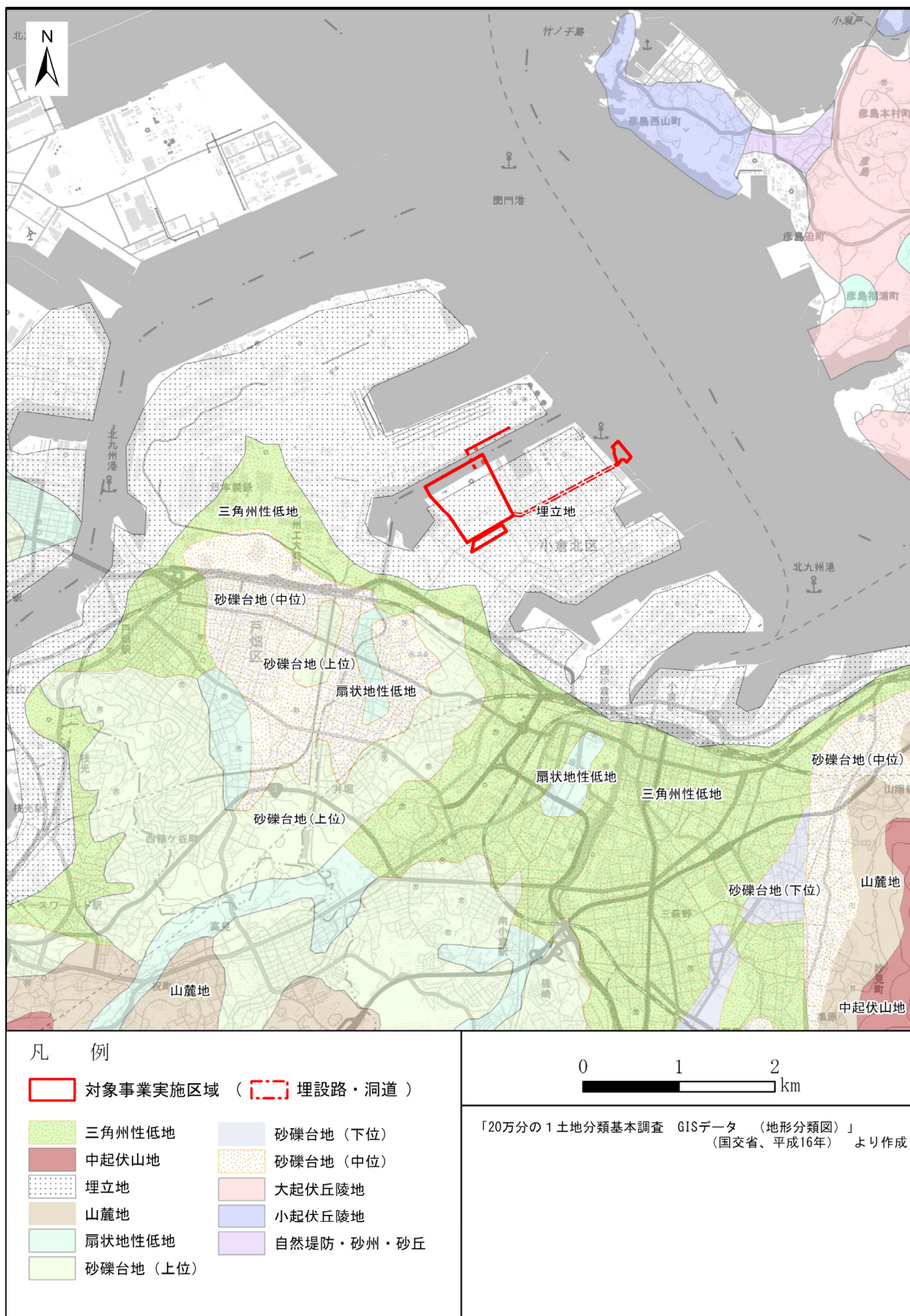
対象事業実施区域及びその周囲の陸上の地形は、第 3.1-20 図のとおりである。

対象事業実施区域は洞海湾口から紫川河口一帯の関門海峡に面した広大な埋立地であり、その埋立地と帯状に分布する臨海低地部は北九州市臨海部に広がる工業地域である。埋立地に隣接する低地は中小の河川による三角州低地や扇状地低地からなり、低地部に台地が複雑に入り組んだ地形に市街地が発達している。市街地の背後には山麓地や中起伏山地が広く分布している。

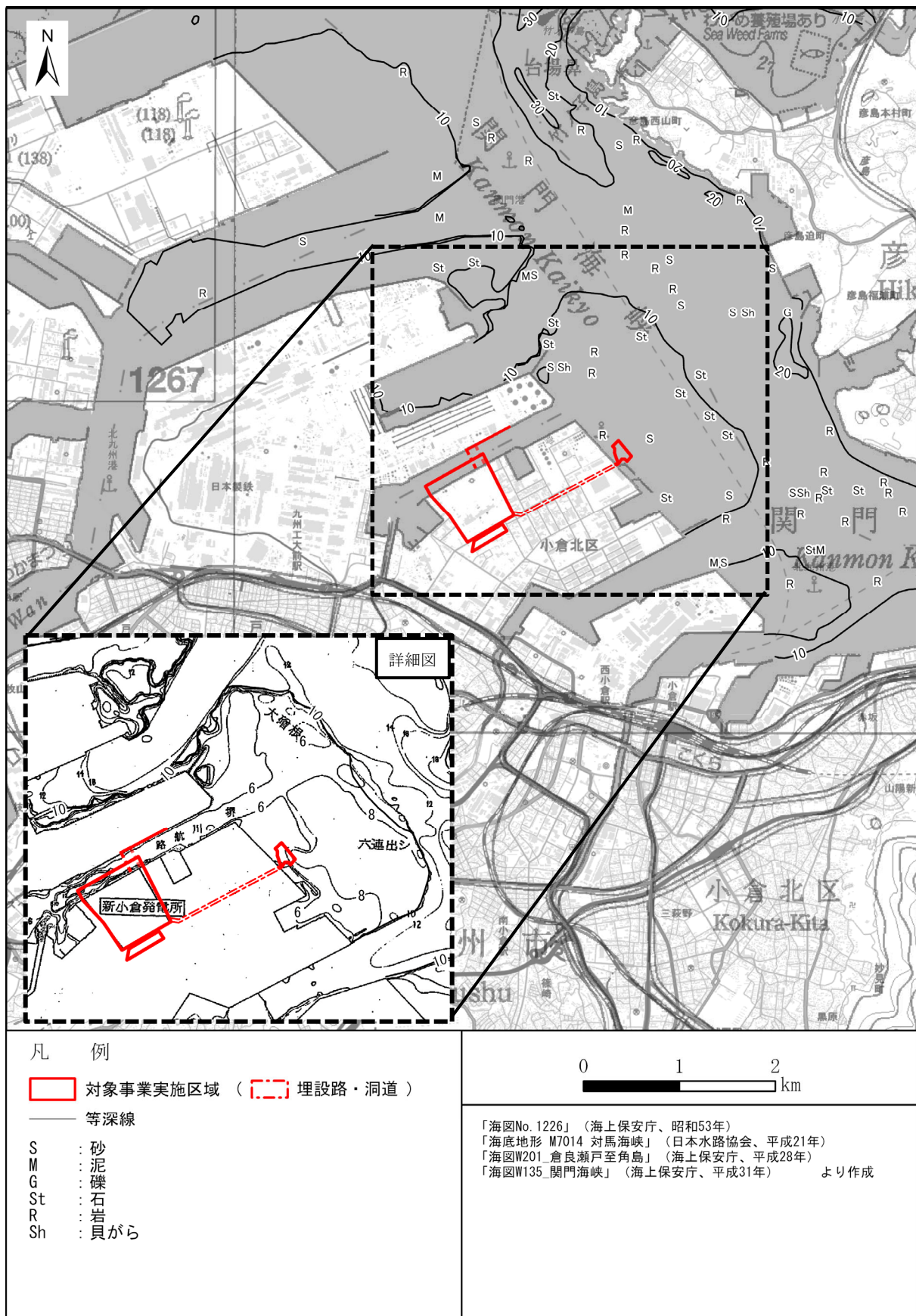
② 海底の地形

対象事業実施区域の周囲の海底地形は、第 3.1-21 図のとおりである。

対象事業実施区域の周囲の海域の海底は、全体的に水路状の地形を呈している。水深 20m 前後の深部は、彦島沿岸など下関側に偏在しており、大曾根、六連出シ付近は比高（水深差）2 ～ 4 m の段丘状地形である。



第 3.1-20 図 地形分類図



第 3.1-21 図 海底地形及び底質の状況

（２）地質の状況

① 陸上の地質

対象事業実施区域及びその周囲の表層地質は、第 3. 1-22 図のとおりである。

対象事業実施区域の地質は「盛り土・埋立地・干拓地」となっており、その周囲の地質は、「盛り土・埋立地・干拓地」、「谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物」、「汽水成層ないし海成・非海成混合層砂岩、砂岩泥岩互層ないし砂岩・泥岩」、「段丘堆積物」等が分布している。

対象事業実施区域及びその周囲の表層土壌は、第 3. 1-23 図のとおりである。

対象事業実施区域は埋立地で、その周囲の土壌は、未区分地の「人工改変地」が広く分布している。

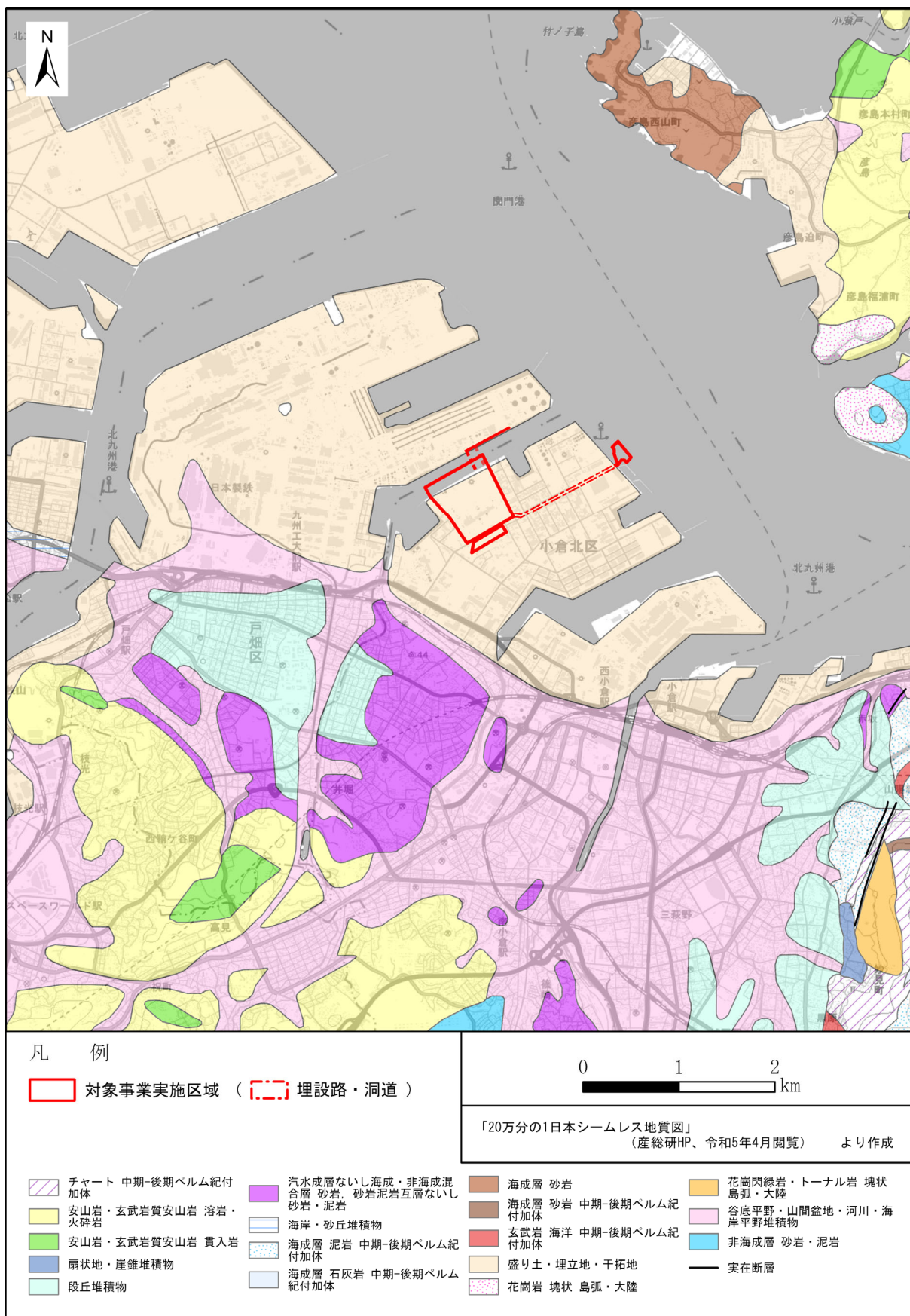
② 海底の底質

対象事業実施区域の周囲の海底底質の状況は、第 3. 1-21 図のとおりである。

対象事業実施区域の周囲の海域の海底底質は、大曾根、六連出シを中心とした海峡の中央部に礫質が多く、その周囲には砂質が分布している。また、堺川航路は水深約 7. 5m の泥質海底である。

（３）重要な地形、地質

対象事業実施区域及びその周囲には、「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）、「日本の地形レッドデータブック第 1 集－危機にある地形－」（古今書院、2000 年）及び「日本の地形レッドデータブック第 2 集－保存すべき地形－」（古今書院、2002 年）により指定される重要な地形及び地質はない。また、「日本の典型地形」（国土地理院、平成 11 年）で選定される典型地形はない。



第 3.1-22 図 表層地質図



第 3.1-23 図 表層土壌図

3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物の生息の状況

① 動物相の概要（陸域）

対象事業実施区域が位置する北九州市のうち小倉北区、戸畑区、若松区、門司区における文献その他の資料による陸域の動物相の概要は、第3.1-48表のとおりである。哺乳類19種、鳥類317種、爬虫類14種、両生類17種、昆虫類304種が確認されている。

第3.1-48表 陸域の動物相の概要

分 類	既存資料による主な出現種
哺乳類	ジネズミ、コキクガシラコウモリ、ノウサギ、ハタネズミ、タヌキ等19種
鳥 類	ウズラ、サカツラガン、カイツブリ、カラスバト、アビ等317種
爬虫類	ニホンイシガメ、アカミミガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ニホントカゲ等14種
両生類	カスミサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、アマガエル、タゴガエル等17種
昆虫類	ホソミオツネントンボ、クツワムシ、ミンミンゼミ、オオカマキリモドキ、サツマニシキ本土亜種等304種

「北九州市の希少野生生物」（北九州市、平成20年）

「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2011（植物群落・植物・哺乳類・鳥類）」（福岡県、平成23年）

「響灘ビオトープの水辺の生き物」（福岡県立北九州高等学校魚部・北九州市響灘ビオトープ、平成25年）

「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014

（爬虫類・両生類・魚類・昆虫類・貝類・甲殻類その他・クモ形類等）」（福岡県、平成26年）

「自然環境調査Web-GIS（第2-6回動植物分布調査）」（環境省HP、令和6年11月閲覧）

「わたしたちの自然史 第123号～第155号」（北九州市自然史・歴史博物館自然史友の会、平成25年～令和6年）より作成

② 重要な種及び注目すべき生息地の概要（陸域）

イ．動物の重要な種

既存資料に記載されている確認種について、第 3.1-49 表に示す選定根拠に基づき、学術上又は希少性の観点から、重要な種を選定した。

重要な種は第 3.1-50～54 表のとおりであり、対象事業実施区域及びその周囲において、哺乳類 5 種、鳥類 117 種、爬虫類 6 種、両生類 12 種、昆虫類 99 種が確認されている。

第 3.1-49 表 陸域の動物の重要な種の選定根拠

選定根拠			参考文献等
全 国	①「文化財保護法」により指定されているもの	・国指定特別天然記念物（特天） ・国指定天然記念物（国天）	・「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）
	②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」により指定されているもの	・国内希少野生動植物種（国内） ・国際希少野生動植物種（国際） ・特定第二種国内希少野生動植物種（特二）	・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）
	③「レッドリスト」（環境省）に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧 IA 類（CR） ・絶滅危惧 IB 類（EN） ・絶滅危惧 II 類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・地域個体群（LP）	・「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（環境省、令和 2 年）
	④野生水生生物に関する「データブック」（水産庁編）に取り上げられているもの	・絶滅危惧種（危惧） ・危急種（危急） ・希少種（希少） ・減少種（減少） ・減少傾向（減傾） ・地域個体群（地域）	・「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」（水産庁、平成 10 年）
福 岡 県	⑤「文化財保護条例」により指定されているもの	・県指定天然記念物（県天） ・市指定天然記念物（市天）	・「福岡県文化財保護条例」（昭和 30 年条例第 25 号） ・「北九州市文化財保護条例」（昭和 45 年条例第 32 号） ・「天然記念物緊急調査 40 福岡県」（文化庁、昭和 52 年）
	⑥「福岡県希少野生動植物の保護に関する条例」により指定されているもの	・指定希少野生動植物（指定）	・「福岡県希少野生動植物の保護に関する条例」（令和 2 年福岡県条例第 42 号）
	⑦「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック」に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧 IA 類（CR） ・絶滅危惧 IB 類（EN） ・絶滅危惧 II 類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD）	・「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011（哺乳類・鳥類）」（福岡県、平成 23 年） ・「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014（爬虫類・両生類・魚類・昆虫類・貝類・甲殻類その他・クモ形類等）」（福岡県、平成 26 年）

第 3. 1-50 表 哺乳類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	—	—	—	—	—	—	NT
2	サル	オナガザル	ニホンザル	—	—	—	—	—	—	NT
3	ネズミ	ネズミ	ハタネズミ	—	—	—	—	—	—	NT
4			カヤネズミ	—	—	—	—	—	—	VU
5	ネコ	イヌ	キツネ	—	—	—	—	—	—	NT

注：1. 種の分類及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、令和6年）に従った。
2. 重要な種の選定根拠は第 3. 1-49 表に対応する。
3. 「—」は、該当がないことを示す。

第 3. 1-51 表(1) 鳥類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	カモ	カモ	コクガン	国天	—	VU	希少	—	—	—
2			サカツラガン	—	—	DD	—	—	—	—
3			ヒシクイ	国天	—	VU	—	—	—	—
4			マガン	国天	—	NT	—	—	—	—
5			ツクシガモ	—	—	VU	—	—	—	NT
6			アカツクシガモ	—	—	DD	—	—	—	—
7			オシドリ	—	—	DD	—	—	—	NT
8			トモエガモ	—	—	VU	—	—	—	VU
9			シノリガモ	—	—	—	—	—	—	VU
10			クロガモ	—	—	—	—	—	—	VU
11			ホオジロガモ	—	—	—	—	—	—	VU
12			ミコアイサ	—	—	—	—	—	—	VU
13	キジ	キジ	ヤマドリ	—	—	注 4	—	—	—	VU
14			ウズラ	—	—	VU	—	—	—	DD
15	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	—	—	NT	—	—	—	EN
16	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	—	—	—	—	—	—	NT
17			ツツドリ	—	—	—	—	—	—	NT
18	ハト	ハト	カラスバト	国天	—	NT	—	—	—	VU
19	ツル	クイナ	クイナ	—	—	—	—	—	—	NT
20			ヒクイナ	—	—	NT	—	—	—	NT
21		ツル	マナヅル	—	国際	VU	—	—	—	—
22			ナベヅル	—	国際	VU	—	—	—	—
23	カイツブリ	カイツブリ	アカエリカイツブリ	—	—	—	—	—	—	VU
24			カンムリカイツブリ	—	—	—	—	—	—	NT
25	チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ	—	—	—	—	—	—	VU
26		セイタカシギ	セイタカシギ	—	—	VU	希少	—	—	—
27		チドリ	タゲリ	—	—	—	—	—	—	NT
28			ケリ	—	—	DD	—	—	—	NT
29			イカルチドリ	—	—	—	—	—	—	VU
30			シロチドリ	—	—	VU	—	—	—	NT
31			オオメダイチドリ	—	国際	—	—	—	—	—
32			メダイチドリ	—	国際	—	—	—	—	—
33		タマシギ	タマシギ	—	—	VU	—	—	—	NT
34		シギ	コシャクシギ	—	国際	EN	—	—	—	—
35			ホウロクシギ	—	国際	VU	—	—	—	VU
36			ダイシャクシギ	—	—	—	—	—	—	VU
37			オオソリハシシギ	—	—	VU	—	—	—	NT
38			オグロシギ	—	—	—	—	—	—	NT
39			コオバシギ	—	国際	—	—	—	—	—
40			ウズラシギ	—	—	—	—	—	—	VU

第 3.1-51 表(2) 鳥類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
41	チドリ	シギ	サルハマシギ	—	国際	—	—	—	—	—
42			ヘラシギ	—	国内	CR	—	—	—	CR
43			ミユビシギ	—	—	—	—	—	—	NT
44			ハマシギ	—	—	NT	—	—	—	NT
45			シベリアオオハシシギ	—	—	DD	—	—	—	—
46			オオジシギ	—	—	NT	—	—	—	—
47			アカアシシギ	—	—	VU	—	—	—	—
48			タカブシギ	—	—	VU	—	—	—	VU
49			ツルシギ	—	—	VU	—	—	—	—
50			カラフトアオアシシギ	—	国内	CR	—	—	—	CR
51		ツバメチドリ	ツバメチドリ	—	—	VU	—	—	—	VU
52		カモメ	ズグロカモメ	—	—	VU	危惧	—	—	VU
53			オオセグロカモメ	—	—	NT	—	—	—	—
54			コアジサシ	—	—	VU	—	—	VU	VU
55			ベニアジサシ	—	—	VU	—	—	—	EN
56			エリグロアジサシ	—	—	VU	—	—	—	—
57		ウミスズメ	ウミスズメ	—	—	CR	危惧	—	—	NT
58			カンムリウミスズメ	国天	—	VU	危惧	—	—	CR
59	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	特天	国内	CR	—	—	—	—
60	カツオドリ	ウ	ヒメウ	—	—	EN	—	—	—	—
61	ペリカン	トキ	ヘラサギ	—	—	DD	—	—	—	EN
62			クロツラヘラサギ	—	国内	EN	危惧	—	—	EN
63		サギ	サンカノゴイ	—	—	EN	—	—	—	NT
64			ヨシゴイ	—	—	NT	—	—	CR	CR
65			ミゾゴイ	—	—	VU	—	—	—	EN
66			ササゴイ	—	—	—	—	—	—	NT
67			アマサギ	—	—	—	—	—	—	NT
68			チュウサギ	—	—	NT	希少	—	—	NT
69			クロサギ	—	—	—	—	—	—	NT
70			カラシラサギ	—	—	NT	—	—	—	EN
71	タカ	ミサゴ	ミサゴ	—	—	NT	—	—	—	—
72		タカ	ハチクマ	—	—	NT	—	—	—	NT
73			クマタカ	—	国内	EN	—	—	—	EN
74			カタシロワシ	—	国際	—	—	—	—	—
75			イヌワシ	国天	国内	EN	—	—	—	—
76			ツミ	—	—	—	—	—	—	VU
77			ハイタカ	—	—	NT	—	—	—	—
78			オオタカ	—	—	NT	—	—	—	NT
79			チュウヒ	—	国内	EN	—	—	—	CR
80			ハイイロチュウヒ	—	—	—	—	—	—	NT
81			オジロワシ	国天	国内	VU	—	—	—	—
82			サシバ	—	—	VU	—	—	—	NT
83			ノスリ	—	—	—	—	—	—	NT
84	フクロウ	フクロウ	アオバズク	—	—	—	—	—	—	VU
85			コノハズク	—	—	—	—	—	—	CR
86			リュウキュウコノハズク	—	—	—	—	—	—	CR
87			オオコノハズク	—	—	—	—	—	—	DD
88			コミミズク	—	—	—	—	—	—	VU
89	ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ	—	—	EN	—	—	—	CR
90		カワセミ	アカショウビン	—	—	—	—	—	—	VU
91			ヤマセミ	—	—	—	—	—	—	NT
92	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	—	—	—	—	—	—	VU
93	ハヤブサ	ハヤブサ	コチョウゲンボウ	—	—	—	—	—	—	NT
94			ハヤブサ	—	国内	VU	—	—	—	VU

第 3.1-51 表(3) 鳥類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
95	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	—	国内	EN	—	—	—	EN
96		サンショウクイ	サンショウクイ	—	—	VU	—	—	—	—
97		カササギヒタキ	サンコウチョウ	—	—	—	—	—	—	VU
98		モズ	チゴモズ	—	—	CR	—	—	—	—
99			アカモズ	—	国内	EN	—	—	—	—
100		シジュウカラ	コガラ	—	—	—	—	—	—	DD
101		ツリスガラ	ツリスガラ	—	—	—	—	—	—	NT
102		ツバメ	コシアカツバメ	—	—	—	—	—	—	NT
103		ムシクイ	センダイムシクイ	—	—	—	—	—	—	VU
104		ヨシキリ	オオヨシキリ	—	—	—	—	—	—	NT
105		センニュウ	マキノセンニュウ	—	—	NT	—	—	—	—
106		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	—	—	—	—	—	—	NT
107		ヒタキ	クロツグミ	—	—	—	—	—	—	NT
108			コサメビタキ	—	—	—	—	—	—	DD
109			オオルリ	—	—	—	—	—	—	NT
110			コルリ	—	—	—	—	—	—	EN
111			コマドリ	—	—	—	—	—	—	CR
112		スズメ	ニュウナイスズメ	—	—	—	—	—	—	NT
113		イワヒバリ	カヤクグリ	—	—	—	—	—	—	NT
114		アトリ	ハギマシコ	—	—	—	—	—	—	NT
115		ホオジロ	シマアオジ	—	国内	CR	—	—	—	—
116			ノジコ	—	—	NT	—	—	—	—
117			コジュリン	—	—	VU	—	—	—	—

- 注：1. 種の分類及び配列は原則として、「鳥類目録改訂第8版」（日本鳥類学会、令和6年）に従った。
2. 重要な種の選定根拠は第3.1-49表に対応する。
3. 「—」は、該当がないことを示す。
4. 亜種アカヤマドリ又はコシジロヤマドリの場合はNTに該当する。

第 3.1-52 表 爬虫類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	—	—	NT	—	—	—	VU
2		スッポン	ニホンスッポン	—	—	DD	—	—	—	DD
3	有鱗	タカチホヘビ	タカチホヘビ	—	—	—	—	—	—	VU
4		ナミヘビ	ジムグリ	—	—	—	—	—	—	NT
5			シロマダラ	—	—	—	—	—	—	NT
6			ヒバカリ	—	—	—	—	—	—	NT

- 注：1. 種の分類及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、令和6年）に従った。
2. 重要な種の選定根拠は第3.1-49表に対応する。
3. 「—」は、該当がないことを示す。

第 3.1-53 表(1) 両生類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	有尾	サンショウウオ	カスミサンショウウオ	—	特二	VU	—	—	—	VU
2			ブチサンショウウオ	—	特二	EN	—	—	—	NT
3			コガタブチサンショウウオ	—	特二	VU	—	—	—	VU
4			チクシブチサンショウウオ	—	特二	VU	—	—	—	NT
5		オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	特天	国際	VU	—	—	—	CR
6		イモリ	アカハライモリ	—	—	NT	—	—	—	NT

第 3. 1-53 表(2) 両生類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
7	無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	—	—	—	—	—	—	VU
8		アカガエル	ニホンアカガエル	—	—	—	—	—	—	VU
9			ヤマアカガエル	—	—	—	—	—	—	VU
10			トノサマガエル	—	—	NT	—	—	—	EN
11			ツチガエル	—	—	—	—	—	—	NT
12		アオガエル	カジカガエル	—	—	—	—	—	—	NT

注：1. 種の分類及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、令和6年）に従った。

2. 重要な種の選定根拠は第 3. 1-49 表に対応する。

3. 「—」は、該当がないことを示す。

第 3. 1-54 表(1) 昆虫類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	トンボ	アオイトトンボ	オツネイトンボ	—	—	—	—	—	—	NT
2		イトトンボ	キイトトンボ	—	—	—	—	—	—	NT
3			ベニイトトンボ	—	—	NT	—	—	—	—
4			ヒメイトトンボ	—	—	EN	—	—	—	CR
5			オオイトトンボ	—	—	—	—	—	—	CR
6		カワトンボ	アオハダトンボ	—	—	NT	—	—	—	VU
7		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	—	—	NT	—	—	—	VU
8			アオヤンマ	—	—	NT	—	—	—	VU
9		サナエトンボ	キイロサナエ	—	—	NT	—	—	—	VU
10			アオサナエ	—	—	—	—	—	—	NT
11			ホンサナエ	—	—	—	—	—	—	EN
12			タベサナエ	—	—	NT	—	—	—	NT
13			フタスジサナエ	—	—	NT	—	—	—	VU
14			オグマサナエ	—	—	NT	—	—	—	VU
15		トンボ	ベッコウトンボ	—	国内	CR	—	—	—	CR
16			ハッチョウトンボ	—	—	—	—	—	—	CR
17	カメムシ	セミ	ハルゼミ	—	—	—	—	—	—	NT
18		アメンボ	エサキアメンボ	—	—	NT	—	—	—	VU
19			ババアメンボ	—	—	NT	—	—	—	EN
20		カタビロアメンボ	オヨギカタビロアメンボ	—	—	NT	—	—	—	EN
21		ミズムシ	ミゾナシミズムシ	—	—	NT	—	—	—	VU
22			オオミズムシ	—	—	NT	—	—	—	VU
23			ナガミズムシ	—	—	NT	—	—	—	EN
24			オモナガコミズムシ	—	—	—	—	—	—	VU
25			ミヤケミズムシ	—	—	NT	—	—	—	NT
26		コオイムシ	コオイムシ	—	—	NT	—	—	—	NT
27			タガメ	—	特二	VU	—	—	—	CR
28		タイコウチ	ミズカマキリ	—	—	—	—	—	—	NT
29	アミメカゲロウ	カマキリモドキ	オオカマキリモドキ	—	—	—	—	—	—	VU
30		ウスバカゲロウ	ハマベウスバカゲロウ	—	—	—	—	—	—	EN
31			オオウスバカゲロウ	—	—	—	—	—	—	VU
32	チョウ	セセリチョウ	ミヤマセセリ	—	—	—	—	—	—	NT
33			ヒメキマダラセセリ	—	—	—	—	—	—	NT
34		シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	—	—	—	—	—	—	NT
35			コツバメ	—	—	—	—	—	—	VU
36			アカシジミ	—	—	—	—	—	—	NT
37			クロツバメシジミ九州沿岸亜種	—	—	NT	—	—	—	NT
38			シルビアシジミ	—	—	EN	—	—	—	VU

第 3. 1-54 表 (2) 昆虫類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
39	チョウ	タテハチョウ	オオウラギンスジヒョウモン	—	—	—	—	—	—	VU
40			メスグロヒョウモン	—	—	—	—	—	—	NT
41			オオウラギンヒョウモン	—	—	CR	—	—	—	CR
42			ヒカゲチョウ	—	—	—	—	—	—	EN
43			ジャノメチョウ	—	—	—	—	—	—	NT
44			クモガタヒョウモン	—	—	—	—	—	—	VU
45			ヒオドシチョウ	—	—	—	—	—	—	NT
46			オオムラサキ	—	—	NT	—	—	—	NT
47			ウラナミジャノメ本土亜種	—	—	VU	—	—	—	VU
48		シロチョウ	ツマグロキチョウ	—	—	EN	—	—	—	VU
49			ヤマトスジグロシロチョウ 本州中・南部亜種	—	—	—	—	—	—	NT
50	ハエ	スズメガ	オオシモフリスズメ	—	—	—	—	—	—	VU
51		ヤガ	オオチャバネヨトウ	—	—	VU	—	—	—	EN
52		ハルカ	ハマダラハルカ	—	—	DD	—	—	—	NT
53	コウチュウ	クサアブ	シマクサアブ	—	—	DD	—	—	—	VU
54		オサムシ	セアカオサムシ	—	—	NT	—	—	—	NT
55			オオサカアオゴミムシ	—	—	DD	—	—	—	VU
56			オサムシモドキ	—	—	—	—	—	—	NT
57			ナカオメクラチビゴミムシ	—	—	EN	—	—	—	DD
58		ハンミョウ	シロヘリハンミョウ	—	—	NT	—	—	—	VU
59		ゲンゴロウ	シマケシゲンゴロウ	—	—	—	—	—	—	VU
60			テラニシセスジゲンゴロウ	—	—	—	—	—	—	VU
61			チンメルマンセスジゲンゴロウ	—	—	—	—	—	—	NT
62			ゲンゴロウ	—	特二	VU	—	—	—	CR
63			コガタノゲンゴロウ	—	—	VU	—	—	—	VU
64			シマゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	EN
65			ウスイロシマゲンゴロウ	—	—	—	—	—	—	NT
66			スジゲンゴロウ	—	—	EX	—	—	—	EX
67			アンピンチビゲンゴロウ	—	—	DD	—	—	—	—
68			コマルケシゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	NT
69			オオマルケシゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	VU
70			オニギリマルケシゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	VU
71			ヤギマルケシゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	CR
72			ケシゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	NT
73			キバリクロヒメゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	NT
74			コウベツブゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	EN
75			ルイスツブゲンゴロウ	—	—	VU	—	—	—	NT
76			シャープツブゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	CR
77			マルチビゲンゴロウ	—	—	NT	—	—	—	VU
78			ホソマルチビゲンゴロウ	—	—	DD	—	—	—	NT
79		ミズスマシ	オオミズスマシ	—	—	NT	—	—	—	NT
80		コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ	—	—	VU	—	—	—	VU
81		コツブゲンゴロウ	キボシチビコツブゲンゴロウ	—	—	EN	—	—	—	EN
82			ムモンチビコツブゲンゴロウ	—	—	VU	—	—	—	EN
83		ホソガムシ	チュウブホソガムシ	—	—	VU	—	—	—	VU
84		ガムシ	マルヒラタガムシ	—	—	NT	—	—	—	EN
85			スジヒラタガムシ	—	—	NT	—	—	—	—
86			コガムシ	—	—	DD	—	—	—	VU
87			シジミガムシ	—	—	EN	—	—	—	DD
88			チビシジミガムシ	—	—	—	—	—	—	DD
89			チビマルガムシ	—	—	—	—	—	—	DD

第 3. 1-54 表(3) 昆虫類の重要な種

No.	目 名	科 名	種 名	選定根拠						
				全 国				福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
90	コウチュウ	コガネムシ	ニセマダラコガネ	—	—	—	—	—	—	VU
91			ニセセマルケシマダラコガネ	—	—	—	—	—	—	NT
92		ヒメドロムシ	キベリナガアシドロムシ	—	—	—	—	—	—	NT
93			ハガマルヒメドロムシ	—	—	EN	—	—	—	EN
94			ヨコミヅドロムシ	—	—	VU	—	—	—	NT
95			セマルヒメドロムシ	—	—	VU	—	—	—	VU
96		コメツキムシ	アカオオハナコメツキ	—	—	—	—	—	—	VU
97		ハムシ	フトネクイハムシ	—	—	—	—	—	—	CR
98		ゾウムシ	スナムグリヒョウタンゾウムシ	—	—	—	—	—	—	NT
99	ハチ	ハキリバチ	ネジロハキリバチ	—	—	—	—	—	—	DD

注：1. 種の分類及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、令和 6 年）に従った。

2. 重要な種の選定根拠は第 3. 1-49 表に対応する。

3. 「—」は、該当がないことを示す。

ロ. 動物の注目すべき生息地（陸域）

対象事業実施区域及びその周囲における動物の注目すべき生息地について、第 3. 1-55 表に示す選定根拠に基づいて選定した。

動物の注目すべき生息地の選定結果は第 3. 1-56 表及び第 3. 1-24 図のとおりであり、対象事業実施区域及びその周囲には、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号）において指定された鳥獣保護区（足立山鳥獣保護区、到津鳥獣保護区、帆柱山鳥獣保護区）及び「都市緑地法」（昭和 48 年法律第 72 号）において指定された特別緑地保全地区（夜宮特別緑地保全地区、番所跡特別緑地保全地区、須賀特別緑地保全地区、小文字特別緑地保全地区）がある。

第 3. 1-55 表 陸域の動物の注目すべき生息地の選定根拠

選定根拠		参考文献等
全 国	①「文化財保護法」により指定されているもの	・国指定特別天然記念物（特天） ・国指定天然記念物（国天）
	②「ラムサール条約」により指定されているもの	・ラムサール条約湿地
	③「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」により選定されているもの	・重要湿地
	④「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」により指定されているもの	・鳥獣保護区
	⑤「IBA（重要野鳥生息地）」により選定されているもの	・重要野鳥生息地
	⑥「都市緑地法」により指定されているもの	・特別緑地保全地区
福岡県	⑦「福岡県文化財保護条例」により指定されているもの	・県指定天然記念物（県天） ・市指定天然記念物（市天）

第 3. 1-56 表 動物の注目すべき生息地（陸域）

名称	選定根拠						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
足立山鳥獣保護区				○			
到津鳥獣保護区				○			
帆柱山鳥獣保護区				○			
夜宮特別緑地保全地区						○	
番所跡特別緑地保全地区						○	
須賀特別緑地保全地区						○	
小文字特別緑地保全地区						○	

注：注目すべき生息地の選定根拠は第 3. 1-55 表に対応する。

③ 動物相の概要（海域）

対象事業実施区域の周囲の海域における文献その他の資料による海域の動物相の概要は、第3.1-57表のとおりである。

第3.1-57表 海域の動物相の概要

項 目		既存資料による主な出現種
海棲哺乳類		ゴマフアザラシ、ミンククジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ、マイルカ、ハナゴンドウ、カマイルカ、ハンドウイルカ、スナメリ、マッコウクジラ、オウギハクジラ等 24 種
海棲爬虫類		アオウミガメ、アカウミガメ、タイマイ 3 種
魚等の遊泳動物		カタクチイワシ、ニホンウナギ、アユ、ボラ、スズキ、カワアナゴ、マハゼ、シロウオ、イドミミズハゼ、トビハゼ、チチブ、トラフグ、アオリイカ、マダコ等
潮間帯生物 及び 底生生物		ヨメガカサ、イボキサゴ、ボサツガイ、マクラガイ、オオノガイ、 <i>Glycinde</i> sp.、ドロオニスビオ、ミズヒキゴカイ、 <i>Mediomastus</i> sp.、エゾカサネカンザシゴカイ、ウミホタル、ドロノミ、クロベンケイガニ等
動物プランクトン		<i>Favella ehrenbergii</i> 、 <i>Oithona davisae</i> 、Copepodite of <i>Oithona</i> 、 <i>Paracalanus parvus</i> 、Copepodite of <i>Paracalanidae</i> 、Nauplius of COPEPODA 等
卵・稚仔	卵	カタクチイワシ、ネズッポ科、メイタガレイ属等
	稚 仔	カタクチイワシ、カサゴ、メバル属、テンジクダイ科、ニジギンボ、イソギンボ科、ネズッポ科、ハゼ科、ミミズハゼ属、フグ科等

注：1. 種名は文献の記載に従った。

2. 「北九州港湾計画資料」には優占種の情報のみ掲載されているため、確認種類数は表内に記載しない（海棲哺乳類及び海棲爬虫類を除く）。

「海棲哺乳類ストランディングデータベース」（国立科学博物館 HP、令和 6 年 11 月閲覧）
「環境アセスメントデータベース EADAS（イーダス）」（環境省 HP、令和 6 年 11 月閲覧）
「北九州港湾計画資料（その 2）－改訂－」（北九州港湾管理者・北九州市、平成 23 年）
「福岡県レッドデータブック 2014」（福岡県、平成 26 年）
「自然環境調査 Web-GIS 動物」（環境省 HP、令和 6 年 11 月閲覧）
「紫川水系河川整備計画」（福岡県、平成 25 年）
「生物多様性の観点から重要度の高い海域」（環境省 HP、令和 6 年 11 月閲覧） より作成

④ 重要な種及び注目すべき生息地の概要（海域）

既存資料で対象事業実施区域の周囲の海域において確認されている種について、第 3.1-58 表の選定根拠に基づき、学術上又は希少性の観点から、海域の動物の重要な種を選定した。その結果は、第 3.1-59～62 表のとおりであり、海棲哺乳類 9 種、海棲爬虫類 3 種、魚等の遊泳動物 20 種、軟体動物 91 種、節足動物 13 種及びその他 3 種の計 139 種が確認されている。

なお、対象事業実施区域の周囲の海域における注目すべき生息地は第 3.1-63 表及び第 3.1-25 図のとおりであり、生物多様性の観点から重要度の高い海域である「響灘南部」が確認されている。

第3.1-58表(1) 海域の動物の重要な種及び注目すべき生息地の選定根拠

選定根拠		参考文献等
全 国	①「文化財保護法」により指定されているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定特別天然記念物（特天） ・国指定天然記念物（国天）
	②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」により指定されているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・国内希少野生動植物種（国内） ・国際希少野生動植物種（国際）
	③「レッドリスト」（環境省）に取り上げられているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（環境省、令和 2 年）
	④「海洋生物レッドリスト」（環境省）に取り上げられているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境省版海洋生物レッドリスト」（環境省、平成 29 年）
	⑤「海洋生物レッドリスト」（水産庁）に取り上げられているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・「海洋生物レッドリスト」（水産庁、平成 29 年）
	⑥「野生水生生物に関するデータブック」（水産庁編）に取り上げられているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」（水産庁、平成 10 年）

第3.1-58表(2) 海域の動物の重要な種及び注目すべき生息地の選定根拠

選定根拠		参考文献等
福岡県	⑦「福岡県の希少野生生物 福岡県のレッドデータブック」に取り上げられているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅 (EX) ・野生絶滅 (EW) ・絶滅危惧 IA 類 (CR) ・絶滅危惧 IB 類 (EN) ・絶滅危惧 II 類 (VU) ・準絶滅危惧 (NT) ・情報不足 (DD)
		・「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 (爬虫類・両生類・魚類・昆虫類・貝類・甲殻類その他・クモ形類等)」(福岡県、平成 26 年)

第3.1-59表 海域の動物の重要な種 (海棲哺乳類)

No.	分類	種	選定根拠						
			国						福岡県
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	海棲哺乳類	ニタリクジラ	—	—	—	—	—	希少	—
2		ナガスクジラ	—	—	—	—	—	危急	—
3		ザトウクジラ	—	国際	—	—	—	希少	—
4		ハセイルカ	—	—	—	—	—	希少	—
5		マダライルカ	—	—	—	—	—	減傾	—
6		スジイルカ	—	—	—	—	—	減少	—
7		スナメリ	—	国際	—	—	—	希少	NT
8		イチョウハクジラ	—	—	—	—	—	希少	—
9		オウギハクジラ	—	—	—	—	—	希少	—

注：1. 選定根拠の欄の記号は、第 3.1-58 表に基づくものである。

2. 選定根拠の欄の「—」は、該当しないことを示す。

第3.1-60表 海域の動物の重要な種 (海棲爬虫類)

No.	分類	種	選定根拠						
			国						福岡県
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	海棲爬虫類	アオウミガメ	—	国際	VU	—	—	希少	—
2		アカウミガメ	—	国際	EN	—	—	希少	EN
3		タイマイ	—	国際	EN	—	—	希少	—

注：1. 選定根拠の欄の記号は、第 3.1-58 表に基づくものである。

2. 選定根拠の欄の「—」は、該当しないことを示す。

第3.1-61表 海域の動物の重要な種（魚等の遊泳動物）

No.	分類	種	選定根拠						
			全 国						福岡県
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	魚類	ニホンウナギ	—	—	EN	—	—	—	EN
2		アユ	—	—	—	—	—	—	NT
3		サケ	—	—	—	—	—	—	EW
4		アオギス	—	—	CR	—	—	危惧	EN
5		カワアナゴ	—	—	—	—	—	—	NT
6		タビラクチ	—	—	VU	—	—	減少	VU
7		ヒモハゼ	—	—	NT	—	—	—	NT
8		キセルハゼ	—	—	EN	—	—	—	VU
9		エドハゼ	—	—	VU	—	—	—	VU
10		クボハゼ	—	—	EN	—	—	—	CR
11		チクゼンハゼ	—	—	VU	—	—	—	EN
12		ウキゴリ	—	—	—	—	—	—	DD
13		シロウオ	—	—	VU	—	—	減傾	NT
14		イドミミズハゼ	—	—	NT	—	—	希少	VU
15		トビハゼ	—	—	NT	—	—	減少	VU
16		シラヌイハゼ	—	—	NT	—	—	—	NT
17		チワラスボ	—	—	EN	—	—	—	VU
18		シヨウキハゼ	—	—	NT	—	—	—	NT
19		シロチチブ	—	—	NT	—	—	—	NT
20		トラフグ	—	—	—	—	—	—	NT

注：1. 重要な種の選定根拠は、第3.1-58表に対応する。

2. 「—」は、該当がないことを示す。

第3.1-62表(1) 海域の動物の重要な種（潮間帯及び底生生物）

No.	分類	種	選定根拠						
			全 国						福岡県
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	軟体動物	ツボミ	—	—	NT	—	—	—	NT
2		イボキサゴ	—	—	NT	—	—	—	VU
3		セムシマドアキガイ	—	—	VU	—	—	—	VU
4		ヒロクチカノコ	—	—	NT	—	—	希少	VU
5		イシマキガイ	—	—	—	—	—	減少	—
6		ヒナユキスズメ	—	—	NT	—	—	—	NT
7		ミヤコドリ	—	—	NT	—	—	—	NT
8		ウミニナ	—	—	NT	—	—	減傾	NT
9		イボウミニナ	—	—	VU	—	—	—	EN
10		フトヘナタリ	—	—	NT	—	—	—	NT
11		クロヘナタリ	—	—	CR+EN	—	—	—	VU
12		ヘナタリ	—	—	NT	—	—	—	NT
13		カワアイ	—	—	VU	—	—	—	VU
14		スジウネリチョウジガイ	—	—	VU	—	—	—	VU
15		ヌノメチョウジガイ	—	—	NT	—	—	—	NT
16		ゴマツボ	—	—	VU	—	—	—	VU
17		ワカウラツボ	—	—	VU	—	—	—	NT
18		イリエツボ	—	—	CR+EN	—	—	—	VU
19		クリイロカワザンショウ	—	—	NT	—	—	—	NT
20		ツブカワザンショウ	—	—	NT	—	—	—	DD
21		オオシンデンカワザンショウ	—	—	VU	—	—	—	EN
22		ヒナタムシヤドリカワザンショウ	—	—	NT	—	—	—	NT
23		カハタレカワザンショウ	—	—	VU	—	—	—	NT
24		ミズゴマツボ	—	—	VU	—	—	希少	NT
25		ナギツボ	—	—	NT	—	—	—	NT

第3.1-62表(2) 海域の動物の重要な種（潮間帯及び底生生物）

No.	分類	種	選定根拠						
			全 国						福岡県
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
26	軟体動物	シラギク	—	—	NT	—	—	—	NT
27		ヘソアキゴウナ	—	—	—	—	—	—	NT
28		サキグロタマツメタ	—	—	CR+EN	—	—	—	DD
29		ゴマフダマ	—	—	CR+EN	—	—	—	CR
30		セキモリ	—	—	NT	—	—	—	NT
31		マルテンスマツムシ	—	—	CR+EN	—	—	—	EN
32		ヒロオビヨフバイ	—	—	CR+EN	—	—	—	VU
33		ミクリガイ	—	—	—	—	—	—	NT
34		オガイ	—	—	EN	—	—	—	EN
35		テングニシ	—	—	NT	—	—	—	NT
36		バイ	—	—	NT	—	—	希少	VU
37		ハネナシヨウラク	—	—	VU	—	—	—	VU
38		ヒゼンツクシ	—	—	—	—	—	—	DD
39		マクラガイ	—	—	NT	—	—	—	NT
40		イワカワトクサ	—	—	VU	—	—	—	VU
41		オリイレボラ	—	—	VU	—	—	—	VU
42		ウネイトカケギリ	—	—	NT	—	—	—	DD
43		センベシアワモチ	—	—	CR+EN	—	—	—	VU
44		ウスコミミガイ	—	—	NT	—	—	—	NT
45		クリイロコミミガイ	—	—	VU	—	—	—	EN
46		オカミミガイ	—	—	VU	—	—	危急	VU
47		ナラビオカミミガイ	—	—	VU	—	—	—	VU
48		ナギサノシタタリ	—	—	—	—	—	—	NT
49		ハマシイノミガイ	—	—	—	—	—	—	NT
50		キヌカツギハマシイノミ	—	—	VU	—	—	—	VU
51		モノアラガイ	—	—	NT	—	—	—	NT
52		ヤカドツノガイ	—	—	—	—	—	—	NT
53		ビョウブガイ	—	—	CR+EN	—	—	危惧	CR
54		アカガイ	—	—	—	—	—	減少	NT
55		ササゲミミエガイ	—	—	CR+EN	—	—	—	EN
56		ケガイ	—	—	—	—	—	—	VU
57		コケガラス	—	—	NT	—	—	—	NT
58		イタボガキ	—	—	CR+EN	—	—	—	EN
59		スミノエガキ	—	—	VU	—	—	—	VU
60		イタヤガイ	—	—	—	—	—	減少	NT
61		コオキナガイ	—	—	CR+EN	—	—	—	CR
62		オキナガイ属の一種	—	—	—	—	—	—	DD
63		イセシラガイ	—	—	CR+EN	—	—	—	EN
64		オウギウロコガイ	—	—	CR+EN	—	—	—	EN
65		ニッポンマメアゲマキ	—	—	NT	—	—	—	NT
66		ガンヅキ	—	—	CR+EN	—	—	—	CR
67		タガソデモドキ	—	—	NT	—	—	—	DD
68		ウネナシトマヤガイ	—	—	NT	—	—	—	—
69		イソカゼガイ	—	—	—	—	—	—	DD
70		ヒシガイ	—	—	VU	—	—	—	EN
71		シラオガイ	—	—	NT	—	—	—	VU
72		ケマンガイ	—	—	NT	—	—	—	DD
73		ガンギハマグリ	—	—	NT	—	—	—	NT
74		アツカガミ	—	—	CR+EN	—	—	—	CR
75		ハマグリ	—	—	VU	—	—	減少	VU
76		チョウセンハマグリ	—	—	—	—	—	—	VU
77		ハナグモリ	—	—	VU	—	—	—	VU
78		イチョウシラトリ	—	—	CR+EN	—	—	—	EN
79		ユウシオガイ	—	—	NT	—	—	—	NT
80		テリザクラ	—	—	VU	—	—	—	VU

第3.1-62表(3) 海域の動物の重要な種（潮間帯及び底生生物）

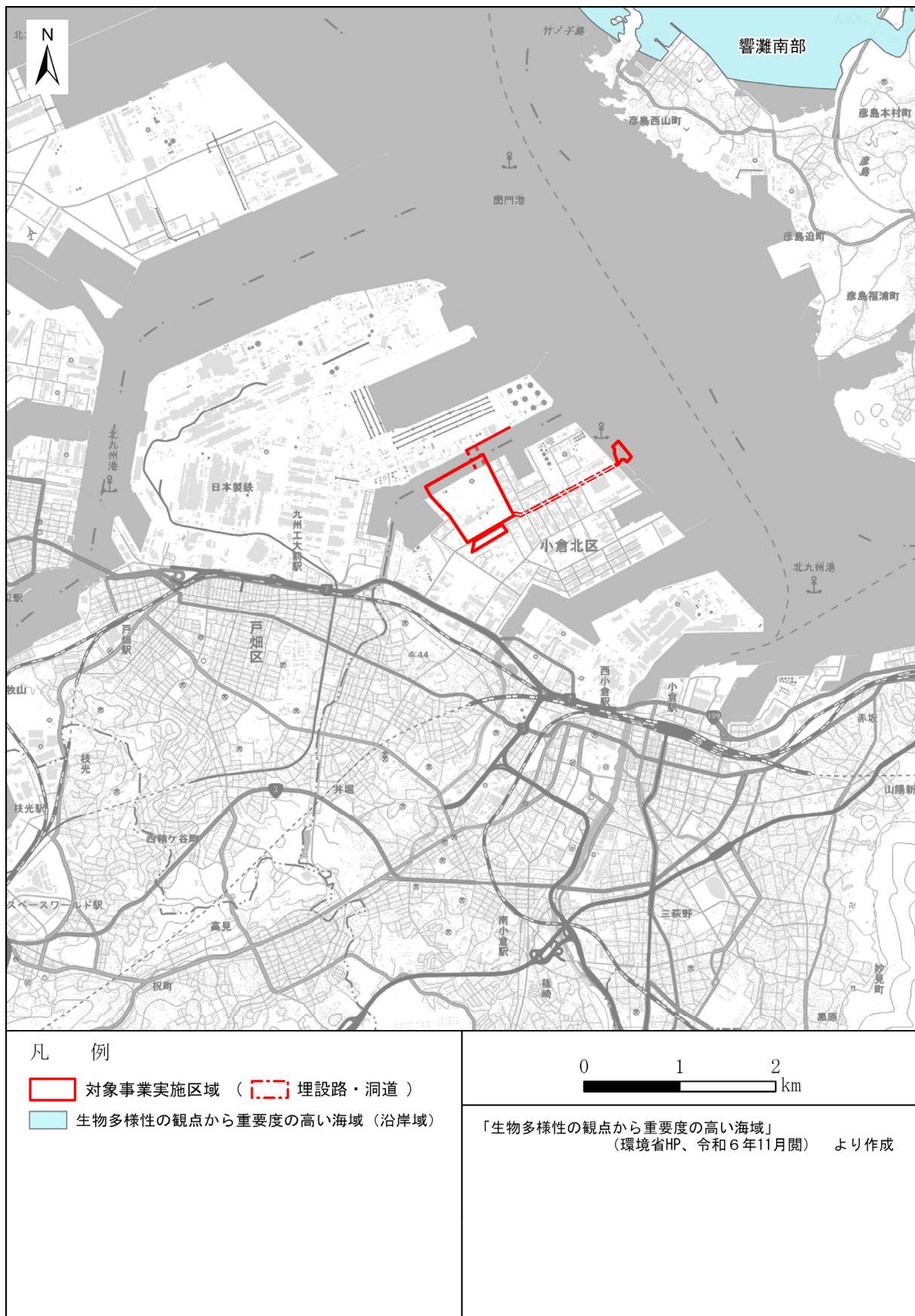
No.	分類	種	選定根拠						
			全 国						福岡県
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
81	軟体動物	ウズザクラ	—	—	NT	—	—	—	DD
82		サビシラトリ	—	—	NT	—	—	—	NT
83		サギガイ	—	—	NT	—	—	—	NT
84		フルイガイ	—	—	CR+EN	—	—	—	EN
85		オチバガイ	—	—	—	—	—	—	NT
86		ムラサキガイ	—	—	VU	—	—	—	VU
87		バラフマテ	—	—	NT	—	—	—	NT
88		アリソガイ	—	—	VU	—	—	—	VU
89		ヤチヨノハナガイ	—	—	CR+EN	—	—	—	EN
90		マゴコロガイ	—	—	NT	—	—	—	EN
91		オオノガイ	—	—	NT	—	—	—	NT
92	環形動物	ツバサゴカイ	—	—	—	EN	—	—	VU
93	星口動物	アンチラサメハダホシムシ	—	—	—	—	—	—	DD
94	節足動物	クボミテッポウエビ	—	—	—	NT	—	—	NT
95		ウチノミカニダマシ	—	—	—	—	—	—	EN
96		ヒメムツアシガニ	—	—	—	NT	—	—	NT
97		ウモレベンケイガニ	—	—	—	VU	—	—	VU
98		ベンケイガニ	—	—	—	NT	—	—	NT
99		クシテガニ	—	—	—	NT	—	—	NT
100		タイワンヒライソモドキ	—	—	—	NT	—	—	DD
101		ハマガニ	—	—	—	NT	—	—	NT
102		オオヨコナガビンノ	—	—	—	EN	—	—	EN
103		メナシビンノ	—	—	—	NT	—	—	NT
104	腕足動物	ハクセンシオマネキ	—	—	VU	—	—	—	VU
105		ヒメヤマトオサガニ	—	—	—	NT	—	—	NT
106		アリアケモドキ	—	—	—	—	—	—	VU
107		ミドリシャミセンガイ	—	—	—	—	—	—	NT

注：1. 重要な種の選定根拠は、第3.1-58表に対応する。
2. 「—」は、該当がないことを示す。

第3.1-63表 生物多様性の観点から重要度の高い海域

項 目	内 容
名 称	響灘南部
特 徴	響灘南部、下関市の周囲の海域である。複数の魚類、頭足類の産卵場が含まれる。
確認種	カタクチイワシ（産）、トラフグ（産）、マアジ（産）、マイワシ（産） アオリイカ、ケンサキイカ、マダコ、ヤマトクビキレガイ 等

「生物多様性の観点から重要度の高い海域」（環境省 HP、令和6年11月閲覧）より作成



第 3.1-25 図 動物の注目すべき生息地 (海域)

(2) 植物の生育の状況

① 植物相及び植生の概要（陸域）

イ. 植物相

対象事業実施区域が位置する北九州市（小倉北区、戸畑区、若松区、門司区）における文献その他の資料による陸域の植物相の概要は、第 3.1-64 表のとおりである。

シダ植物 111 種、種子植物 481 種が確認されている。

第 3.1-64 表 陸域の植物相の概要

分 類		既存資料による主な出現種
シダ植物		オニトウゲシバ、ヒメクラマゴケ、シナミズニラ、スギナ、オオハナワラビ、ゼンマイ、コウヤコケシノブ、コシダ、カニクサ、デンジソウ、オオキジノオ、ホラシノブ、イヌシダ、ホウライシダ、コバノヒノキシダ、ヒメワラビ、シシガシラ、シケチシダ、オオカナワラビ、シノブ、マメヅタ等 111 種
種 子 植 物	裸子植物	ソテツ、イチョウ、アカマツ、クロマツ、イヌマキ、メタセコイア、イヌガヤ、カヤ 8 種
	被子植物	オニバス、シキミ、ヒトリシズカ、ドクダミ、フウトウカズラ、ウマノスズクサ、オガタマノキ、クスノキ、ヘラオモダカ、ムサシモ、シバナ、イトモ、カワツルモ、ヤマノイモ、ホンゴウソウ、ウバユリ、ヒナラン、トバタアヤメ、オオキツネノカミソリ、ツルボ、ツユクサ、ミズアオイ、ヤマトミクリ、オオホシクサ、ヒメコウガイゼキショウ、ヒゲスゲ、メリケンカルカヤ、マツモ、ツクシキケマン、アケビ、アオツヅラフジ、バイカイカリソウ、サラシナショウマ、ヤマモガシ、イスノキ、ヒメユズリハ、ゲンカイイワレンゲ、タコノアシ、ノブドウ、ネムノキ、ヒナノキンチャク、オオバグミ、アキニレ、ムクノキ、ツルコウゾ、ササグリヤブマオ、キンミズヒキ、クリ、ヤマモモ、ノグルミ、ハンノキ、アマチャヅル、ツルウメモドキ、オオキバナカタバミ、ホルトノキ、アカメガシワ、カンコノキ、マルバヤナギ、アケボノスミレ、マツパニンジン、オトギリソウ、アメリカフウロ、ミズスギナ、ミズタマソウ、ゴンズイ、ナンバンキブシ、ヌルデ、イロハモミジ、タチバナ、センダン、ハマボウ、ヤマハタザオ、ヒノキバヤドリギ、ハマサジ、ジャクチリソバ、モウセンゴケ、オオヤマフスマ、イノコヅチ、ツルナ、ヨウシュヤマゴボウ、ザクロソウ、スベリヒユ、ヤマボウシ、ウツギ、サカキ、ハマボッス、ヤブツバキ、サルナシ、アオキ、ヘクソカズラ、コケリンドウ、シタキソウ、ハマヒルガオ、マルバノホロシ、チシャノキ、ネズミモチ、マルバノサワトウガラシ、コムラサキ、トキワハゼ、ノタヌキモ、スズムシバナ、シチヘンゲ、クロガネモチ、サワギキョウ、ガガブタ、オカダイコン、トベラ、カクレミノ、ヨロイグサ、ソクズ、スイカズラ等 473 種
	種子植物 計 481 種	
総 計		592 種

「福岡県植物目録 第 1 巻（シダ植物）」（福岡植物研究会、昭和 63 年）

「北九州市の希少野生生物」（北九州市、平成 20 年）

「福岡県植物目録 第 2 巻」（福岡植物研究会、平成 4 年）

「自然環境調査 Web-GIS（第 4、6 回巨樹・巨木林調査）」（環境省 HP、平成 5 年、平成 17 年）

「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011（植物群落・植物）」（福岡県、平成 23 年）

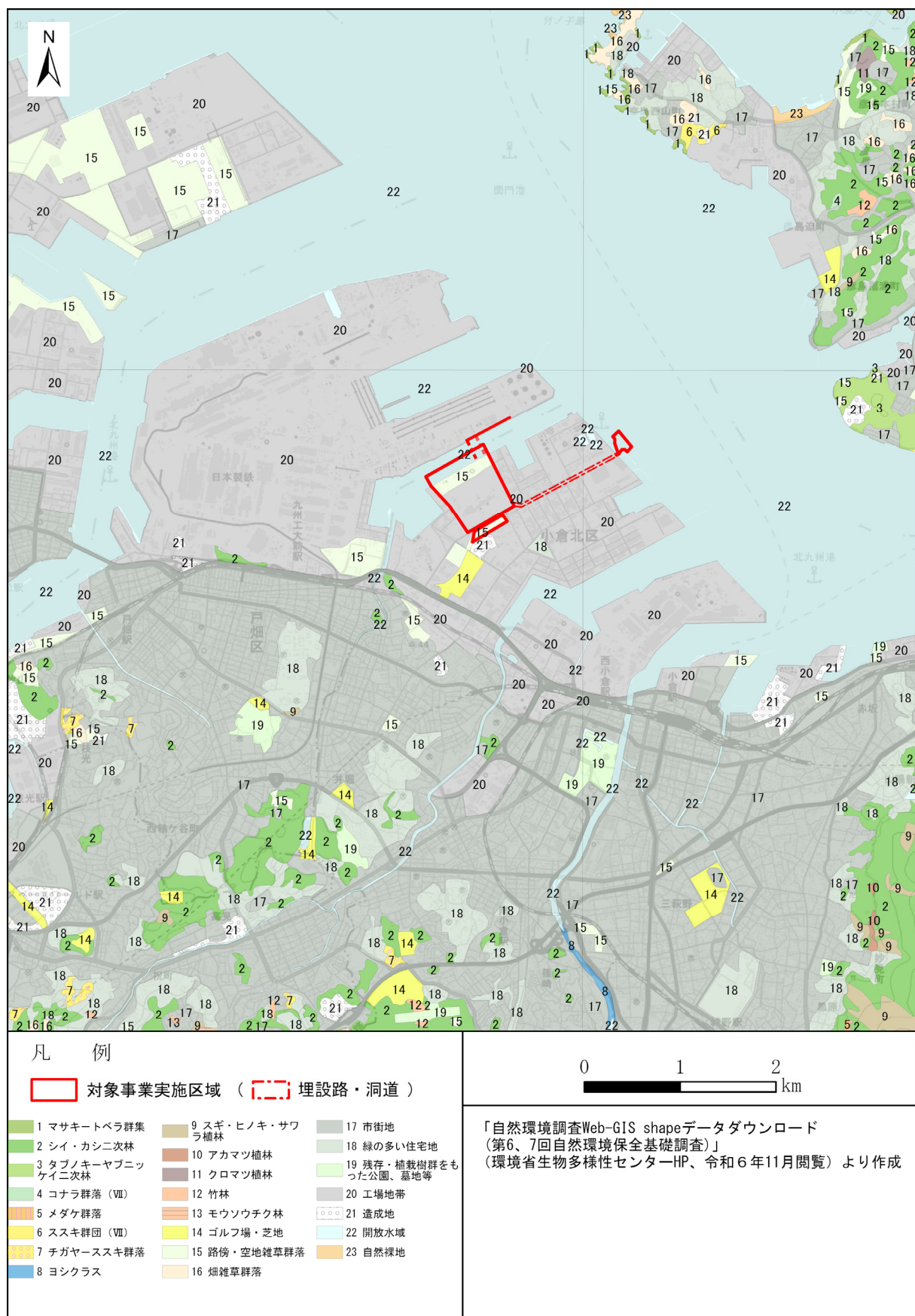
「指定文化財」（北九州市、令和 5 年 4 月閲覧）

「わたしたちの自然史 第 123 号～第 155 号」（北九州市自然史・歴史博物館自然史友の会、平成 25 年～令和 5 年）より作成

ロ．植生

対象事業実施区域及びその周囲の現存植生図は、第 3.1-26 図のとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲は、主に工場地帯、造成地、開放水域等となっており、一部に路傍・空地雑草群落、ゴルフ場・芝地等の草地、シイ・カシ二次林等の樹林地が分布している。



第 3.1-26 図 現存植生図

ハ．対象事業実施区域の植生概況

対象事業実施区域に位置する新小倉発電所では、構内緑化として、昭和 54 年に常緑広葉樹を中心とした樹種の植樹が行われている。主な植栽樹種は第 3. 1-65 表のとおりである。

第 3. 1-65 表 新小倉発電所構内緑化樹種

区 分	主な植栽樹種
高 木	ヤシャブシ、ウバメガシ、マテバシイ、トウネズミモチ、ホルトノキ等
低 木	シャリンバイ、ヒラドツツジ、トベラ、キョウチクトウ、アベリア等

「特定工場変更届出書（新小倉発電所）」（九州電力株式会社、昭和 54 年）より作成

構内緑化が行われた発電所構内の植生は、当社が実施した現地での確認（令和 5 年 6 月実施）によれば、第 3. 1-27 図のとおりである。

対象事業実施区域は、主に「工場地帯」、「その他植林」、「路傍・空地雑草群落」等となっており、一部に「クズ群落」、「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」が分布している。



第 3.1-27 図 現存植生図 (新小倉発電所)

② 重要な種及び重要な群落の概要（陸域）

イ. 重要な種

既存資料に記載されている確認種について、第 3.1-66 表に示す選定根拠に基づき、学術上又は希少性の観点から、重要な種を選定した。

重要な種は第 3.1-67 表のとおりであり、対象事業実施区域及びその周囲において、シダ植物 7 種、種子植物 112 種が確認されている。

第 3.1-66 表 陸域の植物の重要な種及び重要な群落の選定根拠

選定根拠		参考文献等
全 国	①「文化財保護法」により指定されているもの	・国指定特別天然記念物（特天） ・国指定天然記念物（国天） ・「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） ・「天然記念物緊急調査」（文化庁、昭和 50 年）
	②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」により指定されているもの	・国内希少野生動植物種（国内） ・国際希少野生動植物種（国際） ・特定第一種国内希少野生動植物種（特一） ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）
	③「レッドリスト」（環境省）に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧ⅠA 類（CR） ・絶滅危惧ⅠB 類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（環境省、令和 2 年）
	④「自然環境保全基礎調査」に取り上げられているもの	・特定植物群落（特定） ・「第 2 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 54 年） ・「第 3 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 63 年） ・「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、平成 12 年）
	⑤植物群落に関する「データブック」に取り上げられているもの	・緊急に対策必要（ランク 4） ・対策必要（ランク 3） ・破壊の危惧（ランク 2） ・要注意（ランク 1） ・「植物群落レッドデータ・ブック」（我が国における保護上重要な植物種及び植物群落研究委員会植物群落分科会、平成 8 年）
福 岡 県	⑥「文化財保護条例」により指定されているもの	・県指定天然記念物（県天） ・市指定天然記念物（市天） ・学術上価値の高い生物群集及び生物 ・「福岡県文化財保護条例」（昭和 30 年条例第 25 号） ・「北九州市文化財保護条例」（昭和 45 年条例第 32 号） ・「天然記念物緊急調査 40 福岡県」（文化庁、昭和 52 年）
	⑦「福岡県希少野生動植物の保護に関する条例」により指定されているもの	・指定希少野生動植物（指定） ・「福岡県希少野生動植物の保護に関する条例」（令和 2 年福岡県条例第 42 号）
	⑧「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック」に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧ⅠA 類（CR） ・絶滅危惧ⅠB 類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011（植物群落・植物）」（福岡県、平成 23 年）
	⑨「自然環境保全基礎調査」に取り上げられている巨樹・巨木林	・巨樹・巨木林 ・「第 4 回、第 6 回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹、巨木林 九州、沖縄版」（環境省、平成 5 年、平成 17 年）

第 3.1-67 表(1) 重要な種 (陸生植物)

No.	分 類	科 名	種 名	選定根拠					
				全 国			福岡県		
				①	②	③	⑥	⑦	⑧
1	シダ植物	ミズニラ	シナミズニラ	—	—	VU	—	—	CR
2		デンジソウ	デンジソウ	—	—	VU	—	—	CR
3		イノモトソウ	ヒメミズワラビ	—	—	—	—	—	EN
4		チャセンシダ	コタニワタリ	—	—	—	—	—	CR
5		ヒメシダ	テツホシダ	—	—	—	—	—	EN
6		メシダ	ミドリワラビ	—	—	—	—	—	VU
7		オシダ	タチデンダ	—	—	—	—	—	EN
8	種子植物	スイレン	オニバス	—	—	VU	—	—	EN
9		オモダカ	アギナシ	—	—	NT	—	—	CR
10		トチカガミ	ムサシモ	—	—	EN	—	—	CR
11			ヒロハトリゲモ	—	—	VU	—	—	CR
12			イトトリゲモ	—	—	NT	—	—	CR
13			イバラモ	—	—	—	—	—	CR
14			ミズオオバコ	—	—	VU	—	—	EN
15		シバナ	シバナ	—	—	NT	—	—	EN
16		ヒルムシロ	イトモ	—	—	NT	—	—	EN
17			ガシャモク	—	—	CR	—	—	CR
18			センニンモ	—	—	—	—	—	EN
19			ヒロハノエビモ	—	—	—	—	—	CR
20			ツツイトモ	—	—	VU	—	—	CR
21			リュウノヒゲモ	—	—	NT	—	—	EN
22		カワツルモ	カワツルモ	—	—	NT	—	—	EN
23		ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	—	—	VU	—	—	CR
24		ラン	ヒナラン	—	—	EN	—	—	CR
25			シラン	—	—	NT	—	—	NT
26			キエビネ	—	—	EN	—	—	CR
27			エビネ	—	—	NT	—	—	VU
28			キンラン	—	—	VU	—	—	VU
29			クゲヌマラン	—	—	VU	—	—	CR
30			ユウシュンラン	—	—	VU	—	—	CR
31			タシロラン	—	—	NT	—	—	VU
32			ベニシュスラン	—	—	—	—	—	CR
33			アケボノシュスラン	—	—	—	—	—	VU
34			ムカゴソウ	—	—	EN	—	—	VU
35			ホクリクムヨウラン	—	—	—	—	—	CR
36			クモキリソウ	—	—	—	—	—	VU
37			ササバラン	—	—	EN	—	—	CR
38			コケイラン	—	—	—	—	—	VU
39			ハツシマラン	—	特一	CR	—	—	CR
40			サギソウ	—	—	NT	—	指定	CR
41			ジンバイソウ	—	—	—	—	—	EN
42			マイサギソウ	—	—	—	—	—	CR
43			ヤマトキシソウ	—	—	—	—	—	CR
44		アヤメ	トバタアヤメ	—	—	—	—	—	EW
45		ミズアオイ	ミズアオイ	—	—	NT	—	—	CR
46		ガマ	ヤマトミクリ	—	—	NT	—	—	EN
47			ヒメミクリ	—	—	VU	—	—	CR
48		ホシクサ	ツクシクロイヌノヒゲ	—	—	VU	—	—	VU
49			オオホシクサ	—	—	—	—	—	EN
50			ホシクサ	—	—	—	—	—	CR
51		イグサ	ヒメコウガイゼキショウ	—	—	—	—	—	VU
52			ヒロハノコウガイゼキショウ	—	—	—	—	—	EN
53			ドロイ	—	—	—	—	—	CR
54		カヤツリグサ	ダイセンスゲ	—	—	—	—	—	VU
55			ヤガミスゲ	—	—	—	—	—	EN

第 3.1-67 表(2) 重要な種（陸生植物）

No.	分 類	科 名	種 名	選定根拠					
				全 国			福岡県		
				①	②	③	⑥	⑦	⑧
56	種子植物	カヤツリグサ	キノクニスゲ	—	—	NT	—	—	NT
57			アカネスゲ	—	—	VU	—	—	CR
58			ツクシナルコ	—	—	EN	—	—	VU
59			ミスミイ	—	—	EN	—	—	EX
60			スジヌマハリイ	—	—	VU	—	—	EN
61		イネ	ヒナザサ	—	—	NT	—	—	VU
62			ハイチゴザサ	—	—	—	—	—	VU
63			ハマガヤ	—	—	—	—	—	VU
64		メギ	バイカイカリソウ	—	—	—	—	—	EN
65		ベンケイソウ	ゲンカイイワレンゲ	—	—	VU	—	—	EN
66		タコノアシ	タコノアシ	—	—	NT	—	—	VU
67		ヒメハギ	ヒナノキンチャク	—	—	EN	—	—	CR
68		アサ	クワノハエノキ	—	—	—	—	—	VU
69		イラクサ	ゲンカイヤブマオ	—	—	—	—	—	EN
70			ミヤコミズ	—	—	—	—	—	VU
71		カバノキ	ハンノキ	—	—	—	—	—	EN
72		スマレ	アケボノスマレ	—	—	—	—	—	CR
73		アマ	マツバニンジン	—	—	CR	—	—	CR
74		オトギリソウ	アゼオトギリ	—	—	EN	—	—	EN
75			ツキヌキオトギリ	—	—	EN	—	—	EN
76		ミソハギ	ミズスギナ	—	—	CR	—	指定	CR
77		ミカン	タチバナ	—	—	NT	—	—	CR
78		アオイ	ハマボウ	—	—	—	—	—	VU
79		イソマツ	ハマサジ	—	—	NT	—	—	VU
80		タデ	ナガバノウナギツカミ	—	—	NT	—	—	NT
81			ウナギツカミ	—	—	—	—	—	NT
82			オオネバリタデ	—	—	—	—	—	NT
83			ネバリタデ	—	—	—	—	—	NT
84		モウセンゴケ	モウセンゴケ	—	—	—	—	—	VU
85		ナデシコ	オオヤマフスマ	—	—	—	—	—	NT
86			ウシオツメクサ	—	—	—	—	—	CR
87		アジサイ	バイカウツギ	—	—	—	—	—	NT
88		リンドウ	コケリンドウ	—	—	—	—	—	CR
89			イヌセンブリ	—	—	VU	—	—	EN
90		キョウチクトウ	シタキソウ	—	—	—	—	—	EN
91			フナバラソウ	—	—	VU	—	—	VU
92		ヒルガオ	アオイゴケ	—	—	—	—	—	NT
93		ナス	マルバノホロシ	—	—	—	—	—	EN
94		オオバコ	マルバノサワトウガラシ	—	—	VU	—	—	CR
95			コキクモ	—	—	VU	—	—	CR
96			イヌノフグリ	—	—	VU	—	—	EN
97			カワヂシャ	—	—	NT	—	—	NT
98		シソ	ミズトラノオ	—	—	VU	—	—	CR
99			コナミキ	—	—	VU	—	—	CR
100		タヌキモ	ノタヌキモ	—	—	VU	—	—	EN
101			ミカワタヌキモ	—	—	VU	—	—	CR
102		キツネノマゴ	スズムシバナ	—	—	—	—	—	CR
103		キキョウ	サワギキョウ	—	—	—	—	—	VU
104			キキョウ	—	—	VU	—	—	VU
105		ミツガシワ	ガガブタ	—	—	NT	—	—	VU
106			アサザ	—	—	NT	—	—	CR
107		キク	クソニンジン	—	—	—	—	—	CR
108			サワシロギク	—	—	—	—	—	CR
109			ダルマガキク	—	—	—	—	—	NT
110			シオン	—	—	VU	—	—	—

第 3.1-67 表(3) 重要な種（陸生植物）

No.	分 類	科 名	種 名	選定根拠					
				全 国			福岡県		
				①	②	③	④	⑤	⑥
111	種子植物	キク	オケラ	—	—	—	—	—	EN
112			ヒゴタイ	—	—	VU	—	—	CR
113			ホソバオグルマ	—	—	VU	—	—	EN
114			ホソバニガナ	—	—	EN	—	—	EN
115			アキノハハコグサ	—	—	EN	—	—	CR
116			モウコタンボポ	—	—	—	—	—	EN
117			ウラギク	—	—	NT	—	—	EN
118		セリ	ヨロイグサ	—	—	—	—	—	VU
119			ヤマゼリ	—	—	—	—	—	EN

注：1. 種の分類及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、令和 6 年）に従った。
2. 重要な種の選定根拠は第 3.1-66 表に対応する。
3. 「—」は、該当がないことを示す。

ロ. 重要な群落

既存資料に記載されている群落について、第 3.1-66 表に示す選定根拠に基づき、学術上又は希少性の観点から、重要な群落を確認した結果、対象事業実施区域及びその周囲において、重要な群落は確認されなかった。

ハ. 巨樹、巨木林

既存資料に記載されている巨樹、巨木林について、第 3.1-66 表に示す選定根拠に基づき選定した。対象事業実施区域及びその周囲における巨樹、巨木林は、第 3.1-68 表及び第 3.1-28 図のとおりである。樹種としては、ハゼ、クスノキ、イチョウ、クスノキ及びエノキがある。

第 3.1-68 表 巨樹・巨木林

図中番号	樹種	樹幹(cm)	樹高(m)	所在地
1	ハゼ	332	8	北九州市
2	クスノキ	371	15	北九州市
3	イチョウ	311	15	北九州市
4	クスノキ	360	13	北九州市
5	エノキ	286	20	北九州市

注：図中番号は、第 3.1-28 図中の番号に対応する。

「第 4 回、第 6 回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹、巨木林 九州、沖縄版」
（環境省、平成 5 年、平成 17 年）

「自然環境調査 Web-GIS Shape データダウンロード（巨樹、巨木林第 6 回）」
（環境省生物多様性センターHP、令和 6 年 11 月閲覧） より作成



第 3.1-28 図 巨樹・巨木林の位置

③ 植物相の概要（海域）

対象事業実施区域の周囲の海域における文献その他の資料による海域の植物相の概要は、第 3. 1-69 表のとおりである。

第3. 1-69表 海域の植物相の概要

項 目	確認種
海藻草類	アナアオサ、アオサ属、アミジグサ、ウミウチワ、ワカメ、ヒジキ、タマハハキモク、マクサ、コメノリ、オキツノリ、イトグサ属 等
植物プランクトン	Gymnodiniales、 <i>Skeletonema costatum</i> 、 <i>Skeletonema</i> sp. (cf. <i>tropicum</i>)、 <i>Thalassiosira</i> spp.、 <i>Chaetoceros</i> sp. (cf. <i>salsugineum</i>)、 <i>Asterionella glacialis</i> 、 <i>Nitzschia</i> spp.、Prasinophyceae、Cryptophyceae 等

注：1. 種名は文献の記載に従った。

2. 「北九州港湾計画資料」には優占種の情報のみ掲載されているため、確認種類数は表内に記載しない。

「北九州港港湾計画資料（その 2）－改訂－」（北九州港港湾管理者・北九州市、平成 23 年）

④ 重要な種（海域）

既存資料で対象事業実施区域の周囲の海域において確認された種について、第 3. 1-70 表に示す選定根拠に基づき、学術上又は希少性の観点から海域の植物の重要な種を確認した結果、重要な種は確認されなかった。

⑤ 干潟・藻場・さんご礁

対象事業実施区域の周囲の海域における藻場は、第 3. 1-71 表のとおりであり、分布状況は第 3. 1-29 図のとおりである。対象事業実施区域の北側に位置する関門海峡を隔てた山口県域にガラモ場等が分布している。

なお、対象事業実施区域の周囲の海域には干潟及びさんご礁は確認されていない。

第3.1-70表 海域の植物の重要な種の選定根拠

選定根拠		参考文献等
全 国	①「文化財保護法」により指定されているもの	・国指定特別天然記念物（特天） ・国指定天然記念物（国天）
	②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」により指定されているもの	・国内希少野生動植物種（国内） ・国際希少野生動植物種（国際）
	③「レッドリスト」（環境省）に取り上げられているもの	・「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（環境省、令和 2 年）
	④「野生水生生物に関するデータブック」（水産庁編）に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） ・絶滅危惧ⅠA類（CR） ・絶滅危惧ⅠB類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・絶滅のおそれのある地域個体群（LP）
福 岡 県	⑤「福岡県文化財保護条例」により指定されているもの	・「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」（水産庁、平成 10 年）
	⑥「福岡県の希少野生生物 福岡県のレッドデータブック」に取り上げられているもの	・「福岡県文化財保護条例」（昭和 30 年条例第 25 号） ・「福岡県の文化財」（福岡県 HP、令和 6 年 11 月閲覧） ・「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011（植物群落・植物・哺乳類・鳥類）」（福岡県、平成 23 年）

第 3.1-71 表 対象事業実施区域の周囲の海域における藻場

図中 番号	地 名	藻場のタイプ	粗密度	現存藻場面積 (ha)	優 占 種
1	竹ノ子島	ガラモ場	濃生	19	ホンダワラ類
2	彦島大橋	ガラモ場	濃生	9	ホンダワラ類
3	福浦港	ガラモ場、アラメ場、 ワカメ場、テングサ場	密生	2	ワカメ、テングサ、アカモク、クロメ

注：1. 図中番号は、第 3.1-29 図中の番号に対応する。

2. 現存藻場面積は、浅海域のみの面積である。

「自然環境調査 Web-GIS 藻場」（環境省 HP、令和 6 年 11 月閲覧）より作成

(3) 生態系

① 対象事業実施区域及びその周囲の自然環境の類型化

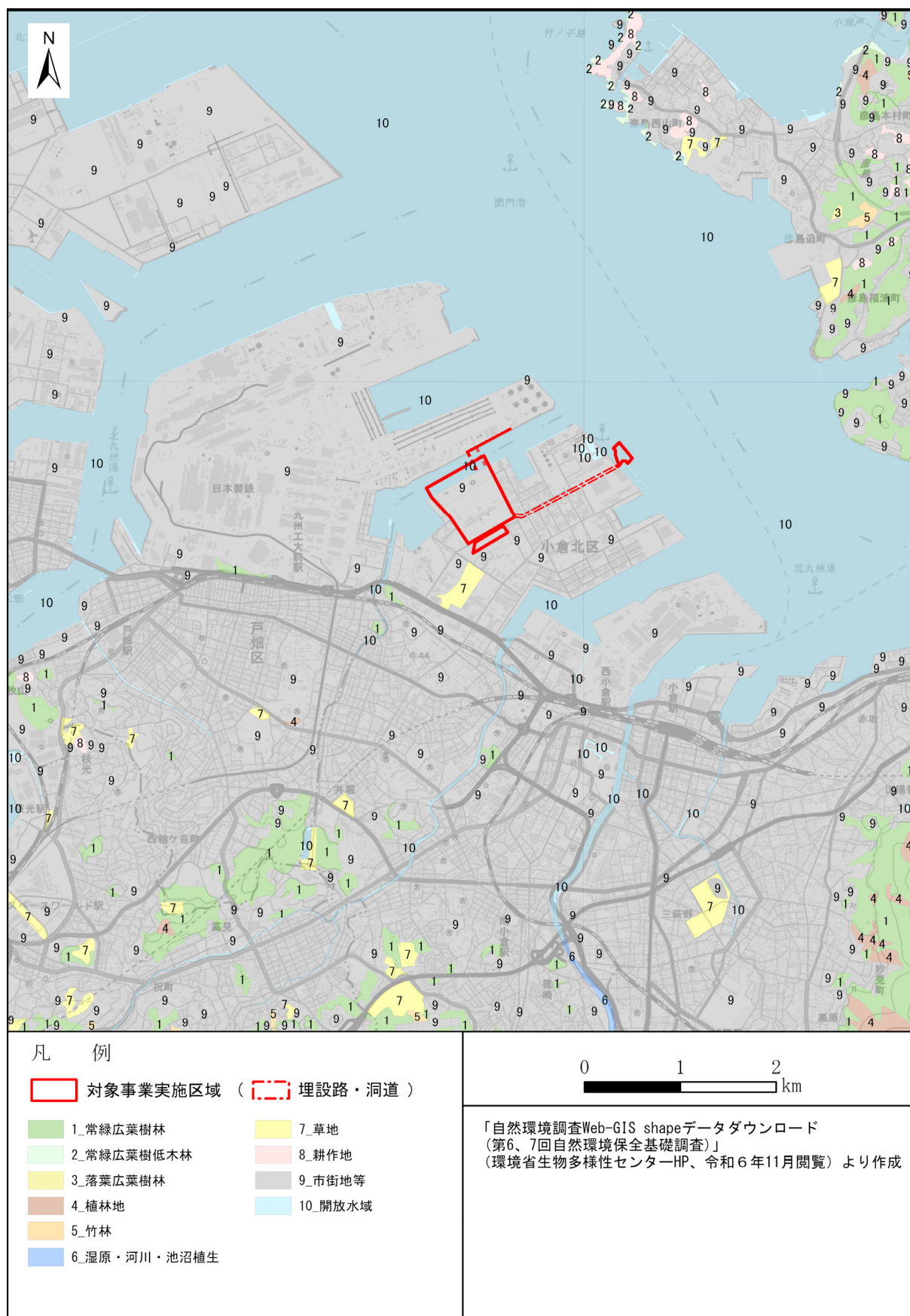
対象事業実施区域及びその周囲の自然環境について、植生図（第3.1-26図、第3.1-27図）の凡例から第3.1-72表に示す10の環境類型に区分した。環境類型区分は、第3.1-30図のとおりである。

第3.1-72表 環境類型区分一覧

図中 番号	環境類型区分	植生の凡例	
		対象事業実施区域	対象事業実施区域の周囲
1	常緑広葉樹林	—	シイ・カシ二次林、タブノキーヤブニッケイ二次林
2	常緑広葉樹低木林	—	マサキートベラ群集
3	落葉広葉樹林	—	コナラ群落（Ⅶ）
4	植林地	その他植林、その他植林（低木）、 その他植林（幼木）	スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林、クロマツ植林
5	竹林	—	メダケ群落、竹林、モウソウチク林
6	湿原・河川・池沼植生	—	ヨシクラス
7	草地	クズ群落	ススキ群団（Ⅶ）、チガヤーススキ群落、ゴルフ場・芝地
8	耕作地	—	畑雑草群落
9	市街地等	路傍・空地雑草群落、市街地、工場地帯、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	路傍・空地雑草群落、市街地、緑の多い住宅地、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、工場地帯、造成地、自然裸地
10	開放水域	開放水域	開放水域

注：1. 図中番号は、第3.1-30図中の番号に対応する。

2. 「—」は、該当がないことを示す。



第 3.1-30 図(1) 環境類型区分図



第 3.1-30 図(2) 環境類型区分図 (新小倉発電所)

② 生態系の概要

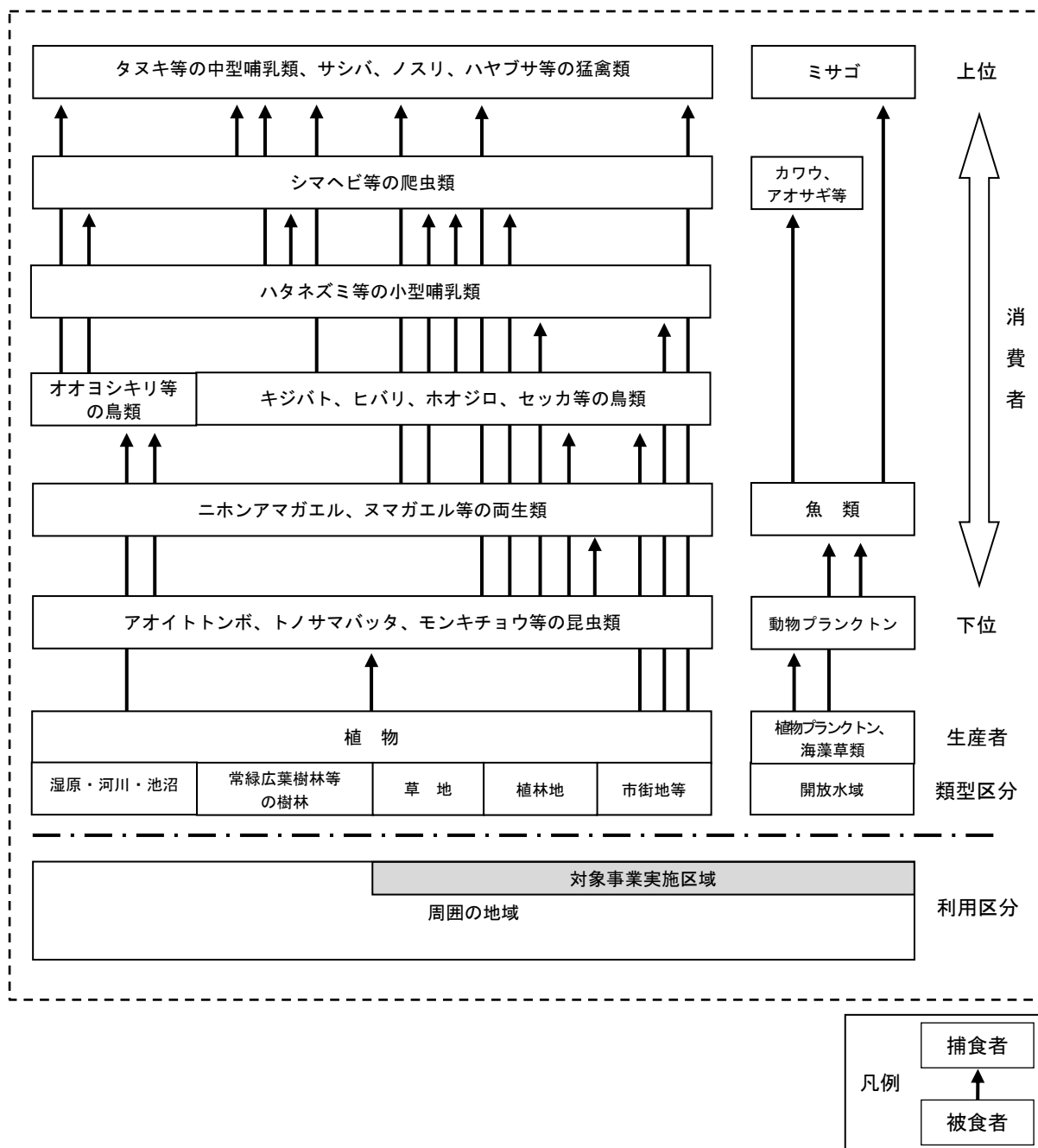
対象事業実施区域及びその周囲の生態系について、動物及び植生の既存資料及び現地での確認結果に基づいて整理した。

対象事業実施区域には、工場地帯、路傍・空地雑草群落、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、クズ群落、その他植林、開放水域等が分布している。

対象事業実施区域の周囲は、工場地帯が大部分を占めており、一部に路傍・空地雑草群落、シイ・カシ二次林等の樹林が分布している。このような場所には、下位の消費者であるアオイトンボ、トノサマバッタ、モンキチョウ等の昆虫類、中位の消費者であるニホンアマガエル、ヌマガエル等の両生類、キジバト、ヒバリ、ホオジロ、セッカ、オオヨシキリ等の鳥類、ハタネズミ等の小型哺乳類、シマヘビ等の爬虫類、上位の消費者であるタヌキ等の中型哺乳類及びサシバ、ノスリ、ハヤブサ等の猛禽類が生息し、食物連鎖を形成していると考えられる。

また、海域の開放水域では、植物プランクトンや海藻草類を生産者として、下位の消費者である動物プランクトン、中位の消費者である魚類、上位の消費者であるミサゴ等の鳥類が生息し、食物連鎖を形成していると考えられる。

対象事業実施区域及びその周囲の食物連鎖模式図は、第 3.1-31 図のとおりである。



第 3.1-31 図 対象事業実施区域及びその周囲の食物連鎖模式図

③ 重要な自然環境のまとまりの場

対象事業実施区域及びその周囲の自然環境から、第3.1-73表に示す選定根拠に基づき選定した重要な自然環境のまとまりの場は、第3.1-74表及び第3.1-32図のとおりである。

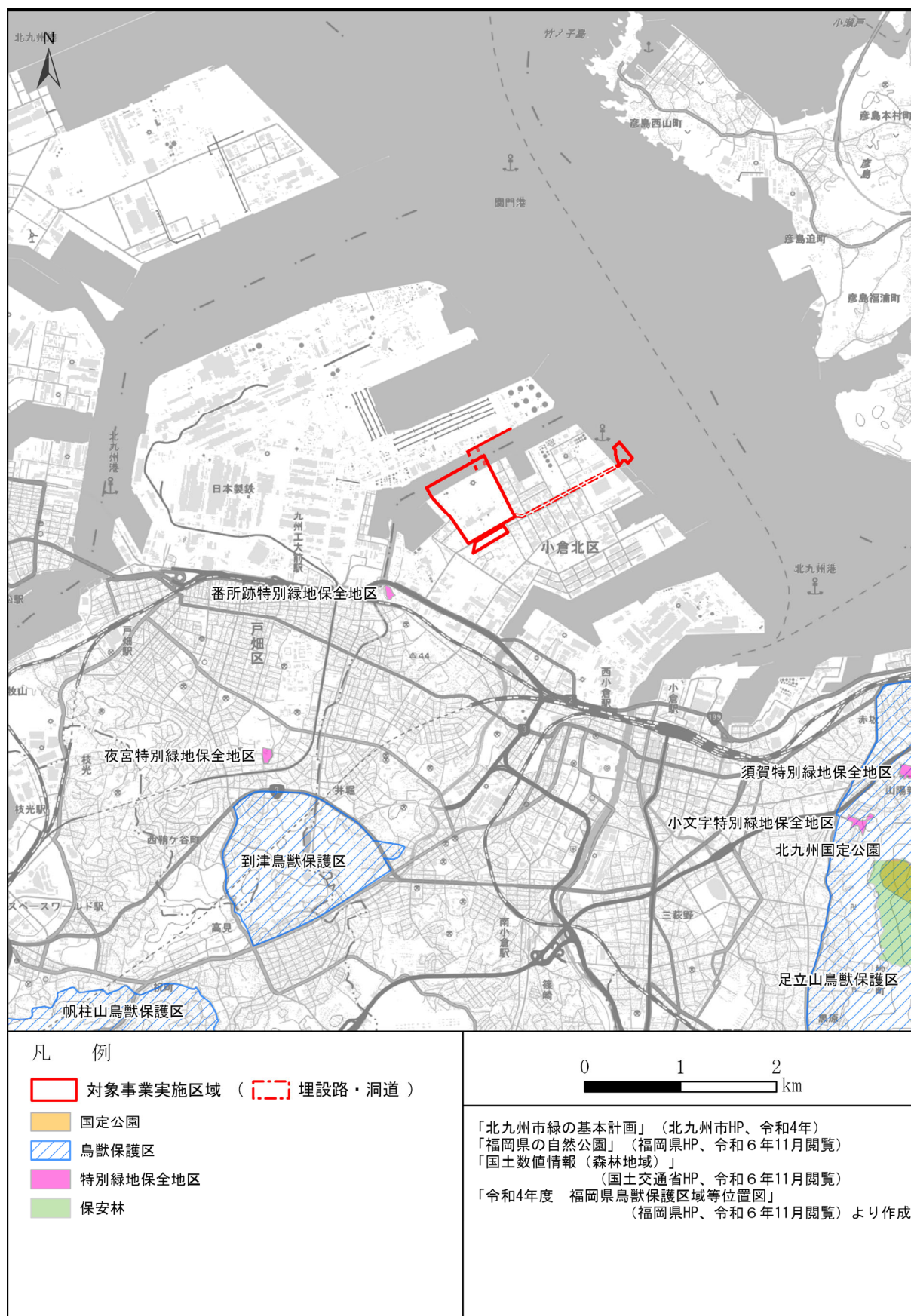
対象事業実施区域において、重要な自然環境のまとまりの場は確認されなかった。

第3.1-73表 重要な自然環境のまとまりの場の選定根拠

選定根拠		
①	特定植物群落	「自然環境調査 Web-GIS」（環境省生物多様性センターHP）における特定植物群落
②	植物群落	「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011（植物群落・植物・哺乳類・鳥類）」（福岡県、平成23年）
③	国立公園、国定公園、県立自然公園	「自然公園法」（昭和32年法律第161号）、「福岡県立自然公園条例」（昭和38年条例第25号）
④	鳥獣保護区	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成14年法律第88号）
⑤	特別緑地保全地区	「都市緑地法」（昭和48年法律第72号）
⑥	自然植生	「自然環境調査 Web-GIS」（環境省生物多様性センターHP）において、自然植生のうち植生自然度が高いとされた植物群落
⑦	保安林	「森林法」（昭和26年法律第249号）により指定された保安林

第3.1-74表 重要な自然環境のまとまりの場

選定根拠		
①	特定植物群落	該当なし
②	植物群落	該当なし
③	国立公園、国定公園、県立自然公園	北九州国定公園
④	鳥獣保護区	足立山鳥獣保護区
		到津鳥獣保護区
		帆柱山鳥獣保護区
⑤	特別緑地保全地区	夜宮特別緑地保全地区
		番所跡特別緑地保全地区
		須賀特別緑地保全地区
		小文字特別緑地保全地区
⑥	自然植生	該当なし
⑦	保安林	保安林



第 3.1-32 図 重要な自然環境のまよりの場

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

(1) 景観の状況

対象事業実施区域及びその周囲の主要な眺望点の状況は第 3.1-75 表及び第 3.1-33 図のとおりであり、「日明・海峡釣り公園」や「手向山公園」等が分布する。また、対象事業実施区域及びその周囲の景観資源の状況は第 3.1-76 表及び第 3.1-34 図のとおりであり、「北九州国定公園」や「東田第一高炉跡」等が分布する。

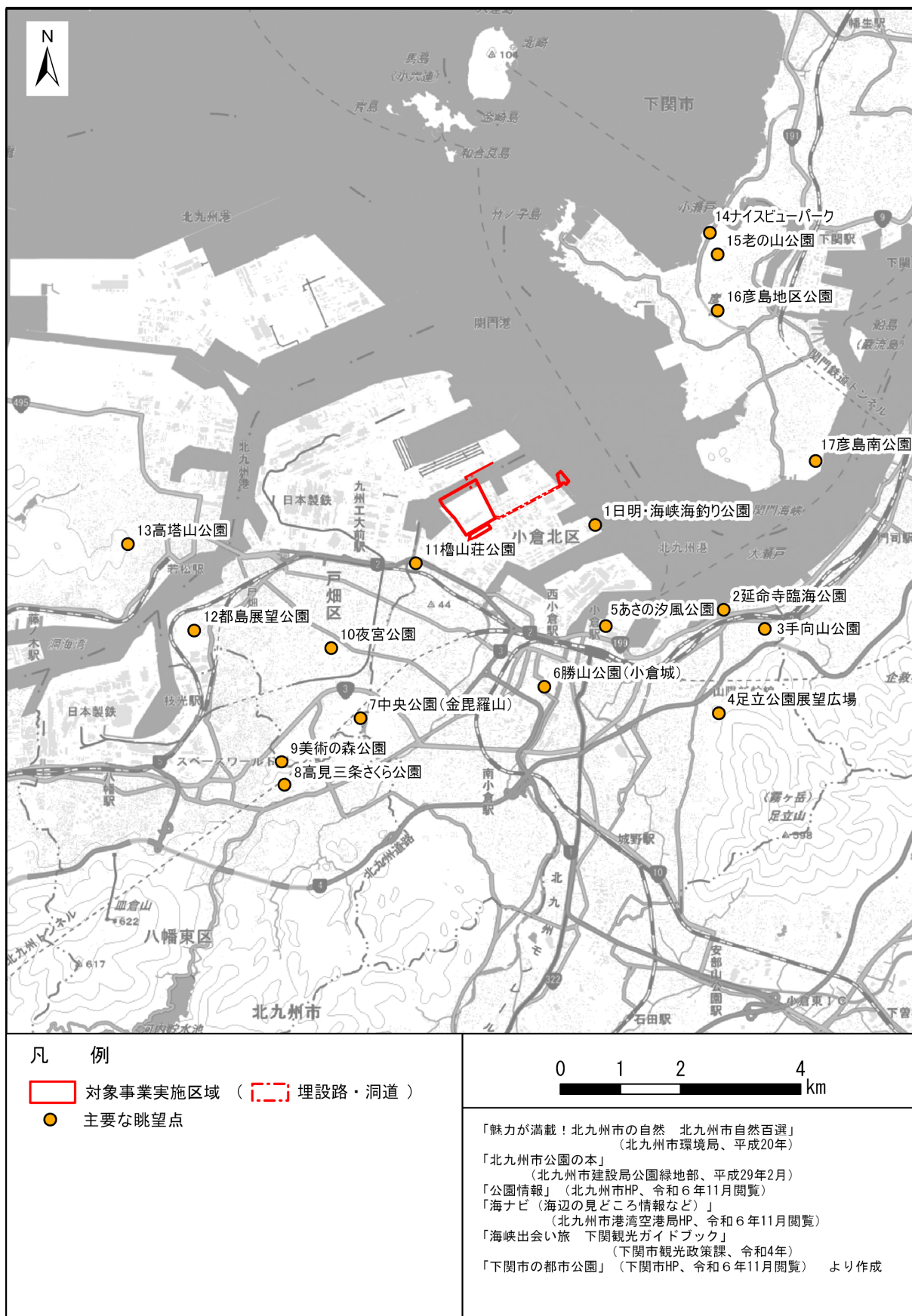
第 3.1-75 表(1) 主要な眺望点

図中 番号	区分	名称	概要	視認 状況	出典
1	レク	日明・海峡釣り公園	家族連れなど多くの人に利用されている釣り公園。散歩等の利用も多い。	○	4
2	レク	延命寺臨海公園	海を眺めながらのウォーキングやジョギング、グラウンドでの球技も楽しめる公園。	○	2
3	観光	手向山公園	武蔵と小次郎の碑がある公園。眼下に響灘と関門海峡を望み、展望広場からは舟島(厳流島)を望むこともできる。	○	1、2
4	観光	足立公園展望広場	足立山麓に広がる都心に近い自然豊かな公園。展望広場には小倉の市街地が一望できる展望台が備えられている。	○	2
5	レク	あさの汐風公園	JR 小倉駅北口から伸びる連絡通路の先に広大な芝生広場が広がる。ウォーキングやランニングスポットとしても人気がある。	×	2
6	観光	勝山公園 (小倉城)	北九州市のシンボル公園で、小倉城を中心に小倉城庭園などの観光・文化施設、多彩なイベントができる大芝生広場などがある。	○	2、3
7	観光	中央公園 (金毘羅山)	戸畑区と小倉北区、八幡東区の一部を含む広大な公園。金毘羅山の登山道には桜並木があり、山頂からは響灘などを眺めることができる。	×	1、2、3
8	観光	高見三条さくら公園	山桜、ソメイヨシノ、楊貴妃桜などが約 1 か月ほど咲き競う公園。	×	2、3
9	観光	美術の森公園	北九州市立美術館を取り囲む緑多き公園。美術館へ至る道沿いには数々の彫刻が配されており、木々の美しさとともに野外の彫刻を鑑賞できる。	○	1、2、3
10	観光	夜宮公園	戸畑区夜宮にある自然豊かな景観を残した公園。梅や桜の名所として有名で、市内を代表する花菖蒲の名所としても知られている。	×	1、2、3
11	観光	櫓山荘公園	大正中期から昭和初期の文化人のサロン「櫓山荘」跡地一帯を整備した公園。当時の庭園の遺構などを再現した櫓山荘広場などがある。	×	2
12	レク・ 観光	都島展望公園	多目的グラウンドなどが整備されスポーツを楽しめる公園。山頂部の展望台からは洞海湾などの景観が一望できる。	×	1、2
13	観光	高塔山公園	標高 124m の高塔山の山頂にある公園。展望台から若戸大橋や響灘、玄界灘などを望むことができる。	○	1、2、3

第 3.1-75 表(2) 主要な眺望点

図中 番号	区分	名称	概要	視認 状況	出典
14	観光	ナイスビューパーク	老の山公園のふもとにあり、竹ノ子島、六連島等、響灘を眼下に眺め、夕日ウォッチングに絶好のスポット。	×	5
15	レク	老の山公園	響灘を見晴らす眺望の良さで人気の総合公園。芝生広場や大型遊具などがあり、家族でのんびり過ごせる。	×	5、6
16	レク	彦島地区公園	グラウンド、テニスコート、体育館などの施設が充実しており、彦島地区の人たちのスポーツイベントなどの拠点となっている。	×	6
17	レク	彦島南公園	彦島地区の住宅街の端にある隠れた穴場的な公園。眺めがよく、高台からは関門橋が見える。	×	6

- 注：1. 図中番号は、第 3.1-33 図中の番号に対応する。
2. 「レク」はレクリエーション施設、「観光」は観光施設を示す。
3. 「視認状況」は、現地踏査による対象事業実施区域方向の視認状況を示す。
 ○：既設の煙突が視認され、新設煙突も視認できると想定される。
 ×：新設の煙突（既設の煙突含む）は視認できない。
4. 「出典」の番号は、以下の文献その他の資料の番号に対応する。
- 1「魅力が満載！北九州市の自然 北九州市自然百選」（北九州市環境局、平成 20 年）
 - 2「北九州市公園の本」（北九州市建設局公園緑地部、平成 29 年）
 - 3「公園情報」（北九州市 HP、令和 6 年 11 月閲覧）
 - 4「海ナビ（海辺の見どころ情報など）」（北九州市港湾空港局 HP、令和 6 年 11 月閲覧）
 - 5「海峡出会い旅 下関観光ガイドブック」（下関市観光政策課、令和 4 年）
 - 6「下関市の都市公園」（下関市 HP、令和 6 年 11 月閲覧）



第 3.1-33 図 主要な眺望点の位置

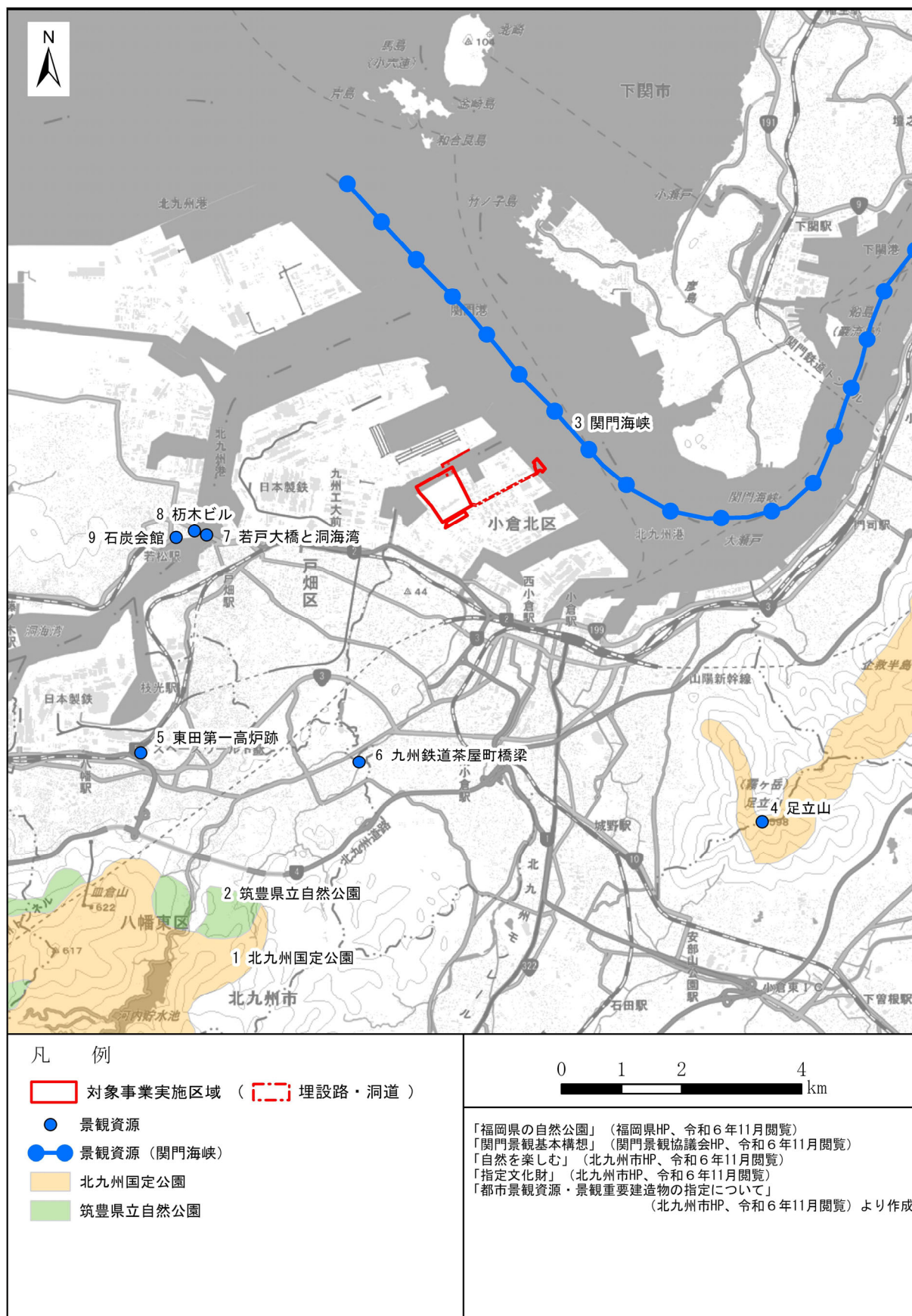
第 3.1-76 表 景観資源

図中 番号	区分	名称	概要	出典
1	自然 景観	北九州国定公園	カルストで有名な平尾台、皿倉山から福智山に至る山系及び足立山・風師山を含む地域。100 万都市の近郊にありながら、豊かな自然が残る。	1
2		筑豊県立自然公園	蓑島や長井浜といった周防灘を望む海岸線と、石灰岩からなる香春岳を中心とした北九州国定公園を取り囲む地域。人々の生活圏に近いところに広がる自然公園で、里山的景観が見られる。	1
3		関門海峡	下関と北九州市に挟まれた、響灘と周防灘を結ぶ六連島から串崎までの全長約 27.8km の区間。	2
4		足立山	小倉北区の東部に位置し、北九州国定公園の景勝地として親しまれている山。	3
5	人文 景観	東田第一高炉跡	公称能力 900 トンを誇る日本最初の高圧高炉として建設され、昭和 47 年 1 月まで操業した高炉。	4
6		九州鉄道茶屋町橋梁	明治 24 年 4 月に開通した九州鉄道大蔵線の橋梁として構築された、槻田川に架かる赤煉瓦造りのアーチ橋。	4
7		若戸大橋と洞海湾	平成 24 年に開通 50 周年を迎えた橋。洞海湾に架かる赤い橋は北九州市のランドマークとなっている。	5
8		朽木ビル	1920 年当時では珍しい鉄筋コンクリート造の建築。若松南海岸通り（若松バンド）に位置し、洞海湾の風景に調和している。	5
9		石炭会館	石炭の積み出し港であった若松の歴史を象徴する木造 2 階建ての建築物。	5

注：1. 図中番号は、第 3.1-34 図中の番号に対応する。

2. 「出典」の番号は、以下の文献その他の資料の番号に対応する。

- 1「福岡県の自然公園」（福岡県 HP、令和 6 年 11 月閲覧）
- 2「関門景観基本構想」（関門景観協議会 HP、令和 6 年 11 月閲覧）
- 3「自然を楽しむ」（北九州市 HP、令和 6 年 11 月閲覧）
- 4「指定文化財」（北九州市 HP、令和 6 年 11 月閲覧）
- 5「都市景観資源・景観重要建造物の指定について」（北九州市 HP、令和 6 年 11 月閲覧）



第 3.1-34 図 景観資源の位置

(2) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施区域及びその周囲の人と自然との触れ合いの活動の場の状況は第 3.1-77 表及び第 3.1-35 図のとおりであり、「日明・海峡釣り公園」、「手向山公園」等が分布する。

第 3.1-77 表 人と自然との触れ合いの活動の場

図中 番号	区分	名称	概要	出典
1	公園・レジャー	日明・海峡釣り公園	家族連れなど多くの人に利用されている釣り公園。散歩等の利用も多い。	5
2	公園・レジャー	手向山公園	武蔵と小次郎の碑がある公園。眼下に響灘と関門海峡を望み、展望広場からは舟島（巖流島）を望むこともできる。	1、2
3	自然探勝	足立公園	足立山麓に広がる都心に近い自然豊かな公園。「森林浴の森日本百選」のひとつにも選ばれている。	2
4	公園・レジャー	勝山公園（小倉城）	北九州市のシンボル公園で、小倉城を中心に小倉城庭園などの観光・文化施設、多彩なイベントができる大芝生広場などがある。	2、3
5	自然探勝	到津の森公園	「市民と自然を結ぶ窓口」を基本理念とし、自然や動物とのふれあいを通して学習する自然環境教育施設。	2
6	自然探勝	中央公園（金毘羅山）	戸畑区と小倉北区、八幡東区の一部を含む広大な公園。金毘羅山の登山道には桜並木があり、山頂からは響灘などを眺めることができる。	1、2、3
7	自然探勝	天籟寺川（ホタル鑑賞地）	戸畑区東鞘ヶ谷町～西鞘ヶ谷町付近にゲンジボタルが飛翔する。見ごろは5月下旬～6月初旬。	4
8	自然探勝	高見三条さくら公園	山桜、ソメイヨシノ、楊貴妃桜などが約1か月ほど咲き競う公園。	2、3
9	公園・レジャー	美術の森公園	北九州市立美術館を取り囲む緑多き公園。美術館へ至る道沿いには数々の彫刻が配されており、木々の美しさとともに野外の彫刻を鑑賞できる。	1、2、3
10	自然探勝	夜宮公園	戸畑区夜宮にある自然豊かな景観を残した公園。梅や桜の名所として有名で、市内を代表する花菖蒲の名所としても知られている。	1、2、3
11	自然探勝	境川河口	干潟のできる河口には多くの貝類やハクセンシオマネキなどが生息し、カモ類、シギ類、カモメ類なども立ち寄る。	1
12	公園・レジャー	都島展望公園	多目的グラウンドなどが整備されスポーツを楽しむ公園。山頂部の展望台からは洞海湾などの景観が一望できる。	1、2
13	公園・レジャー	高塔山公園	標高 124m の高塔山の山頂にある公園。展望台から若戸大橋や響灘、玄界灘などを望むことができる。	1、2、3

注：1. 図中番号は、第 3.1-35 図中の番号に対応する。

2. 「出典」の番号は、以下の文献その他の資料の番号に対応する。

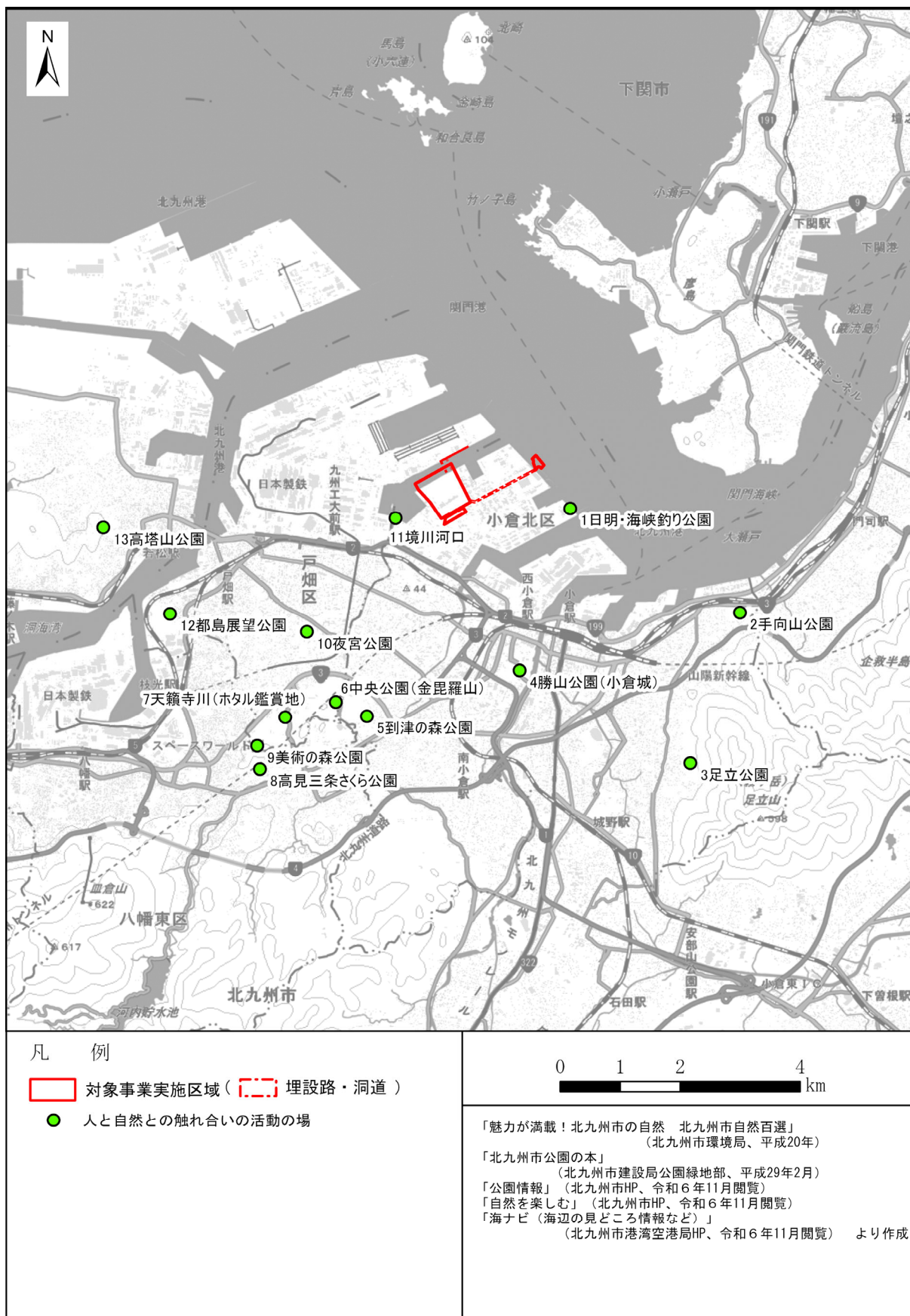
1「魅力が満載！北九州市の自然 北九州市自然百選」（北九州市環境局、平成 20 年）

2「北九州市公園の本」（北九州市建設局公園緑地部、平成 29 年 2 月）

3「公園情報」（北九州市 HP、令和 6 年 11 月閲覧）

4「自然を楽しむ」（北九州市 HP、令和 6 年 11 月閲覧）

5「海ナビ（海辺の見どころ情報など）」（北九州市港湾空港局 HP、令和 6 年 11 月閲覧）



第 3.1-35 図 人と自然との触れ合いの活動の場の位置

3.1.7 一般環境中の放射性物質の状況

対象事業実施区域の周囲における一般環境中の空間放射線量は第 3.1-78 表、測定地点の位置は第 3.1-36 図のとおりである。

対象事業実施区域の南西約 15km の福岡県八幡総合庁舎に福岡県が監視しているモニタリングポスト（北九州市八幡西区 八幡総合庁舎）があり、令和 4 年度における空間放射線量の年平均値は $0.060 \mu\text{Sv/h}$ である。

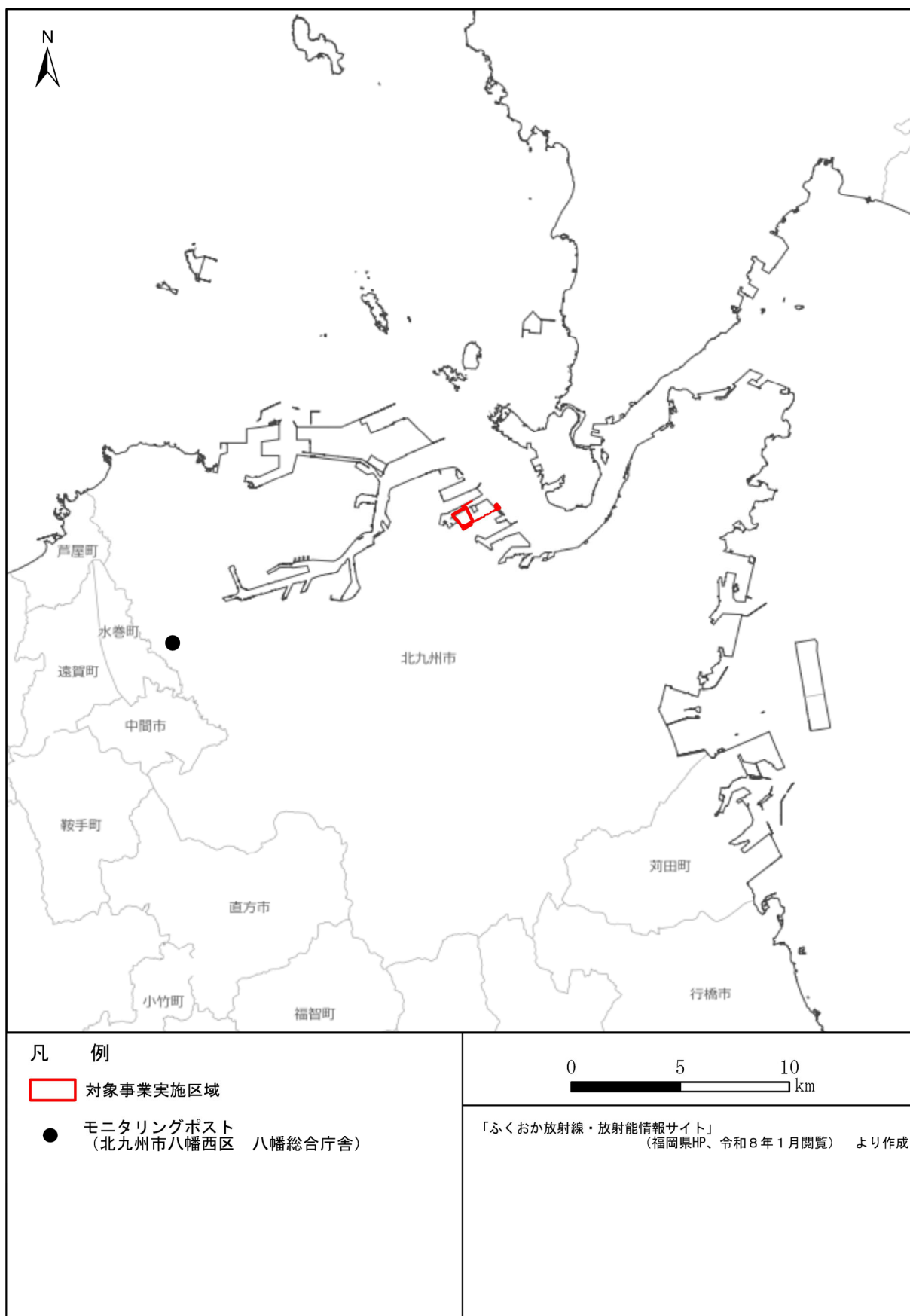
第 3.1-78 表 空間放射線量の測定結果（平成 30 年度～令和 4 年度）

（単位： $\mu\text{Sv/h}$ ）

モニタリングポスト名	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
北九州市八幡西区 八幡総合庁舎	0.061	0.061	0.061	0.061	0.060

注：「放射線モニタリング情報」（原子力規制委員会ウェブサイト）に掲載されているモニタリングポスト CSV ファイルデータを基に、年度平均値を算出した。

「放射線モニタリング情報」（原子力規制委員会ウェブサイト、令和 8 年 1 月閲覧）より作成



第 3.1-36 図 モニタリングポスト（北九州市八幡西区 八幡総合庁舎）の位置